

# 新東京国際空港 埋蔵文化財発掘調査報告書 XVII

香山新田安戸台遺跡（空港No.9 遺跡）

取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）

平成14年3月

新東京国際空港公団

財団法人 千葉県文化財センター

# 新東京国際空港

## 埋蔵文化財発掘調査報告書 XVII

かやましんでんやすどだい  
香山新田安戸台遺跡 (空港No.9 遺跡)  
とっこう わ だ と  
取香和田戸遺跡 (空港No.60遺跡)



## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第431集として、新東京国際空港公団の新東京国際空港建設事業に伴って実施した山武郡芝山町香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）及び成田市取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器集中地点や、縄文時代早期の土器包含層が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また文化財の保護・普及のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成14年 3月25日

財団法人千葉県文化財センター

理事長 清水 新次

# 凡 例

1. 本書は、新東京国際空港予定地内の山武郡芝山町香山新田字安戸台128-1他に所在した香山新田安戸台<sup>かやましんでんやすとだい</sup>遺跡（空港No.9遺跡）及び成田市取香字和田戸に所在した取香和田戸<sup>とっこうわだど</sup>遺跡（空港No.60遺跡）の発掘調査報告書で、新東京国際空港関連の発掘調査報告書の第XVII集にあたるものである。
2. 発掘調査から報告書作成に至る業務は、新東京国際空港公団の委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもとに、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
3. 調査で使用した遺跡のコード番号は香山新田安戸台遺跡が409-026、取香和田戸遺跡が211-006である。
4. 発掘調査は、香山新田安戸台遺跡を平成3年度に、また取香和田戸遺跡を平成12年度に実施し、整理作業は、両遺跡とも平成13年度に実施した。
5. 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
6. 本書は東部調査事務所長折原繁の指導と助言のもとに、空港調査室長鳴田浩司、研究員永塚俊司が編集した。執筆は、香山新田安戸台遺跡を永塚俊司が、取香和田戸遺跡第3章第2節1を研究員小笠原永隆が、第3章第2節2を永塚俊司が担当し、その他は鳴田浩司が担当した。
7. 周辺地形航空写真は、香山新田安戸台遺跡が京葉測量株式会社による昭和42年・平成13年撮影のものを、取香和田戸遺跡は昭和42年同社撮影のものを使用した。
8. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
  - 第1図 新東京国際空港公団発行 1/2,500 新東京国際空港平面図14・15・17（昭和42年測量）
  - 第2図 新東京国際空港公団発行 1/2,500 新東京国際空港平面図11・14（昭和42年測量）
  - 第3図 国土地理院発行 1/25,000地形図「新東京国際空港」（NI-54-19-10-1）、「成田」（NI-54-19-10-3）  
「多古」（NI-54-19-10-2）、「酒々井」（NI-54-19-10-4）第42図 成田市発行 1/2,500成田市地形図43（平成3年測量・平成7年3月修正）
9. 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
10. 本書に収録した遺物及び記録類は、当文化財センターで保管している。
11. 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の諸機関・諸氏から多くの御協力・御指導をいただいた。それぞれ記して謝意を表する。（順不同）  
千葉県教育庁生涯学習部文化課、成田市教育委員会、芝山町教育委員会、新東京国際空港公団の関係者各位

# 本文目次

## 序 文 凡 例 目 次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
第2節 遺跡の位置と周辺遺跡	2
第2章 香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）	9
第1節 調査の概要	9
1 調査の方法と成果	9
2 基本層序	9
第2節 旧石器時代	12
1 概要	12
2 炭化物集中地点	13
3 石器集中地点	14
4 石器集中地点外	42
第3節 縄文時代	58
1 遺構	58
2 遺物	58
第3章 取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）	60
第1節 調査の概要	60
1 調査の方法と成果	60
2 基本層序	60
第2節 遺物	62
1 土器	62
2 石器	68
第4章 まとめ	69

抄録

# 挿 図 目 次

第1章	第2章
第1図 香山新田安戸台遺跡調査範囲図	第4図 確認調査グリッド
第2図 取香和田戸遺跡調査範囲図	第5図 本調査範囲と遺構配置
第3図 周辺遺跡	第6図 基本層序
	第7図 炭化物集中地点

第8図	石器集中1	出土状況	15	第29図	石器集中6	出土石器(1)	39
第9図	石器集中1	出土石器	16	第30図	石器集中6	出土石器(2)	40
第10図	石器集中2	出土状況	17	第31図	石器集中6	出土石器(3)	41
第11図	石器集中2	出土石器	18	第32図	石器集中7	出土石器	42
第12図	石器集中3	出土石器	19	第33図	石器集中7	出土状況	43
第13図	石器集中3	出土状況	20	第34図	石器集中地点外1		
第14図	石器集中4	出土状況	22			出土状況と出土石器	44
第15図	石器集中4	出土石器(1)	23	第35図	石器集中地点外2	出土状況	45
第16図	石器集中4	出土石器(2)	24	第36図	石器集中地点外3	出土状況	45
第17図	石器集中4	出土石器(3)	25	第37図	土坑		59
第18図	石器集中4	出土石器(4)	26	第38図	陥穴		59
第19図	石器集中4	出土石器(5)	27	第39図	縄文土器		59
第20図	石器集中4	出土石器(6)	28	第40図	石鏃		59
第21図	石器集中4	出土石器(7)	29	第3章			
第22図	石器集中4	出土石器(8)	30	第41図	基本層序		60
第23図	石器集中4	出土石器(9)	31	第42図	確認調査グリッド		61
第24図	石器集中5	出土状況	33	第43図	遺物分布図		63
第25図	石器集中5	出土石器(1)	34	第44図	縄文土器(1)		64
第26図	石器集中5	出土石器(2)	35	第45図	縄文土器(2)		65
第27図	石器集中5	出土石器(3)	36	第46図	縄文土器(3)		66
第28図	石器集中6	出土状況	38	第47図	石器		68

## 表 目 次

第1章				第10表	旧石器観察表(2)		48
第1表	空港用地内及び空港関連の遺跡一覧		7	第11表	旧石器観察表(3)		49
第2章				第12表	旧石器観察表(4)		50
第2表	石器集中1	石器組成表	46	第13表	旧石器観察表(5)		51
第3表	石器集中2	石器組成表	46	第14表	旧石器観察表(6)		52
第4表	石器集中3	石器組成表	46	第15表	旧石器観察表(7)		53
第5表	石器集中4	石器組成表	46	第16表	旧石器観察表(8)		54
第6表	石器集中5	石器組成表	46	第17表	旧石器観察表(9)		55
第7表	石器集中6	石器組成表	46	第18表	旧石器観察表(10)		56
第8表	石器集中7	石器組成表	46	第19表	旧石器観察表(11)		57
第9表	旧石器観察表(1)		47	第3章			
				第20表	出土土器一覧		67

# 図版目次

## 香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）

図版1 航空写真（昭和42年・平成13年）

図版2 下層調査風景  
炭化物集中地点

図版3 石器集中1～3

図版4 石器集中4  
石器集中5

図版5 石器集中6  
石器集中7  
石器集中地点外1  
石器集中地点外2

図版6 1号土坑  
1号陥穴  
2号陥穴  
2号土坑

図版7 石器集中1・2・3

図版8 石器集中4（1）

図版9 石器集中4（2）

図版10 石器集中4（3）・5

図版11 石器集中6・7  
石器集中地点外1  
縄文土器・石鏃

## 取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）

図版12 航空写真（昭和42年）

図版13 確認調査

図版14 縄文包含層本調査

図版15 縄文土器（1）

図版16 縄文土器（2）

図版17 縄文土器（3）・石器

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

財団法人千葉県文化財センターでは、新東京国際空港予定地内及び関連事業地内に所在する遺跡について千葉県教育委員会の指導のもとに、新東京国際空港公団の委託により、昭和51年度から計画的・継続的に発掘調査・整理作業を実施し、これらの発掘調査成果の一部はすでに報告書として刊行されている<sup>1)</sup>。

今回報告する山武郡芝山町香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）、成田市取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）についても、千葉県教育委員会が新東京国際空港公団と遺跡の取り扱いについて慎重に協議した結果、記録保存の措置がとられることとなった。そこで、当センターは新東京国際空港公団と発掘調査の実施について調整を行い、新東京国際空港建設事業地内埋蔵文化財調査業務として香山新田安戸台遺跡を平成3年度に、取香和田戸遺跡を平成12年度に発掘調査することとなった。その後、年度計画に基づき、両遺跡とも平成13年度に整理作業を実施した。各遺跡・各年度毎の作業内容及び担当職員は下記の通りである。

なお、取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）の一部については、昭和53年度から55年度にわたって発掘調査を実施し、すでに『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ』として平成6年に報告書が刊行されている<sup>2)</sup>。

### 香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）

#### 〔発掘〕

期 間	平成3年4月1日～平成3年8月30日
調査対象面積	18,000㎡、上層確認調査面積 1,524㎡、下層確認調査面積 1,440㎡ 下層本調査面積 600㎡
担 当 者	班 長 宮 重行 班 長 代 理 岡田誠造 主 任 技 師 上守秀明 技 師 新田浩三、渡邊高弘

#### 〔整理〕

期 間	平成13年4月1日～平成13年10月31日
作 業 内 容	水洗・注記～報告書刊行
担 当 者	東部調査事務所長 折原 繁 空 港 調 査 室 長 鳴田浩司 研 究 員 永塚俊司

## 取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）

### 〔発掘〕

期 間 平成12年 6 月15日～平成12年 7 月17日  
調査対象面積 4,000㎡， 上層確認調査面積 320㎡， 下層確認調査面積 320㎡  
上層本調査面積 520㎡  
担 当 者 東部調査事務所長 折原 繁  
主席 研 究 員 宮 重行  
研 究 員 小笠原永隆

### 〔整理〕

期 間 平成13年 8 月 1 日～平成13年10月31日  
内 容 水洗・注記～報告書刊行  
担 当 者 東部調査事務所長 折原 繁  
空 港 調 査 室 長 鳴田浩司  
研 究 員 黒沢 崇

## 第 2 節 遺跡の位置と周辺遺跡

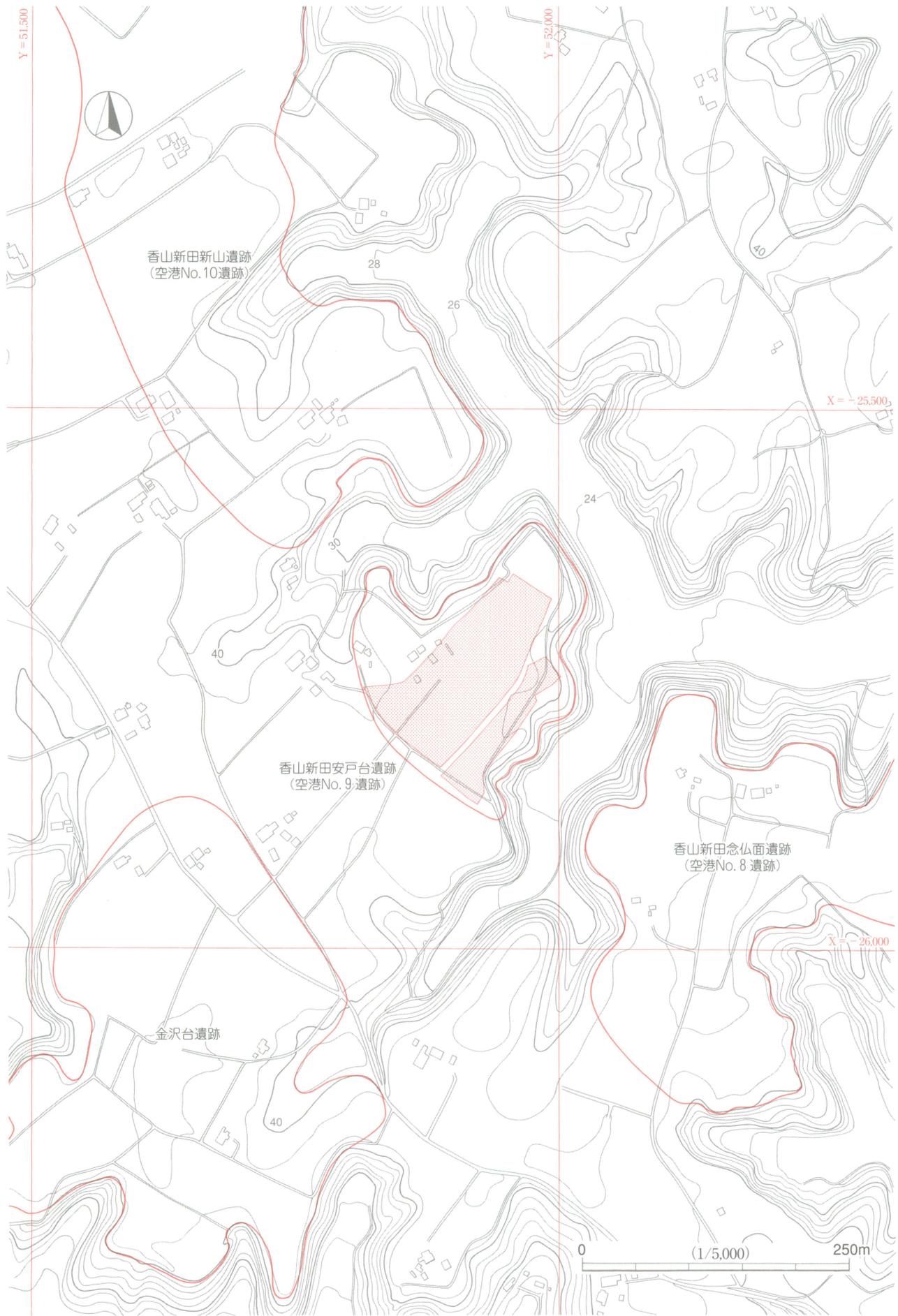
遺跡の位置 空港周辺地域には、利根川へ北流する河川と九十九里方面へ南流する河川の分水界が走り、全体としては比較的広い平坦な台地の広がりを見ることができ、源流域では特に八つ手状に開析を受けた台地が密集する。遺跡はそのような開析を受けた舌状台地上に立地するのが一般的で、両遺跡も例外ではない。

香山新田安戸台遺跡（空港No.9 遺跡）は、山武郡芝山町香山新田字安戸台128-1他に所在する。空港事業地内ではちょうど平行滑走路南東端にあたり、遺跡は九十九里方面へ南流し光町，多古町，横芝町の三町の境界で栗山川本流へ合流する高谷川の源流域に突出する、標高約41mの舌状台地に立地する。

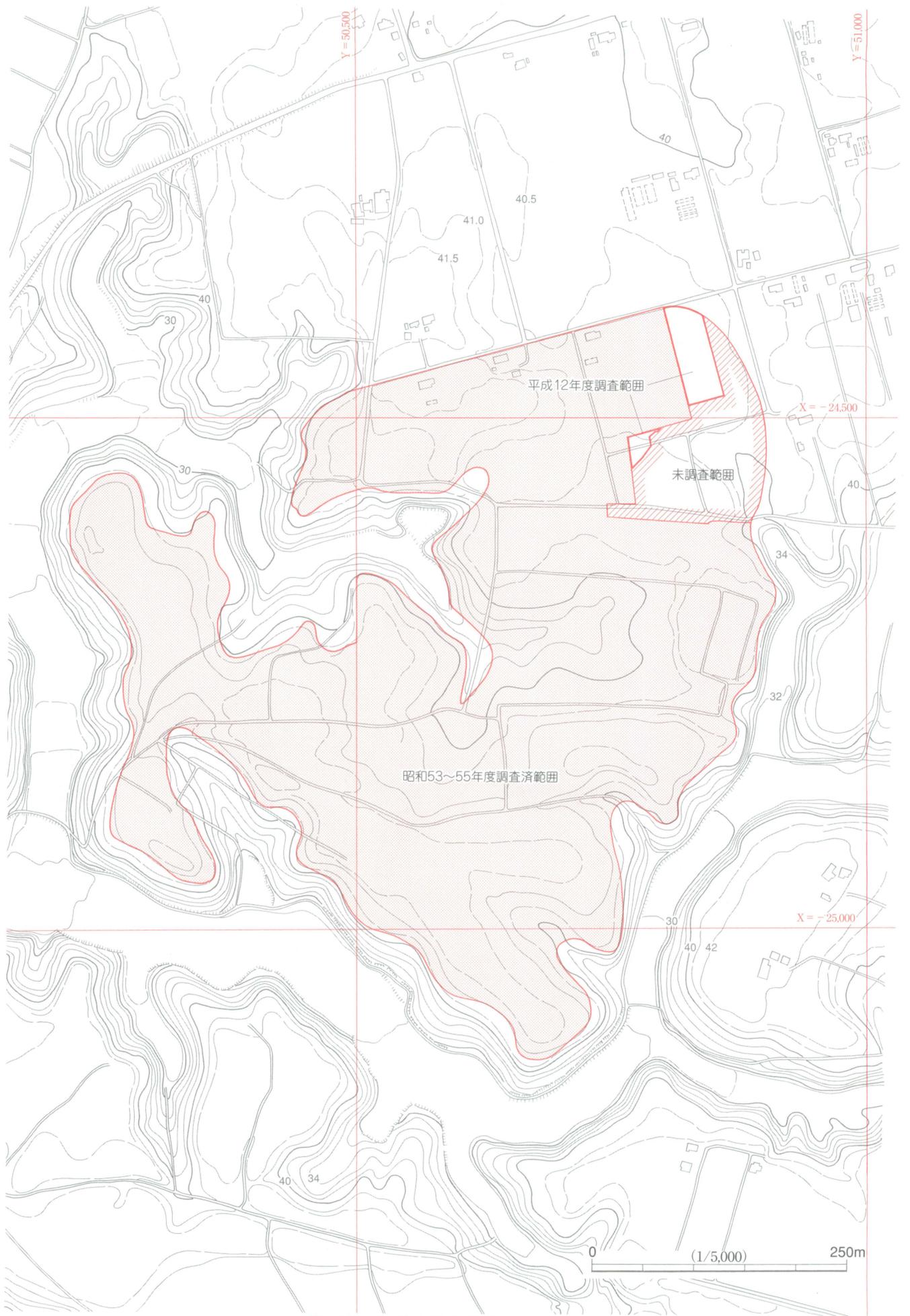
一方、取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）は、成田市取香字和田戸地先に所在する。空港建設予定地内では、現第2旅客ターミナルビルの北側1 kmに位置する。遺跡は、利根川に向かって北流する取香川の源流域に突出する標高約40mの舌状台地上に立地する。

取香和田戸遺跡は昭和53年度から55年度にかけての調査の結果、旧石器時代では、立川ロームⅨ層～Ⅲ層にかけて6枚の文化層と、46か所に及ぶ石器集中地点が検出され、有樋尖頭器を主体とする質量共に充実した第2文化層が注目される。縄文時代では類例の少ない撚糸文期の竪穴住居跡が6軒検出され、住居の中央がやや深く、壁際がやや浅い皿状を呈することや、住居の中央からややはずれて覆土に炭化粒が多く含まれるピットを伴うくぼみが検出されるなどの住居形態が明らかになった。また、小礫の礫群がまとまって出土し、炉穴や集石土坑との関連性がとらえられた。さらに、奈良・平安時代では8世紀前半と9世紀前半の製鉄関連遺構を検出し、燃料生産にはじまり精錬・選別から鍛造・鍛冶に至る各工程が明らかになった。この調査は後の東峰御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡）<sup>3)</sup>、一鉄田甚兵衛山北遺跡（空港No.11遺跡）<sup>4)</sup>、香山新田中横堀遺跡（空港No.7 遺跡）<sup>5)</sup> など一連の製鉄関連遺跡発掘調査の先駆けとなった。

周辺の遺跡 香山新田安戸台遺跡周辺には、高谷川本流から西へ延びる支流に挟まれて複雑に開析された台地上に遺跡が密集し、香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）<sup>6)</sup>、香山新田念仏面遺跡（空港No.8 遺跡）、



第1図 香山新田安戸台遺跡調査範囲図



第2図 取香和田戸遺跡調査範囲図

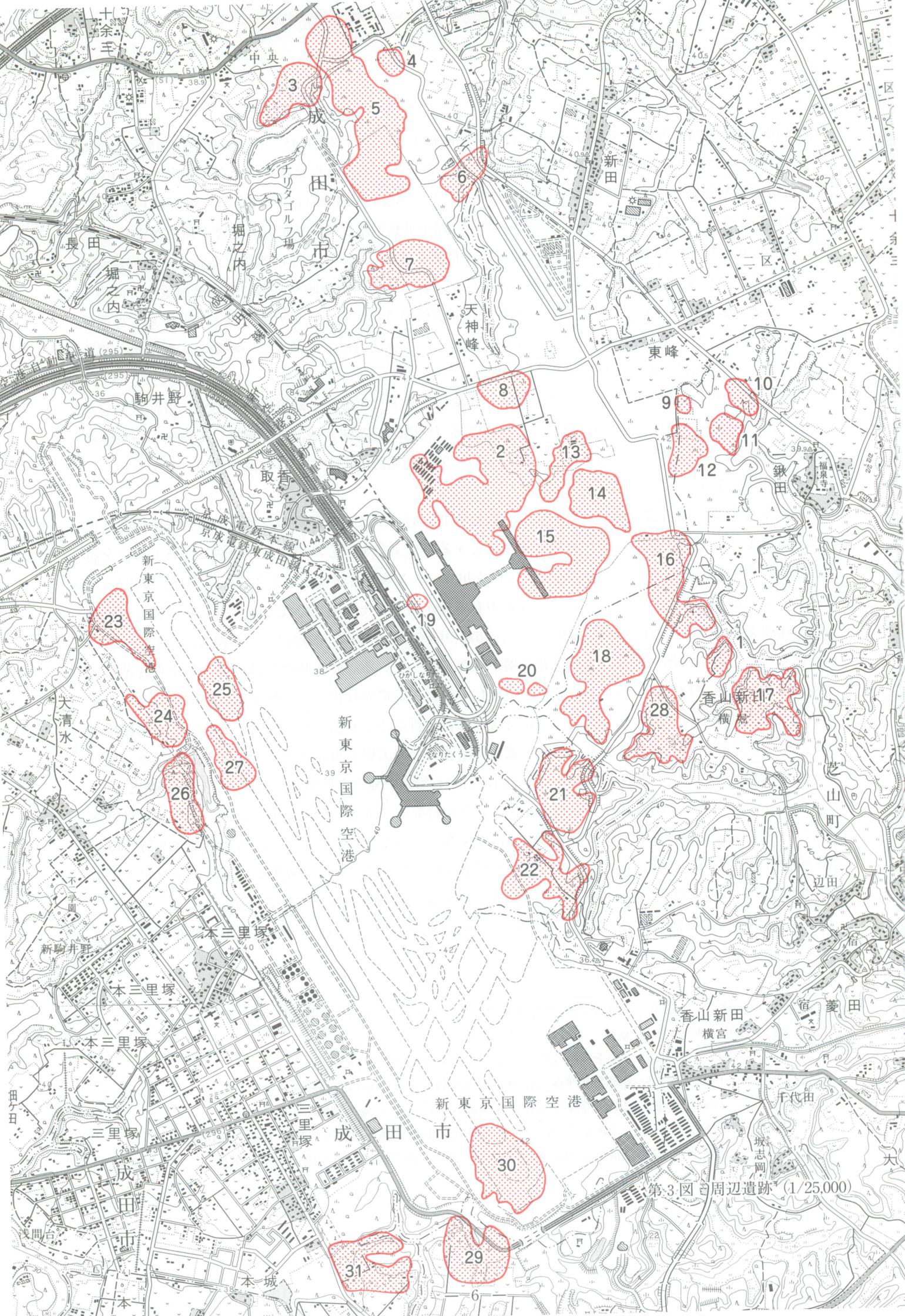
香山新田中横堀遺跡（空港No.7遺跡）、金沢台遺跡が隣接する。旧石器時代は、香山新田新山遺跡ではⅢ層（ソフトローム層）中の良好な石器群と礫群、第2黒色帯を主体とする炭化物集中などが検出されている。香山新田中横堀遺跡では有樋尖頭器を伴う石器群と、Ⅵ～Ⅶ層中の有樋石刃を伴う石器群が目される。また平成12年度から13年度にわたり、建設センター・保全事務所建設に伴う金沢台遺跡の調査が実施され、旧石器時代立川ロームⅨ層～Ⅲ層にかけて数枚の文化層を検出している。今回報告する香山新田安戸台遺跡では縄文時代の遺構・遺物ともに分布密度が低い、香山新田新山遺跡や香山新田中横堀遺跡では多くの陥穴・炉穴等の遺構、早期を中心とした土器包含層が検出されている。金沢台遺跡の状況を見ても同時期の遺物分布はそれほど濃密な状況を示さないことから、各支流の最上流域にこの時期の人類活動の痕跡が集中することが現状で把握される。

一方、取香和田戸遺跡に隣接する遺跡には、北側同一台地上に東峰西笠峰遺跡（空港No.63遺跡）<sup>7)</sup>があり、また本遺跡と谷を隔てた東側に東峰御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡）が、その南側に東峰御幸畑東遺跡（空港No.62遺跡）、さらに南側に古込遺跡（空港No.14・55・56遺跡）<sup>8)</sup>がちょうど取香和田戸遺跡を中心とした同心円上に展開する。

東峰西笠峰遺跡の旧石器時代では立川ロームⅨ層～Ⅱc層にかけて4か所の石器集中地点を、縄文時代では陥穴5基をはじめとして、田戸下層式を主体とする早期土器を中心に早期から晩期までの土器包含層を検出した。東峰御幸畑西遺跡の旧石器時代では立川ロームⅨ層～Ⅲ層にかけて3枚の文化層を確認した。環状石器集中群が2地点検出され、北方系細石刃石器群が出土した。縄文時代では撚糸文期の竪穴住居跡3軒、沈線文期の竪穴状遺構2軒、14基の炉穴、16基の陥穴の他、約35,000㎡にわたる縄文時代遺物包含層を確認した。土器では撚糸文系、沈線文系土器が主体をなしている。弥生時代では後期中葉から後葉にかけての竪穴住居跡が18軒検出されており、弥生時代の遺物・遺構が検出される例が稀な地域にあって、極めて貴重な発見例となっている。奈良・平安時代では台地斜面部から精錬炉や炭窯、砂鉄・粘土採掘坑などが検出され、原料の調達から加工、精錬・選別に至るまでの工程を復元することが可能となった。現在整理作業が進められている東峰御幸畑東遺跡は14か所の石器集中地点を検出し、複数の文化層を確認した。立川ロームⅨ層中から検出された黒曜石を主体とした石器群と、Ⅲ層中から検出した安山岩・珪質頁岩を主体とした形態的にバリエティーに富んだ尖頭器を保有する石器群が見られる。古込遺跡ではⅨ層（現在のⅨ層段階）から局部磨製石斧・ナイフ形石器・楔形石器をはじめとした小規模な石器集中地点が1か所検出されている。縄文時代では条痕文系土器を主体とする遺物包含層が確認されている。

また空港用地内には他に数多くの遺跡が所在し、すでに刊行された空港予定地内の報告書もあり、各遺跡と報告書を対照できるよう第1表にまとめた。

注1 西野 元他 1971『三里塚 新東京国際空港用地内の考古学的調査』(財)千葉県北総公社  
宮 重行・池田大助・野口行雄他 1981『木の根』  
〔以下すべて編集・発行は〕(財)千葉県文化財センター・新東京国際空港公団  
野口行雄他 1983『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ No.14遺跡』  
西川博孝他 1984『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ - No.7遺跡-』  
川島利道・雨宮龍太郎 1985『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ No.2遺跡 No.10遺跡』  
金丸 誠・矢本節朗 1990『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ - 成田市木戸下遺跡・富里町七栄古込遺跡-』



第3図 白岡周辺遺跡 (1/25,000)

第1表 空港用地内及び空港関連の遺跡一覧

	遺 跡 名 称	所 在 地				報 告 書
		市町村	大字	小字	番地	
1	香山新田安戸台遺跡(空港No.9遺跡)	山武郡芝山町	香山新田	安戸台	128・1他	
2	取香和田戸遺跡(空港No.60遺跡)	成田市	取香	和田戸	711他	1994 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶで一部報告済み。
3	十余三稲荷峰西遺跡(空港No.68遺跡)	成田市	十余三	稲荷峰	151・75他	2000 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅡ
4	十余三稲荷峰東遺跡(空港No.66遺跡)	成田市	十余三	稲荷峰	151・29他	2001 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅥ
5	十余三稲荷峰遺跡(空港No.67遺跡)	成田市	十余三	稲荷峰	151・262他	(整理中)
6	天神峰奥之台遺跡(空港No.65遺跡)	成田市	天神峰	奥之台	17他	1997 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ
7	天神峰最上遺跡(空港No.64遺跡)	成田市	天神峰	最上	14・1他	2001 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅤ
8	東峰西笠峰遺跡(空港No.63遺跡)	成田市	東峰	西笠峰	25・2	1997 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅠ
9	一畷田甚兵衛山遺跡	香取郡多古町	一畷田	甚兵衛山	454・1他	1997 多古町一畷田甚兵衛山遺跡-刈り草置場埋蔵文化財調査報告書-
10	一畷田甚兵衛山北遺跡(空港No.11遺跡)	香取郡多古町	一畷田	甚兵衛山	472・2他	1995 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ
11	一畷田甚兵衛山南遺跡(空港No.12遺跡)	香取郡多古町	一畷田	甚兵衛山	454・22他	1986 「研究紀要10」一部掲載。 (整理中)
12	一畷田甚兵衛山西遺跡(空港No.16遺跡)	香取郡多古町	一畷田	甚兵衛山	454・14他	2001 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅣ
13	東峰御幸畑西遺跡(空港No.61遺跡)	成田市	東峰	御幸畑	89・1他	2000 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅢ
14	東峰御幸畑東遺跡(空港No.62遺跡)	成田市	東峰	御幸畑	89他	(整理中)
15	古込遺跡(空港No.14・55・56遺跡)	成田市	古込	古込		No.14に含める。1971 「三里塚」 1983 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ
16	香山新田新山遺跡(空港No.10遺跡)	山武郡芝山町	香山新田	新山	106他	1985 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴで一部報告済み。 (一部整理中)
17	香山新田念仏面遺跡(空港No.8遺跡)	山武郡芝山町	香山新田	念仏面		(未調査)
18	香山新田中横堀遺跡(空港No.7遺跡)	山武郡芝山町	菱田	上金沢	1565	1984 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ 1993 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ
19	古込込前遺跡(空港No.22遺跡)	成田市	古込	込前		「三里塚」報告
20	古込朝日台遺跡(空港No.13遺跡)	成田市	古込	朝日台		「三里塚」報告
21	木の根拓美遺跡(空港No.6遺跡)	成田市	木の根	拓美	192他	1981 「木の根」 1993 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ
22	木の根東台遺跡(空港No.5遺跡)	成田市	木の根	東台	217他	「木の根」報告
23	駒井野新堀遺跡(空港No.21遺跡)	成田市	駒井野	新堀		
24	駒井野新田遺跡(空港No.20遺跡)	成田市	駒井野新田			
25	天浪浪丘遺跡(空港No.19遺跡)	成田市	天浪	浪丘		「三里塚」報告
26	駒井野横谷津遺跡(空港No.17遺跡)	成田市	駒井野	横谷津		
27	天浪大里遺跡(空港No.18遺跡)	成田市	天浪	大里		「三里塚」報告
28	金沢台遺跡	山武郡芝山町	香山新田	金沢台	80他	(平成12年度～13年度調査実施)
29	岩山中袋遺跡(空港No.2遺跡)	山武郡芝山町	岩山	中袋	2016他	1985 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ 1997 「土木保守管理センター等埋蔵文化財調査報告書」
30	東三里塚吉野台遺跡(空港No.3・51・52遺跡)	成田市	東三里塚	吉野台		No.3に含める。「三里塚」報告
31	南三里塚宮園遺跡(空港No.4遺跡)	成田市	南三里塚	宮園	6他	1993 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ



## 第2章 香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）

### 第1節 調査の概要

#### 1 調査の方法と成果

発掘調査を始めるにあたり、調査対象区域に公共座標にあわせて、50m×50mの大グリッドを設定した。その大グリッド内をさらに5m×5mに分割し、100個の小グリッドを設定した。大グリッドの基点は昭和54年度に発掘調査を実施した香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）のものを踏襲し<sup>1)</sup>、0 Aの北西隅をX=-25,000・Y=51,500とし、北から南へ0, 1, 2, ……、西から東へA, B, C, ……と記号をつけた。小グリッドは北から南へ00, 10, ……90, 西から東へ00, 01, ……09と番号を振り、大グリッドと組み合わせで呼称することとした。今回調査地点は13 I・13 J, 14 H~14 J, 15 G~15 J, 16 H・16 I, 17 I大グリッドにあたる（第4・5図）。

調査対象面積18,000㎡に対して、2m×2mの確認グリッドを調査区全域に配し1,440㎡の確認調査を行った。その結果、上層遺構は3か所の確認グリッドから縄文時代陥穴1基・土坑1基、近世土坑1基を検出し、そのまま調査区を拡張し遺構の調査にあたった。最終的には上層の確認調査範囲は1,524㎡となり、他に遺構の広がりが見られず、遺物包含層が検出されなかったことから本調査は不要と判断された。下層確認の深度は武蔵野ローム上面で、立川ロームに包含される石器群・遺構の有無について調査を行った。その結果、立川ロームⅨ層~Ⅹ層にかけて10か所の確認グリッドから石器・炭化材が検出され、600㎡の本調査が実施された。本報告では、石器集中の広がりが見られた7か所について石器集中1~7と呼称し、本調査によって広がりが見られなかった地点については石器集中地点外1・2と呼称した。また、石器群を伴わない炭化物集中地点1か所がⅨ層中から検出された。なお、下層本調査範囲からは新たに縄文時代陥穴が1基検出され、上層遺構に追加された。

#### 2 基本層序

15I62グリッド西壁土層断面を第6図に示した。平成2年にセンター内で共通理解を得た標準土層<sup>2)</sup>を踏襲したものであり、特に解説はいらないが、本遺跡ではⅩ層をソフトローム中で独立させⅣ層~Ⅴ層をソフトローム部分とハードローム部分に分離した点に特徴がある。ソフトロームとハードロームの境界は波線によって示し、第1黒色帯に相当するⅤ層部分はスクリーントーンを任意に貼っている。

Ⅲ層 ソフトローム層。立川ローム最上層。

Ⅳ~Ⅴ層ソフト ソフトロームとハードロームの境界付近の上半部で  
Ⅳ層部分に大略相当する。

Ⅳ~Ⅴ層ハード ソフトロームとハードロームの境界付近の下半部で  
Ⅴ層部分に大略相当する。

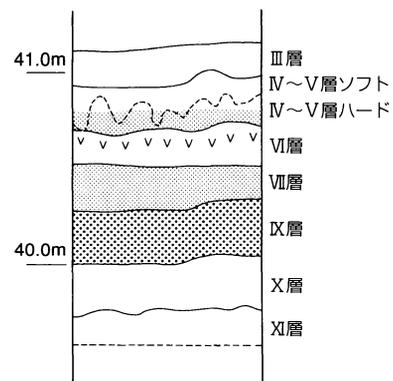
Ⅵ層 AT包含層。

Ⅶ層 第2黒色帯上半部。

Ⅷ層 第2黒色帯下半部。

Ⅸ層 立川ローム層最下層。

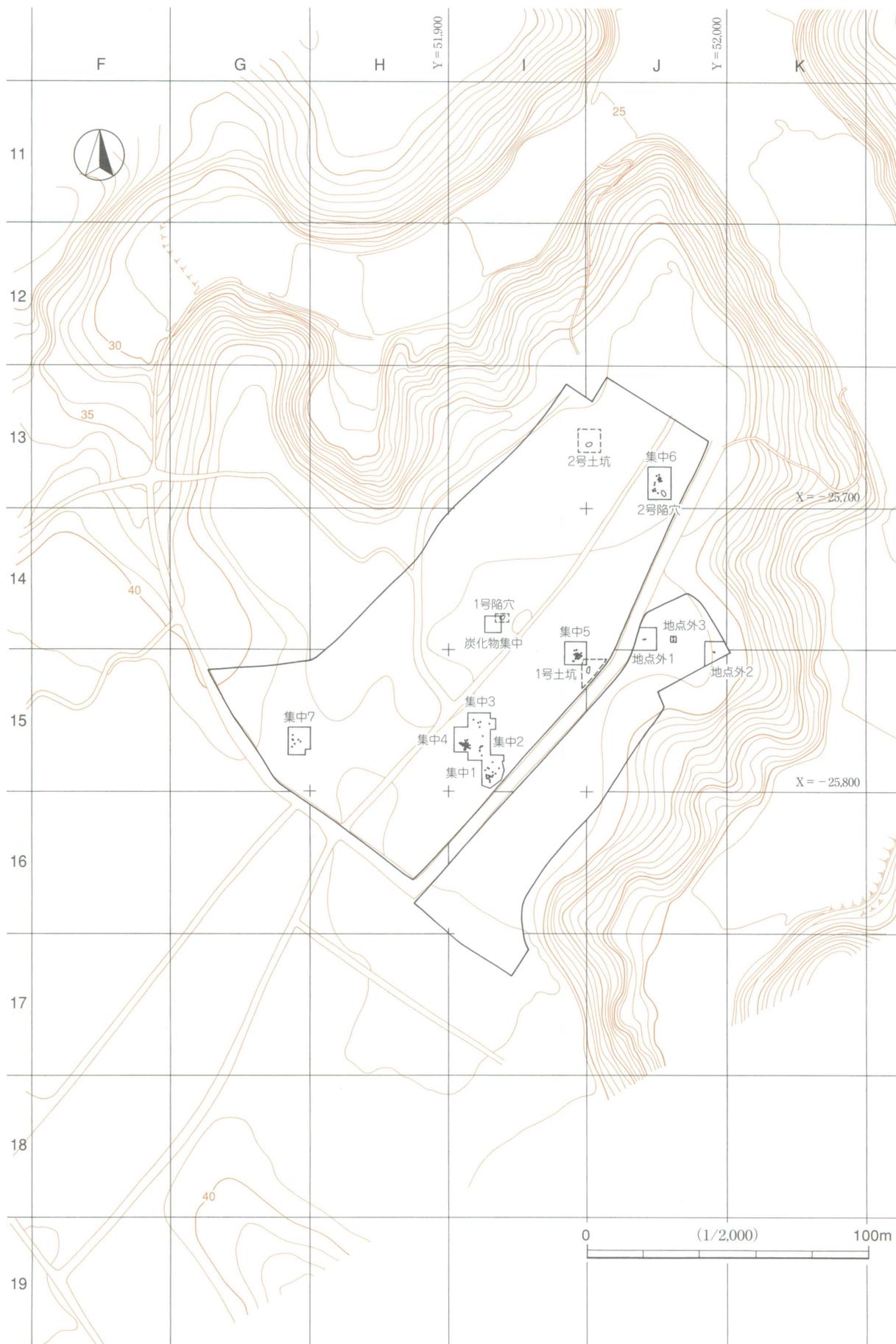
Ⅹ層 武蔵野ローム最上層。



第6図 基本層序（15 I 62西壁）



第4図 確認調査グリッド



第5図 本調査範囲と遺構配置

## 第2節 旧石器時代

### 1 概要

本遺跡では、下層確認調査の結果に基づき石器出土グリッドの周囲を拡張し、石器集中地点の様相を明らかにした。その結果、大きく二つの文化層と炭化物集中地点1か所を把握するに至った。

ここではまず、本報告の体裁について述べる。

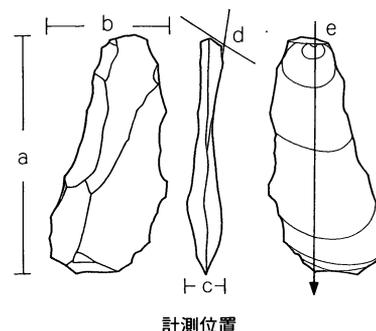
**分布図** 縮尺は1/100を基本とし、器種別・石材別の2種類を作成した。器種別の分布図には土層断面図に遺物の垂直分布をドットイングした図面を作成した。土層断面図の作成位置については平面図に「-」で示した。また、遺物の出土レベルを5cm刻みで区切ったヒストグラムをそれぞれに付けたが、その横には土層断面図を用いて作成した各層の分布範囲を示している。これは、土層断面図で同一層序の最高地点と最低地点を結んでその範囲を示したものであるため、前後の層はそれぞれ重なった状況となっている。そして各層が2本示してあるものについては、土層断面図が東西・南北で記録されている場合に限って、両者を示したものである。

**実測図** 出土石器実測図の縮尺は2/3と4/5のものを適宜使い分けている。各挿図にスケールを示した。ツール類と接合資料はすべて実測図を掲載した。挿図の遺物Noと分布図・写真図版の遺物Noは一致する。

**観察表** 各項目の内容を以下に記す。

- ・挿図No. 実測図を掲載した遺物の通し番号。平面分布図に付した番号，写真図版の番号と一致する。実測図を掲載しなかったものについてはグリッド，遺物No順に続けて並べた。
- ・器種 碎片については，最大長・最大幅の両者が10mm以下のものとした。
- ・最大長・最大幅・最大厚・打角 計測方法については下図に示した。
- ・打面形状 Cは自然面，Pは点状打面，Lは線状打面，1は平坦打面，2以上は複剥離打面を示し，括弧内はそのうちネガティブバルブの残る剥離面の数を示している。空欄は欠損等による打面なし，計測不可を示す。
- ・打面調整・頭部調整 観察されるものについて「○」で示した。
- ・背面構成 主要剥離面の剥離方向を基準とし，背面を構成する剥離面の加撃方向と剥離面の数を記した。ただし，変形度の高いもの（楔形石器等）は記さなかった。碎片はわかる範囲で記した。H=頭部側，T=尾部側，R=背面を正面にして右側，L=左側，D=背面側，V=腹面側からの加撃方向を示す。自然面（C），節理面（S）を有する資料については「○」で示した。
- ・折面部位 主要剥離面の剥離方向を基準とした折れ面の部位。H=頭部側，T=尾部側，R=背面を正面にして右側，L=左側を示す。
- ・末端 F=フェザーエンド，H=ヒンジフラクチャー，O=ウートラパッセを示す。
- ・石材 石材名とその母岩番号を記した。母岩の大別をアルファベットで，細別を数字で記した。細別は基本的に複数の石器が帰属する母岩のみを分類したものである。したがって，単独個体のものや細別困難なものについては石材名のみ，もしくは大別のみを行っている。石材の大別については本文中に記載した。
- ・層位 調査時の層名を記した。
- ・X座標・Y座標 測量原点からの位置関係を示す公共座標を示す。

a=最大長、b=最大幅、c=最大厚  
d=打角、e=加撃方向

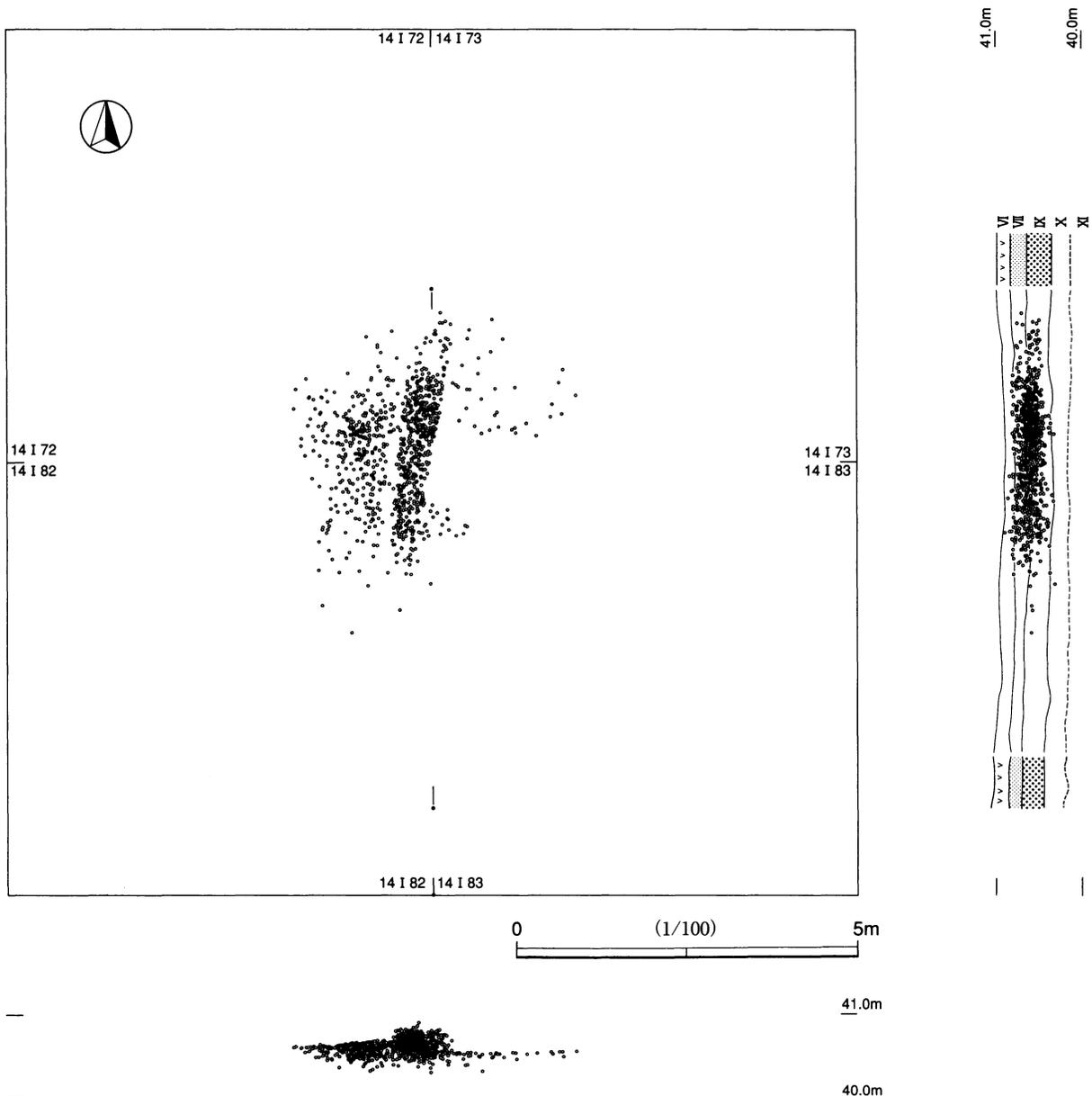


2 炭化物集中地点（第7図，図版2）

下層確認時に，14I83グリッド北西端から大型炭化材が検出された。確認調査段階ではこの大型炭化材のみを残して，立川ロームを完掘したため周辺の炭化粒の分布については記録が残っていないが（図面上で不自然に空白となっている部分），グリッド内に広がっていたことはまず間違いない。

さて，確認調査を受けた本調査は14I83グリッドの周辺6m四方について行われ，炭化物の出土位置が記録された。その結果，平面分布は径4mの範囲に広がり，特に中心部分の径2mの範囲は密集域を形成していることがわかる。大型炭化材もこの密集域の中心に位置していたものと推測される。出土層位はⅦ層下部～Ⅸ層上部を中心に分布し，そのピークはⅦ層・Ⅸ層の境界付近にある。上下差で約40cmの範囲に分布する。

掘り込み等の痕跡はなく，周辺からは石器（人工物）も検出されなかった。また，空港予定地内では同段階のよく似た炭化物集中地点が比較的多く検出されていることなどを理由に，本地域を含めた周辺地域に，Ⅸ層上部段階に大規模な「野火」の存在を指摘することもできようが，あくまで仮説の域を出ない。



第7図 炭化物集中地点

### 3 石器集中地点

#### (1) 第1文化層

出土層位がⅨ層（第2黒色帯下部）に相当する石器集中地点で、石器集中1～3が属する。各石器集中地点は15I区の南西側に隣接して位置し、安山岩を主体とした石材構成・器種組成は同一時期の様相を示している。先の炭化物集中地点よりも出土層位は下位にあり時期的には隔たっている。

##### a 石器集中1（第8・9図，第2・9表，図版3・7）

出土状況 15I82・83・92グリッドに位置する。舌状台地の付け根中央付近にあたる。長軸8m・短軸5mの範囲に疎らに広がり、径約5mにほとんどの遺物が収まる。出土層位はⅨ層上部～下部にあり、分布深度の平均値は標高39.997mとなりそのピークはⅨ層中部と判定される。

極少数の母岩を用いた小規模な剥片剥離が見られ、石核を中心として剥片・碎片類が周辺に散在する状況を呈している。

出土遺物 遺物総点数は31点で、剥片20・碎片6・石核2・礫1・礫片2点がある。礫・礫片以外は所謂「ガラス質黒色安山岩・黒色緻密質安山岩」（以下安山岩Aと呼称する）で占められ、その特徴も酷似したものであるから同一母岩である可能性が高いが剥離面の風化が激しく断定はできない。石核（7+8）以外は剥片・碎片のみで、2次加工の施されたものは検出されていない。安山岩A28点中、中・大型剥片は4、5点しかなく、他はすべて小型剥片あるいは碎片である。中・大型剥片の背面にはほぼ例外なく礫面が残されているため、母岩消費の初期の剥離工程が本地点で行われた蓋然性が高い。礫面の状況から見て比較的大きな原石が用いられていたことが推定される。

7+8は分厚い剥片を素材とした石核で、素材剥片の上半部（打面側）を中心に表裏に剥離痕が見られるが、主に主要剥離面側から小型剥片を剥離している（接合資料1）。他に剥離された小型剥片は遺跡外へ搬出されている。台形様石器の素材剥片として用いられた可能性が高い。

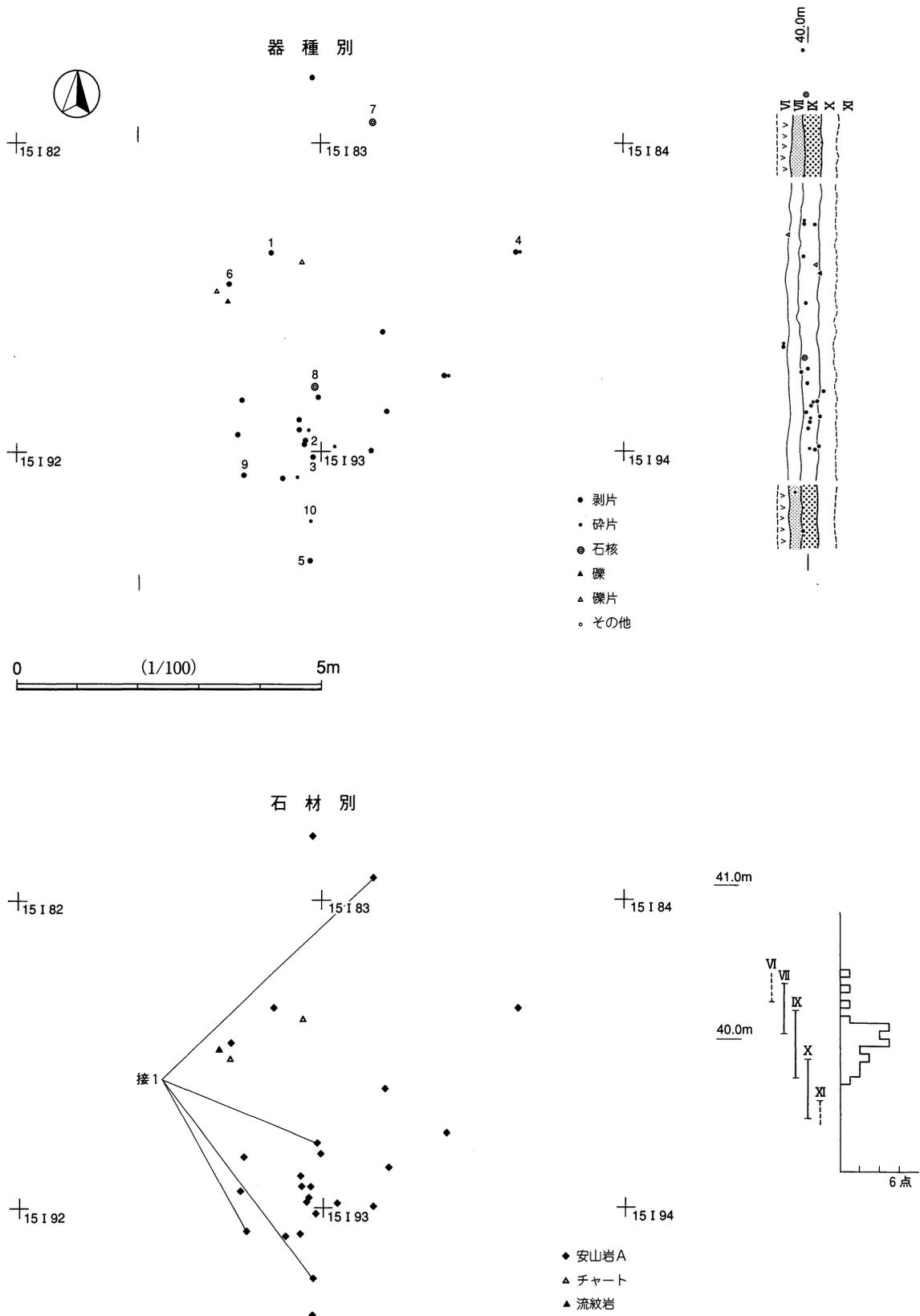
礫・破損礫は3点出土しているが、所謂「いも石」風で積極的に組成に含めづらいものである。

##### b 石器集中2（第10・11図，第3・9表，図版3・7）

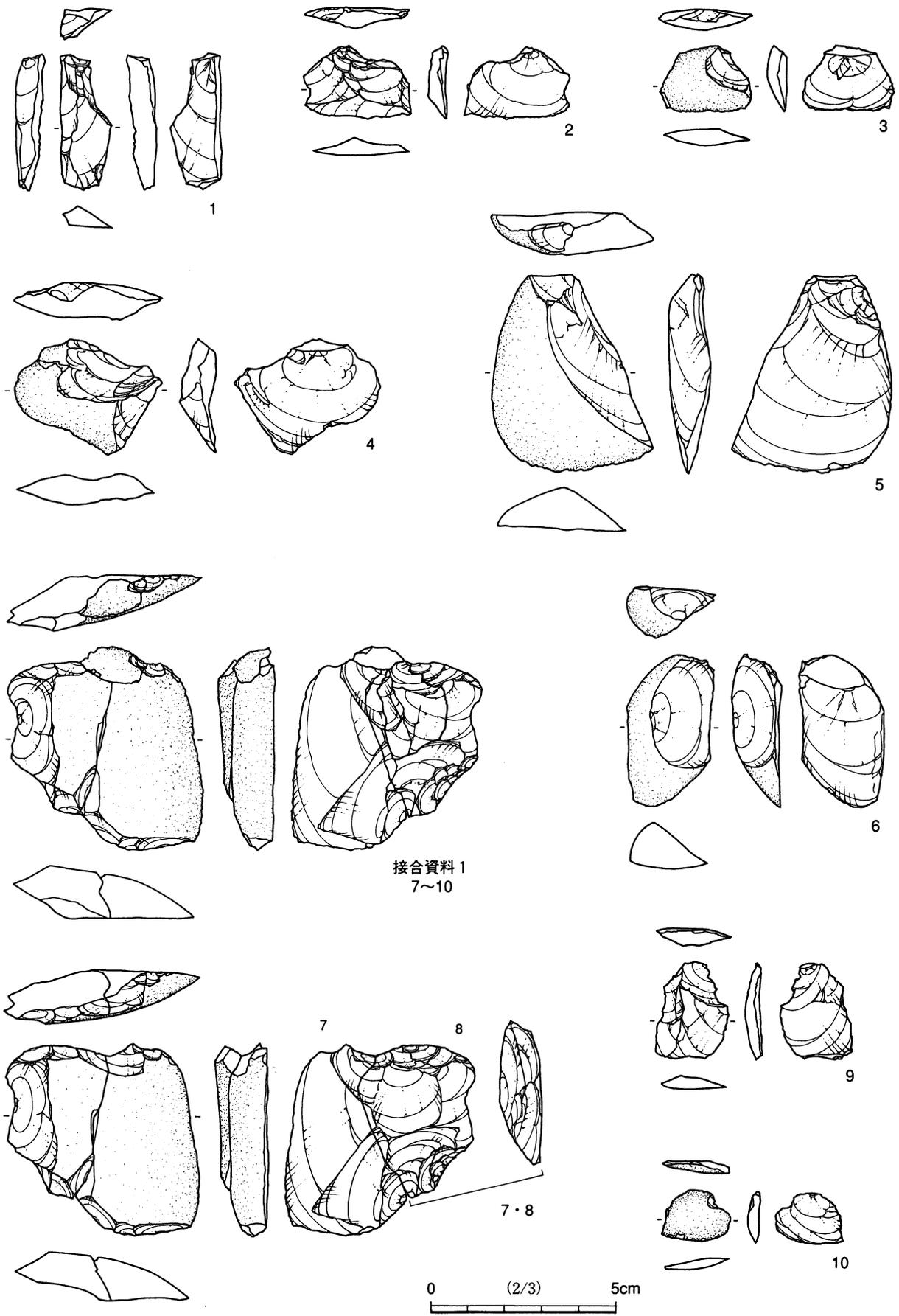
出土状況 15I62・72グリッドに位置し、石器集中地点1から北へ数m離れたところ隣接している。平面分布は長軸7m・短軸1mの範囲に収まり、散漫な帯状分布となっている。調査時の出土層位の所見はⅨ層下部であるが、土層断面図に投影した垂直分布図を見るとⅨ層中部にピークが見られる。分布深度の平均値は標高40.185mで、上下差が比較的小さいことが判明する。

出土遺物 遺物総点数は7点で、削器1・調整痕のある剥片1・原石1・剥片3・礫片1点がある。石器集中1と同様に安山岩Aが主体（5点）で、安山岩B（所謂「トロトロ石」を指す）が1点出土している。安山岩Aは、すべて同一母岩の可能性はあるが剥離面の風化が著しく断定はできない。石器集中1のものとは若干異なる。礫片は1点（ホルンフェルス）あるが、これも石器集中1と同様に「いも石」風である。

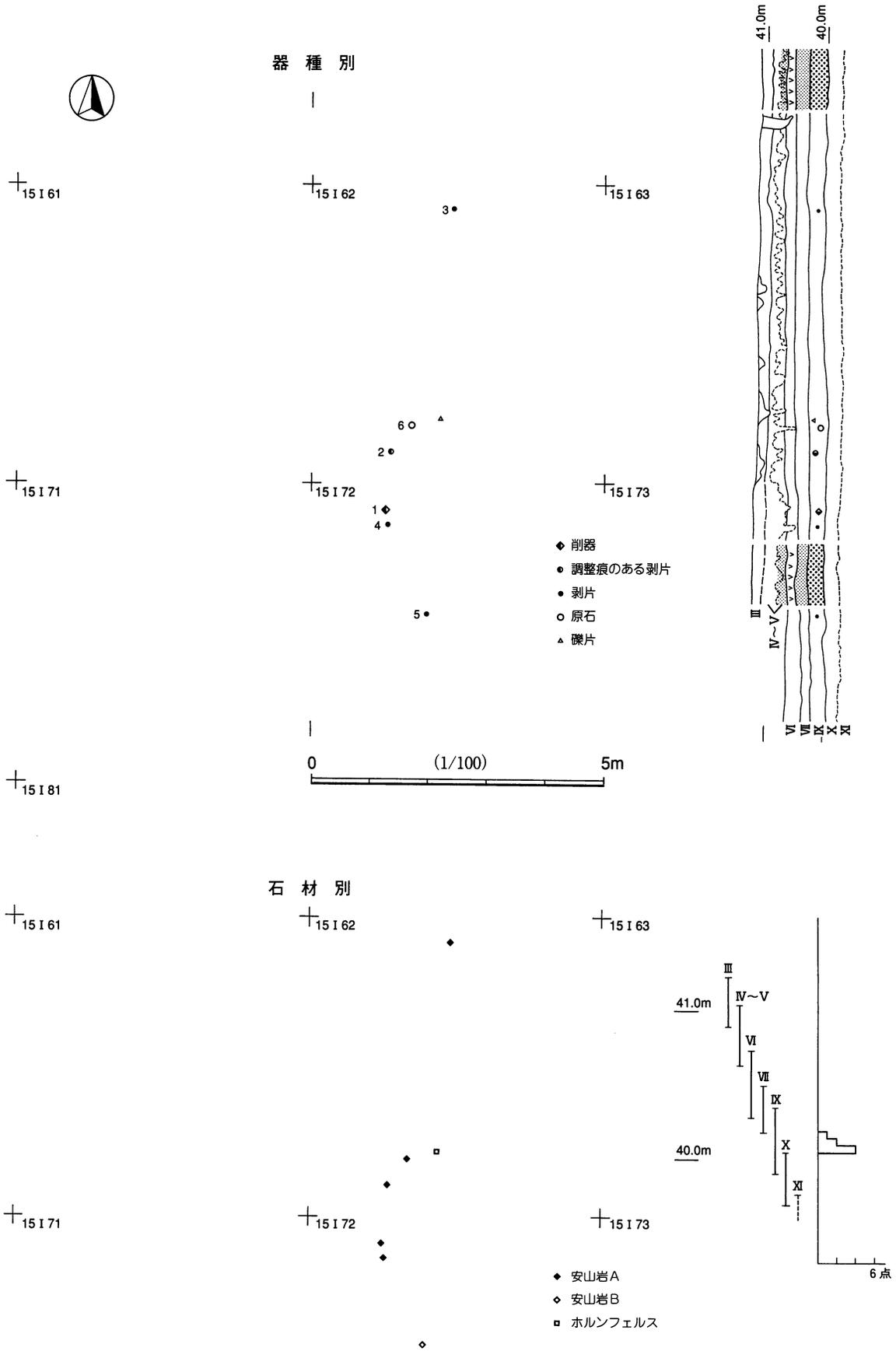
1は、剥片末端がウトラパッセとなる剥片の右側縁に主要剥離面側から急角度調整を施した削器である。刃部中央に発掘時のガジリ痕が見られる。2は寸詰まりの剥片の打面（主要剥離面側）に調整を施したものである。右側縁は折断されている。原石（6）は65mm×49mm×28mmの比較的小振りな大きさで、原石状態で遺跡へ搬入されたものである。剥片も図示したもの（3～5）がすべてで、碎片・小型剥片類は検出されていない。



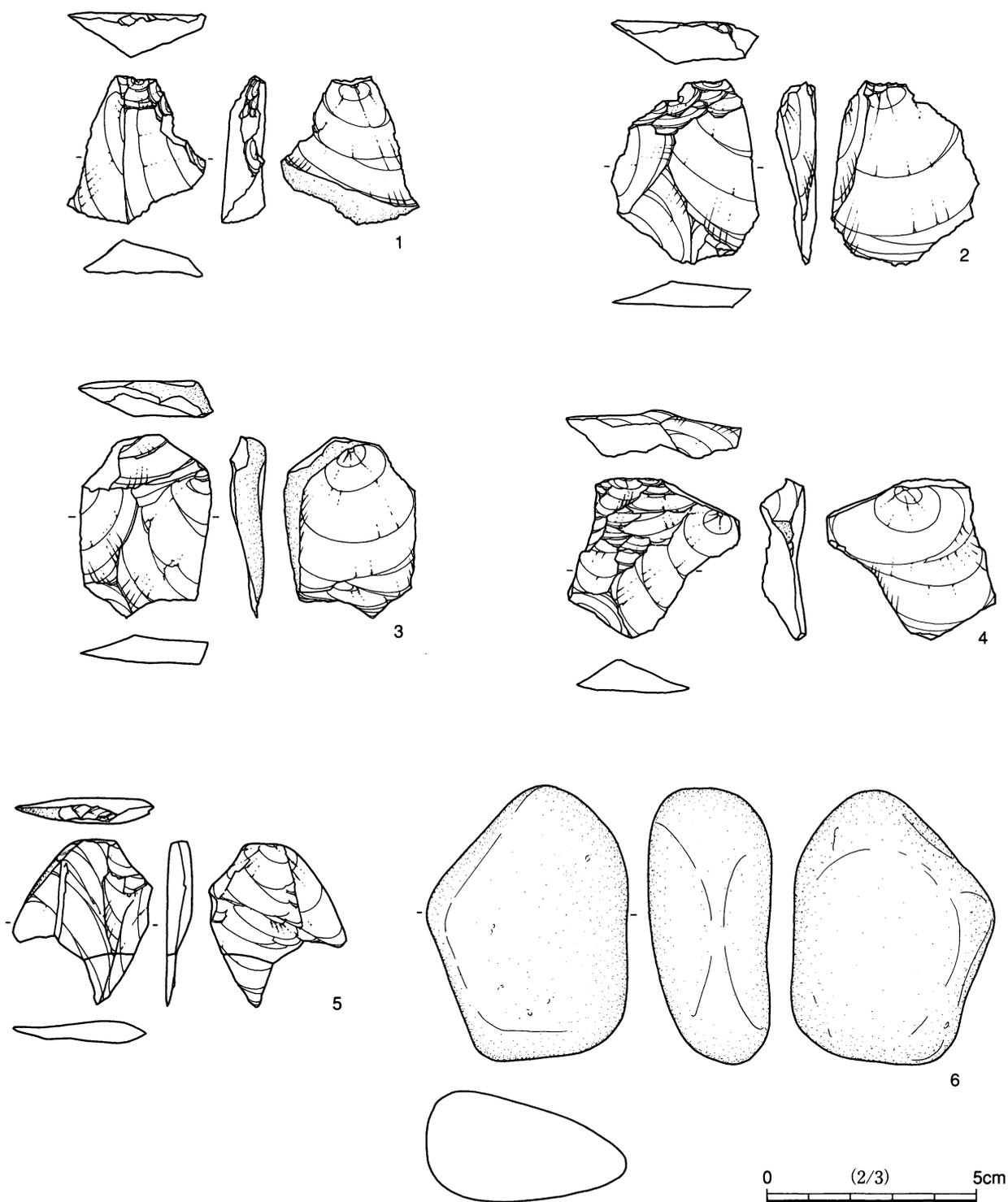
第8図 石器集中1 出土状況



第9図 石器集中1 出土石器



第10図 石器集中2 出土状況



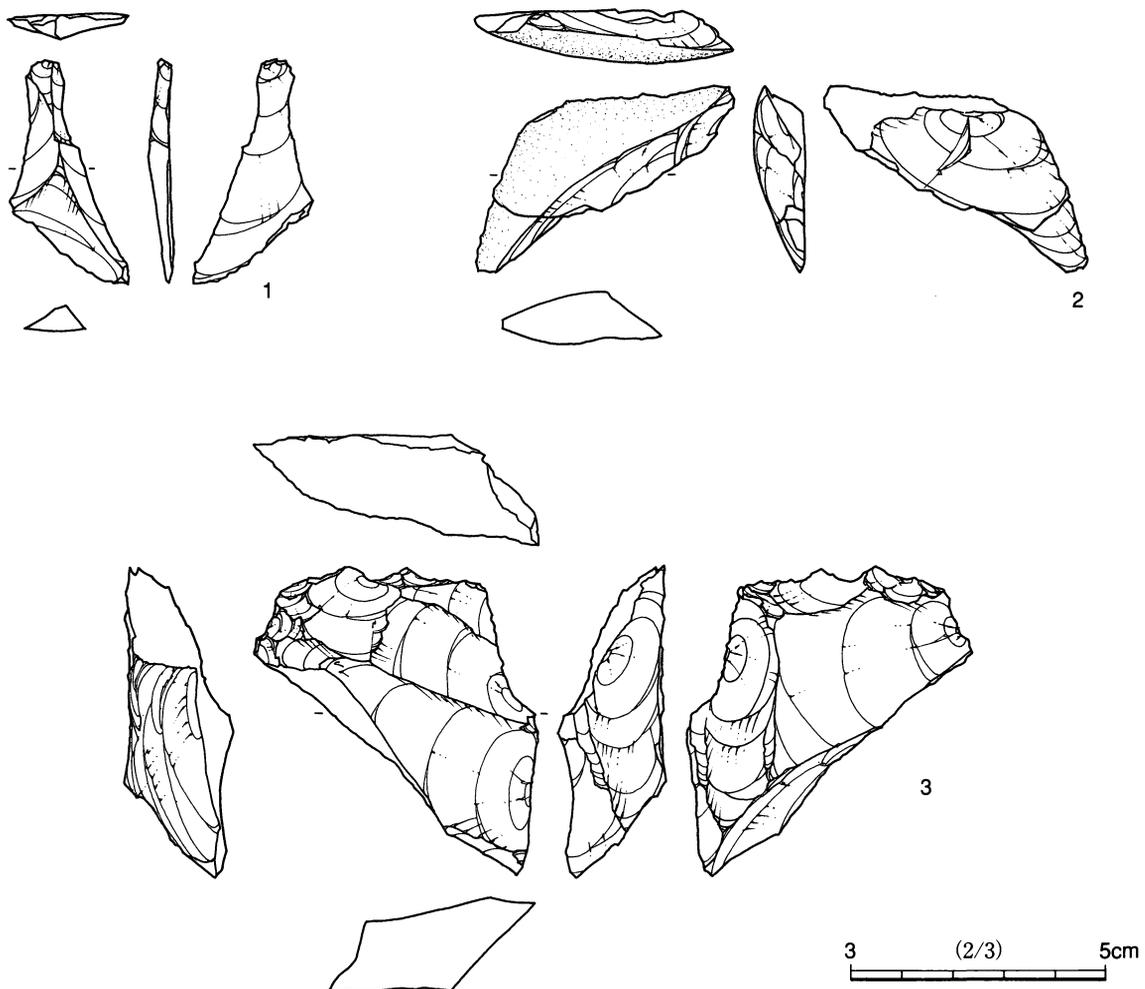
第11図 石器集中2 出土石器

## c 石器集中3 (第12・13図, 第4・9・10表, 図版3・7)

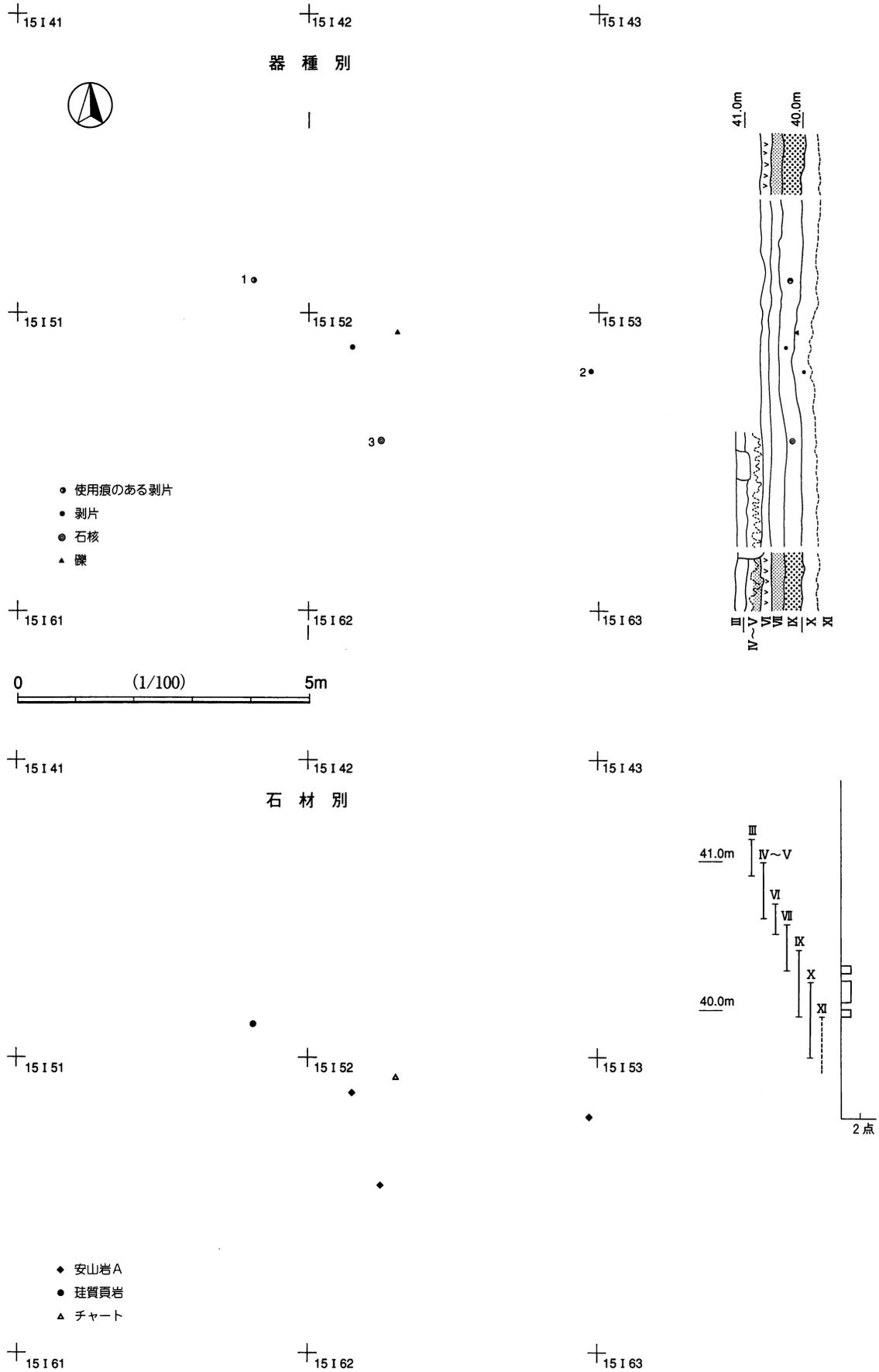
出土状況 15I41・52グリッドに位置し, 石器集中2から北へ数mのところに隣接することから, 石器集中1～3は南北方向に並んで分布していることが理解される。平面分布は長軸6m・短軸3mの範囲に収まり, 散漫な出土状況を呈している。出土層位はIX層上部～下部で, 土層断面図に投影した垂直分布図では一部X層に食い込んでいるように見えるが, これはX層の不自然な盛り上がりによるものである。分布深度の平均値は標高40.130mで, 石器集中1・2と同様に分布のピークはIX層中部として問題ないであろう。

出土遺物 総遺物点数は5点で, 使用痕のある剥片1・石核1・剥片2・礫1点がある。石材は安山岩A(3点)主体で珪質頁岩(1点)を伴う。チャート礫は石器集中1・2と同様に「いも石」風である。

3は盤状の石核で, おそらく分厚い剥片素材と思われるが, 素材剥片時の主要剥離面等は残っていない。剥片剥離は表裏交互に打撃が繰り返され, 打面と作業面の角度は急角度となり稜を形成している。石器集中1の石核と酷似した資料といえる。



第12図 石器集中3 出土石器



第13図 石器集中3 出土状況

## (2) 第2文化層

出土層位がⅣ層～Ⅴ層に相当する石器群で、石器集中4～7が属する。本遺跡ではⅣ層～Ⅴ層をソフトロームとハードロームの上下2枚に分けて認識している。これまでの空港予定地内遺跡群におけるⅢ層＝ソフトロームという認識を脱する見解であるが、従来の名称でいえば、第2文化層の中心はⅢ層下部（ソフトローム下部）ということになろう。ただし石器集中地点の様相は各地点で異なり、若干の時期差を想定する必要がある。石器集中地点の分布は第1文化層と異なり、調査区内に点在し、まとまりをみない。

## a 石器集中4（第14図～23図、第5・10～16表、図版4・8～10）

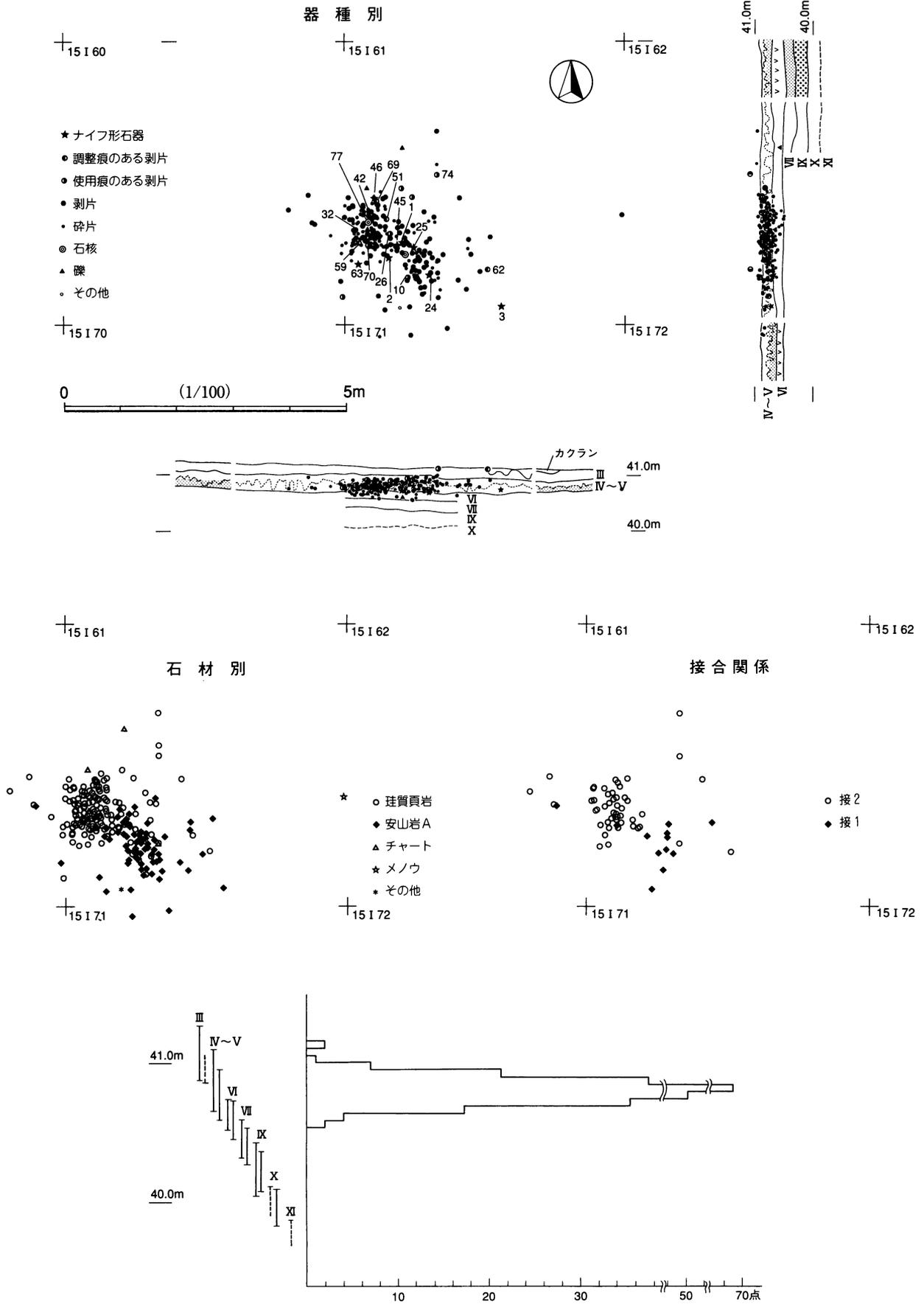
出土状況 15I61グリッドを中心とした石器集中で、平面分布は長軸6m・短軸4mの範囲に広がり、径4mに大半の遺物が密集する。密集域は北西側の珪質頁岩と南東側の安山岩によって形成され、両者が相接するような分布状況を見ることができる。各石材は少数母岩によって構成され、原石搬入から素材剥片の生産、二次加工による仕上げまで石器製作のすべての工程が認められる。本地点に残された資料によって原石段階まで復元された接合資料が存在する（接合資料1・2）。出土層位は調査所見でⅣ層～Ⅴ層とされ、土層断面図に投影された遺物分布も同様の傾向である。分布深度の平均値は標高40.804mで、所謂ソフトロームとハードロームの境界付近に分布のピークがくる。

出土遺物 総遺物点数は249点で、ナイフ形石器8・使用痕のある剥片9・調整痕のある剥片4・剥片120・碎片101・石核2点がある。大半が珪質頁岩A（169点）で、安山岩A（73点）が客体的にあり、メノウ・チャート等が伴う。

安山岩A製の石器・接合資料を第15図～17図に掲載した。1～3は小型剥片の打面を取り除いて両側縁に急角度調整を施したナイフ形石器である。いずれも先端部が若干欠損している。接合資料1は剥片12点、石核1点が接合したものである。剥離順序は、接合した剥片のみで、11→12→13+14→19→15→16→17+18→20→21→22となっている。11・12を剥離することで打面形成・再生を行った後に13+14を剥離し、その剥片を縦位に折断・調整（14）を施している。ただし、この剥片は打面部分が残っていないためどの段階の打面を加撃したものであるのか特定はできない。その後、15→16と打面を再生し再び幅広剥片を剥離している。このとき打面を90度（接合資料はない）もしくは180度（17+18）移動している。最終的にまた、15・16によって形成された打面に戻り、20～22を剥離して、剥片剥離を終了している。つまりこの接合資料の中心は剥離工程の後半段階の打面形成剥片と、石核を含む資料を中心としたものであることが理解される。

珪質頁岩A製の石器・接合資料を第18図～23図に掲載した。24は小型剥片素材のナイフ形石器で、右側縁と左側縁基部側にやや不揃いな鋸歯状の急角度調整がみられる。25は両側縁に安定した急角度調整を施した資料で、先端部が欠損したナイフ形石器である。平面形態は欠損によりはっきりしないが、尖頭部を形成せず刃部は斜めを呈していたと考えられる。

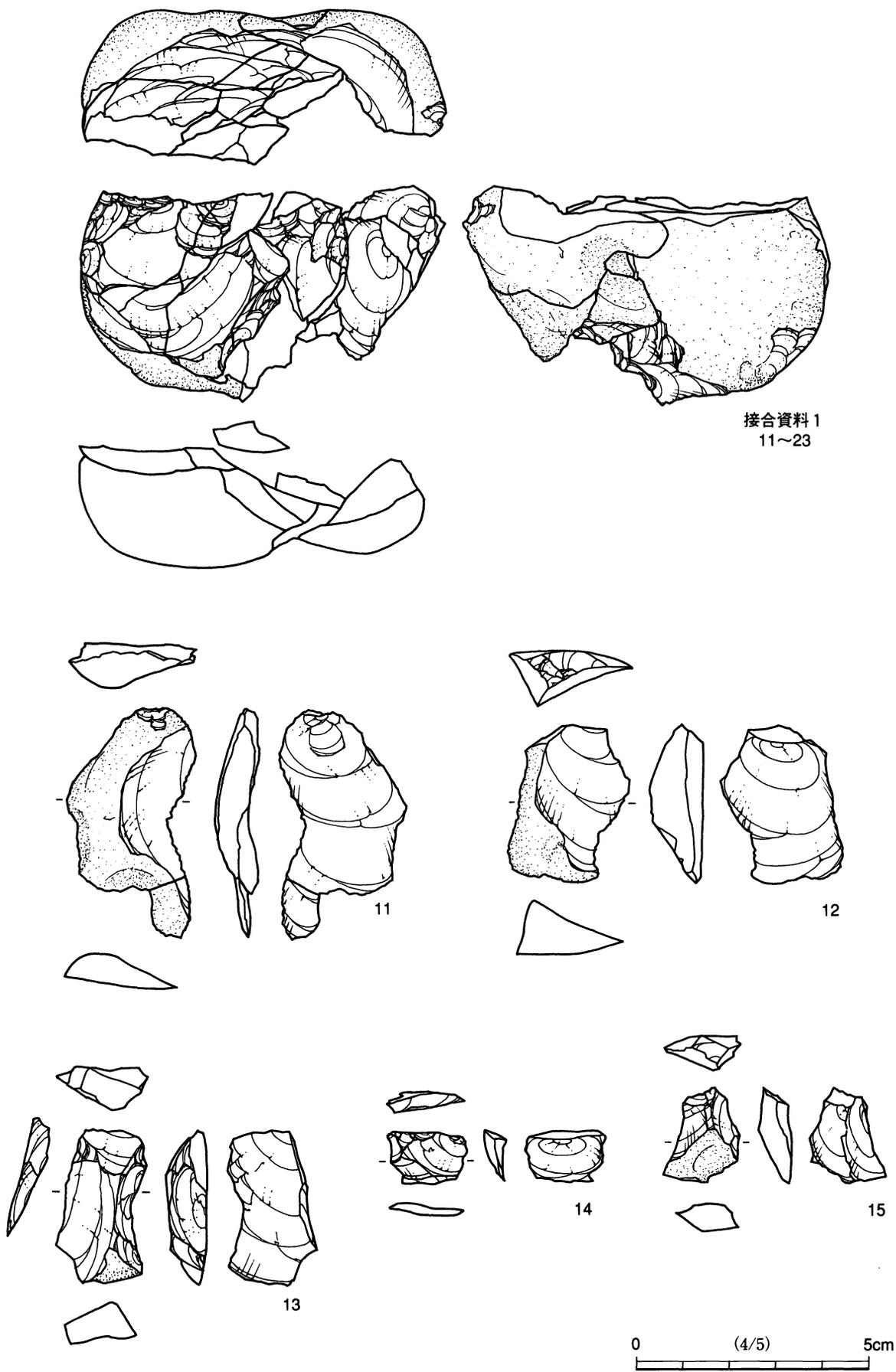
接合資料2は珪質頁岩A1が49点接合したもので、同一母岩の石器はほかに156点があるが、そのほとんどが碎片類で占められる。ほぼ原石状態で搬入されているが、一端に大きな剥離面が存在する。石材採取地で石器石材に適切かどうか試しに割った剥離面の可能性も想定される。本地点では素材剥片生産と二次加工が初期工程から最終的な工程まで（なかには遺跡外へ持ち出している資料も存在するが）、ほぼすべてが揃っている。接合した資料における剥離順序を追うと遺物掲載順となる（30→・・・→76）。剥片剥離後、調整が施されナイフ形石器を意図したものが5点存在するが、それらに接合する調整剥片の遺物Noは



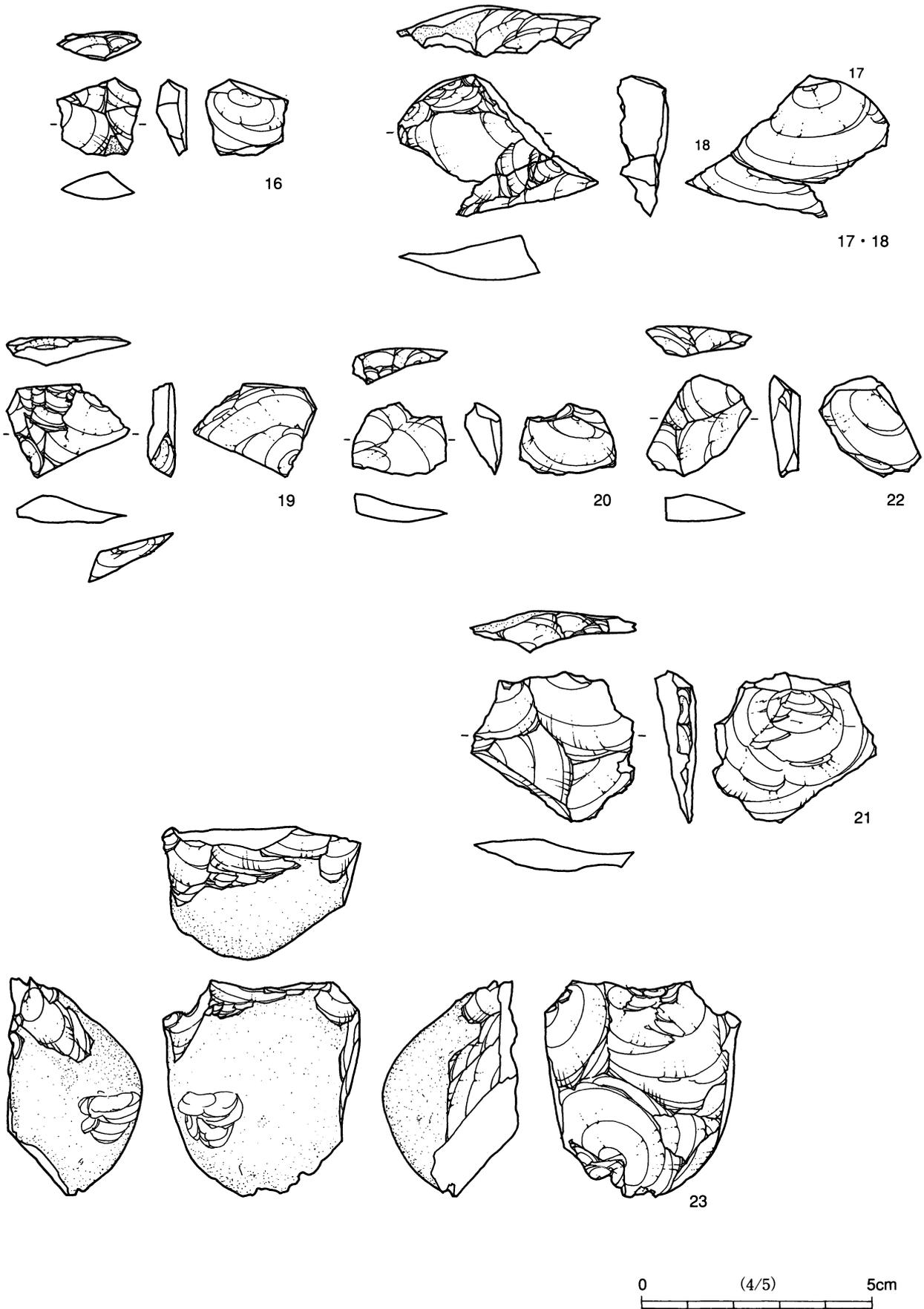
第14図 石器集中4 出土状況



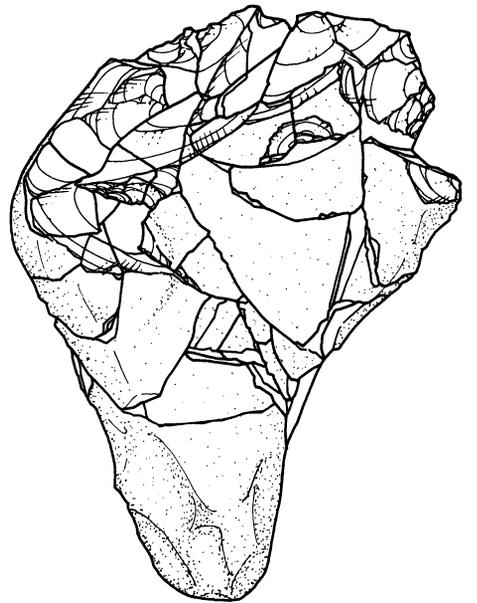
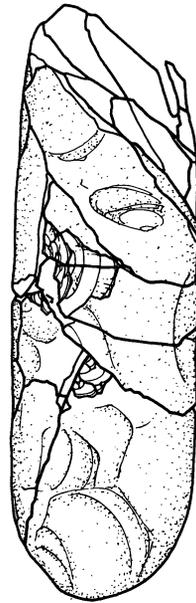
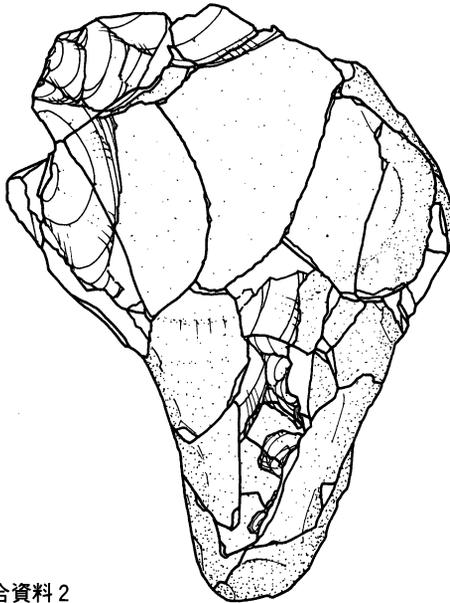
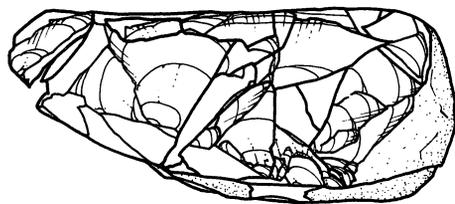
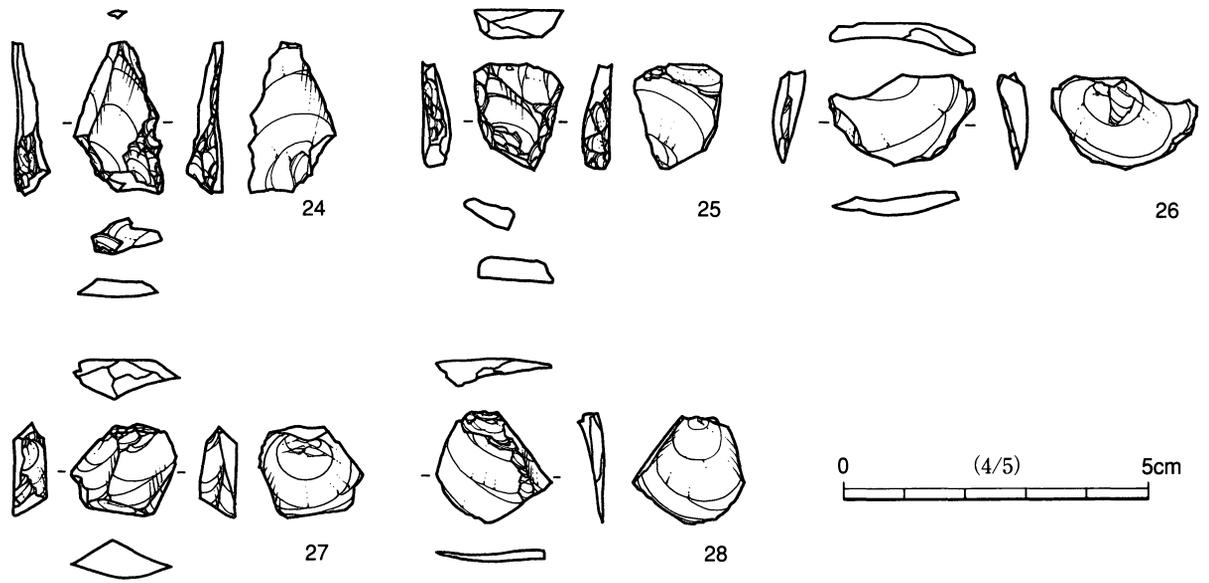
第15図 石器集中4 出土石器（1）



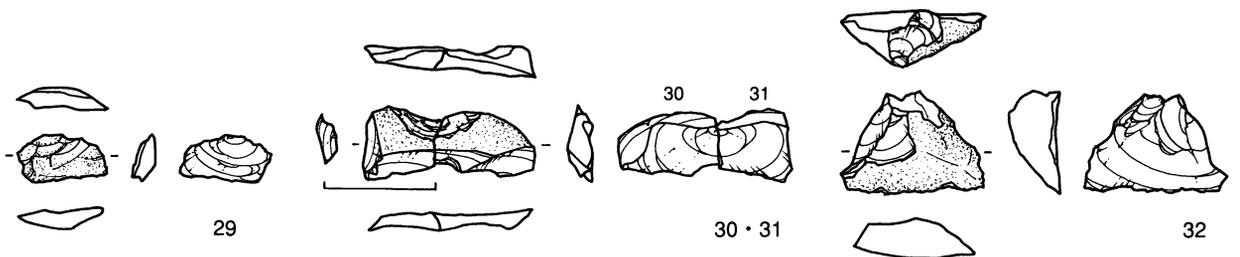
第16図 石器集中4 出土石器(2)



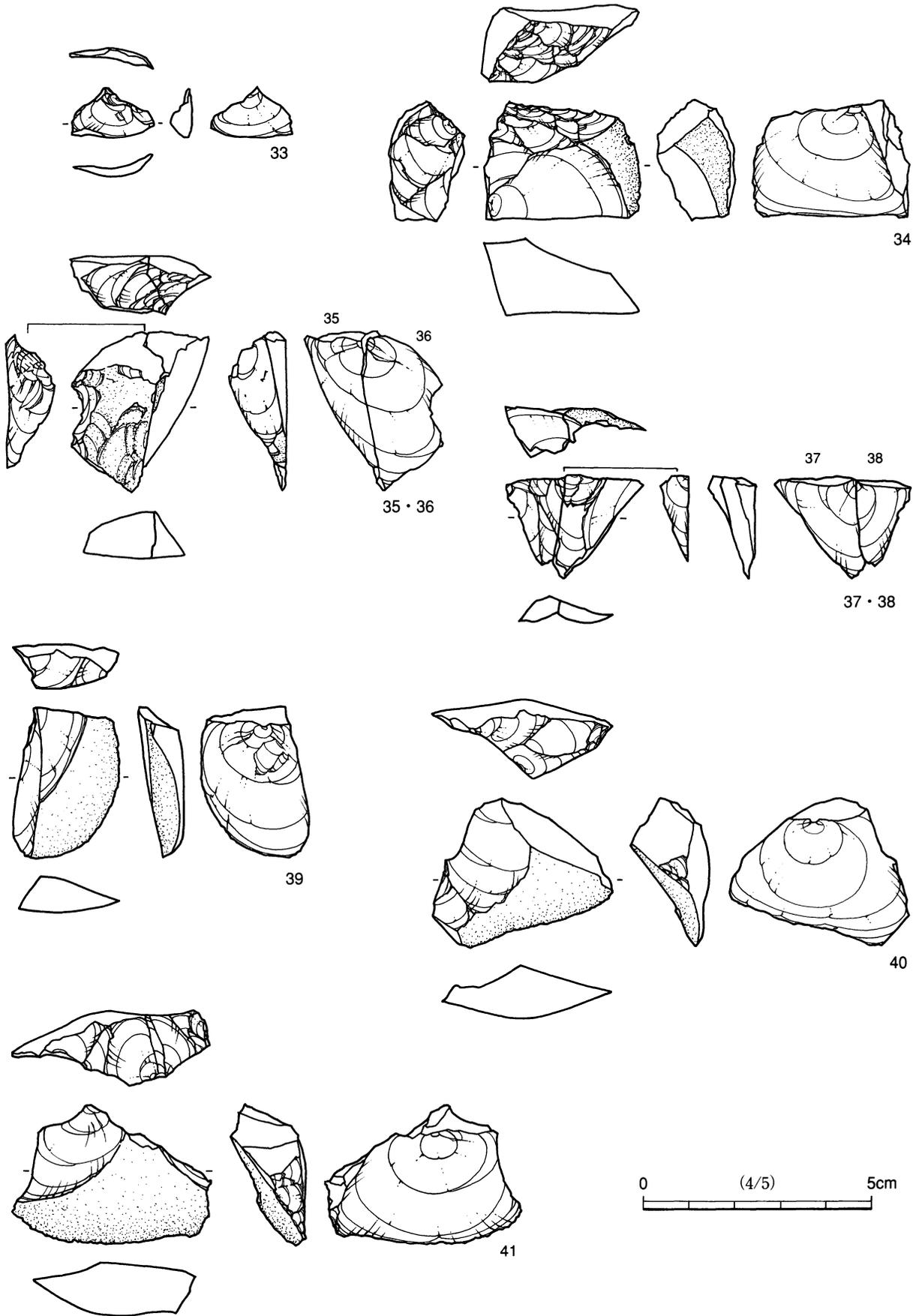
第17図 石器集中4 出土石器(3)



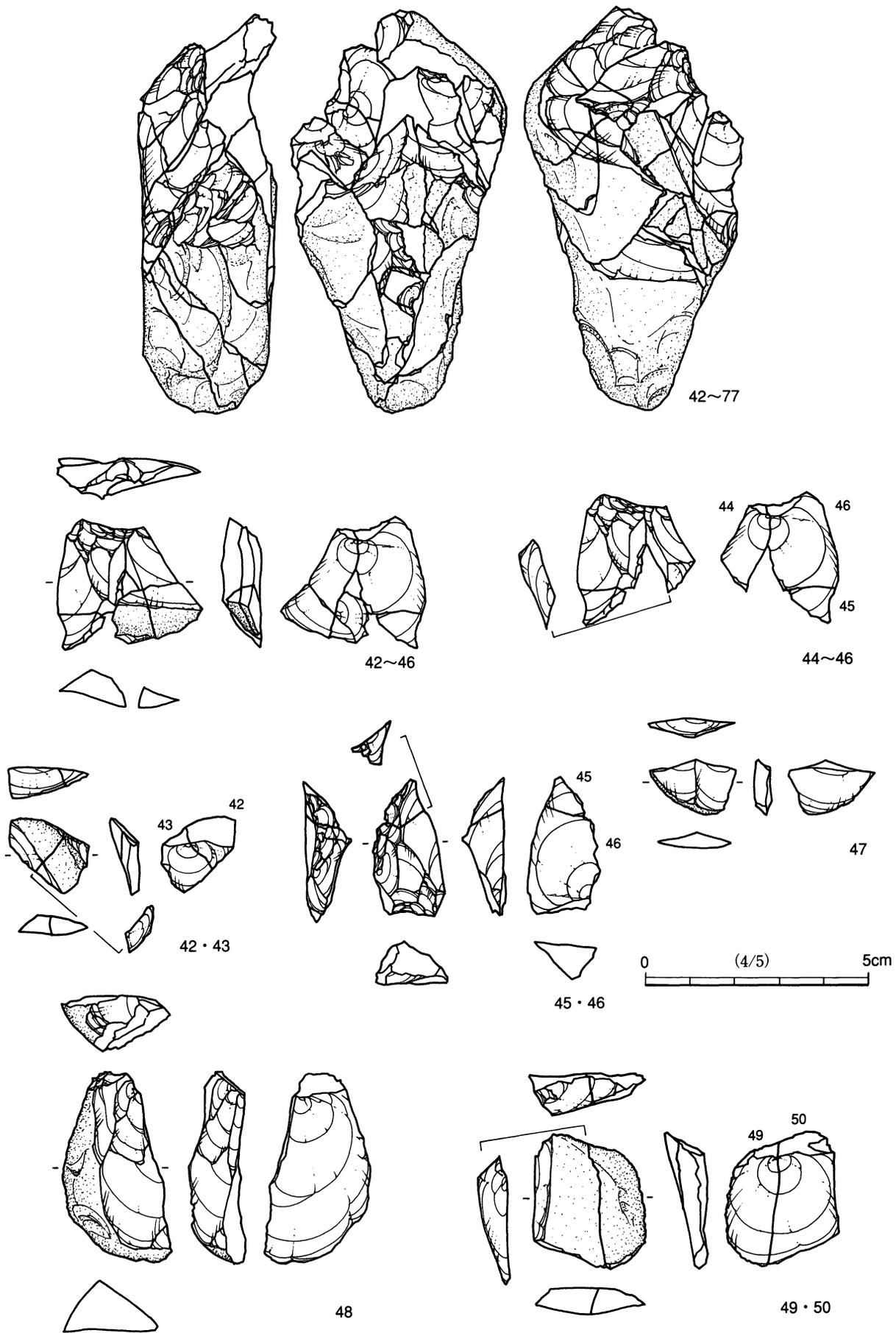
接合資料 2  
29~77



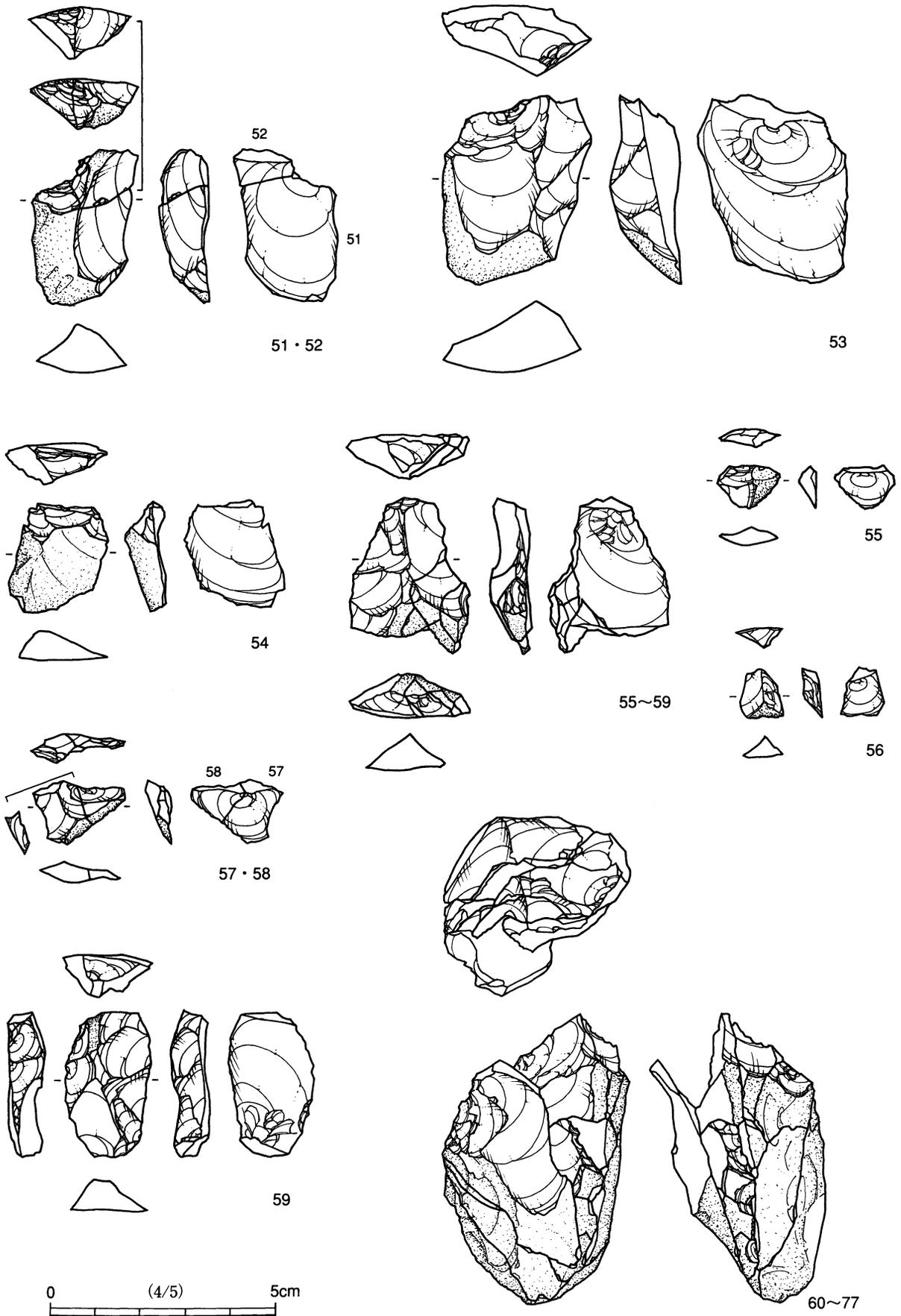
第18図 石器集中4 出土石器(4)



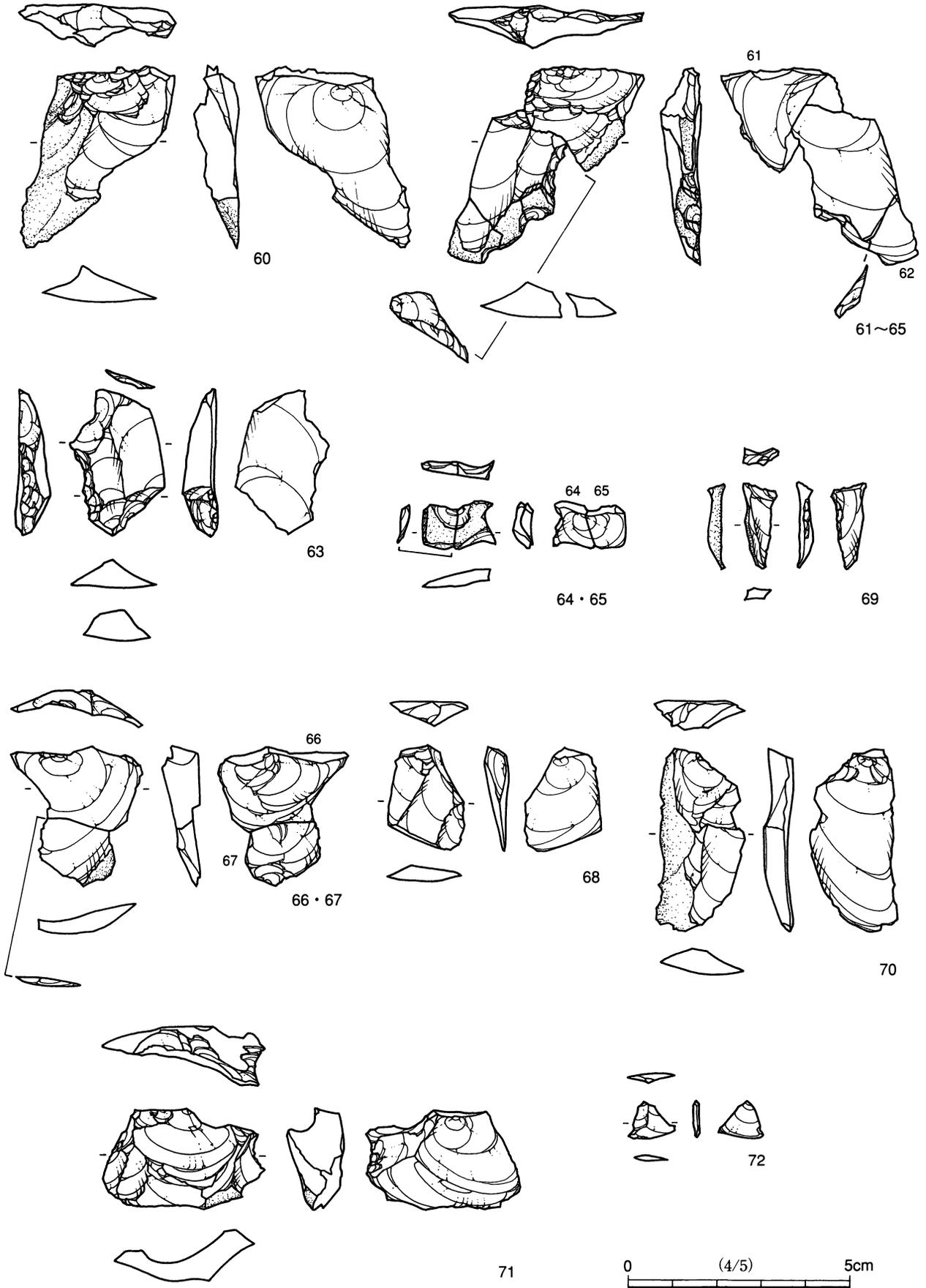
第19図 石器集中4 出土石器(5)



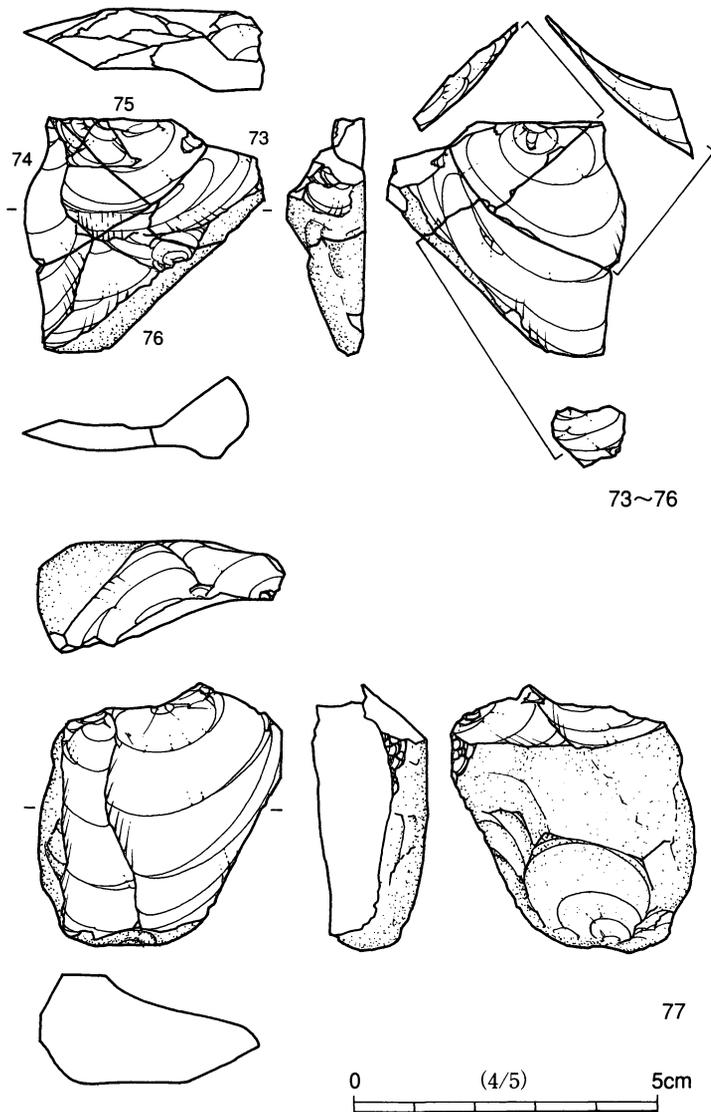
第20図 石器集中4 出土石器(6)



第21図 石器集中4 出土石器 (7)



第22図 石器集中4 出土石器(8)



第23図 石器集中4 出土石器（9）

調整の剥離順序を厳密には示していない。

30・31は比較的厚めの剥片の縁辺を剥離したものであり、ナイフ形石器の調整剥片と理解される。打面は剥片の主要剥離面である。同様の調整剥片は42+43・52・55～58・64+65にある。

初期工程は礫面の除去と安定した打面の確保を目的とした剥離が続く（32～41）。ある程度礫面の除去がすみ打面が形成された後、剥離された剥片（42～45）は、末端が主要剥離面側から除去され（42+43）、さらに縦位に折断されている（44）。その後、折断面に沿って急角度調整を施し、ナイフ形石器の片側縁を整形するが、その途中で先端が折れてしまい廃棄された（45+46）。

石核の方は、再び礫面除去が進み（48～59）、背面に礫面を大きく残す資料のうち適当なものを選択し、二次加工が施されている。51+52には素材剥片の打面側を尖らすようなノッチ状の調整がみられるが、予定していた先端部が大きく剥取されてしまったため（52）、廃棄された。51は調整痕のある剥片としたがナイフ形石器を意図したものだろう。55～59は素材剥片の主要剥離面側から急角度調整をしている途中（55～58）に先端側を欠損してしまっただけのため廃棄された（59）。これもナイフ形石器を意図したものと考えられる。

60以降はすべて同一打面を加撃して剥離された剥片及び接合資料で、61～65・70などいくつか縦長のも

のが得られている。61～65はまず素材剥片の打面部を切断し、ナイフ形石器を意図して片側縁に急角度調整を施している途中に（64+65）、先端部分が欠損してしまったため廃棄された（62）。

母岩分類 安山岩Aは73点中13点が接合している。ほぼ同一母岩で占められると思われるが、剥離面は著しく風化しているため厳密には断定はできない。よって細分は行わず大別分類のみである。搬入された石核から幅広の剥片が生産され、二次加工を施しナイフ形石器まで仕上げられている。いくつかは遺跡外へ搬出されている。珪質頁岩Aは169点が出土したが、色調の違いにより156点を珪質頁岩A 1、13点を珪質頁岩A 2とした。珪質頁岩A 1はそのうち49点に接合関係が認められ、比較的大きな剥片類はほぼすべて接合した状況で、接合しなかったものは碎片類が大半である。原石に近い形状で搬入され、素材剥片生産から二次加工を経てナイフ形石器へと仕上げている。先端部が欠損したり、調整が思うようにできなかった場合、本遺跡にそのまま廃棄されたようである。ちなみに、珪質頁岩Aは所謂チョコレート色を呈した頁岩であるが、東北産特有の光沢は認められないことに注意が必要である。数量的な問題やこのような母岩の消費状況を見ると、両母岩は色調が若干異なるものの、同一母岩に統一される可能性も指摘される。

さて、石器集中5でも珪質頁岩Aが出土しているが石器集中4のものとは色調に明らかな違いがみられ、両石器集中には同一母岩は存在しない。

#### b 石器集中5（第24図～27図，第6・16～18表，図版4・10）

出土状況 15I09グリッドに位置し、平面分布は長軸4m・短軸3mの範囲に広がる。分布状況は石器集中4とよく似ており、径2mの小範囲に大半の遺物が密集する。出土層位はⅢ層からⅤ層で、主体はⅣ層～Ⅴ層である。分布深度の平均値は標高40.899mで、石器集中4と同様にそのピークはソフトロームとハードロームの境界付近にくる。

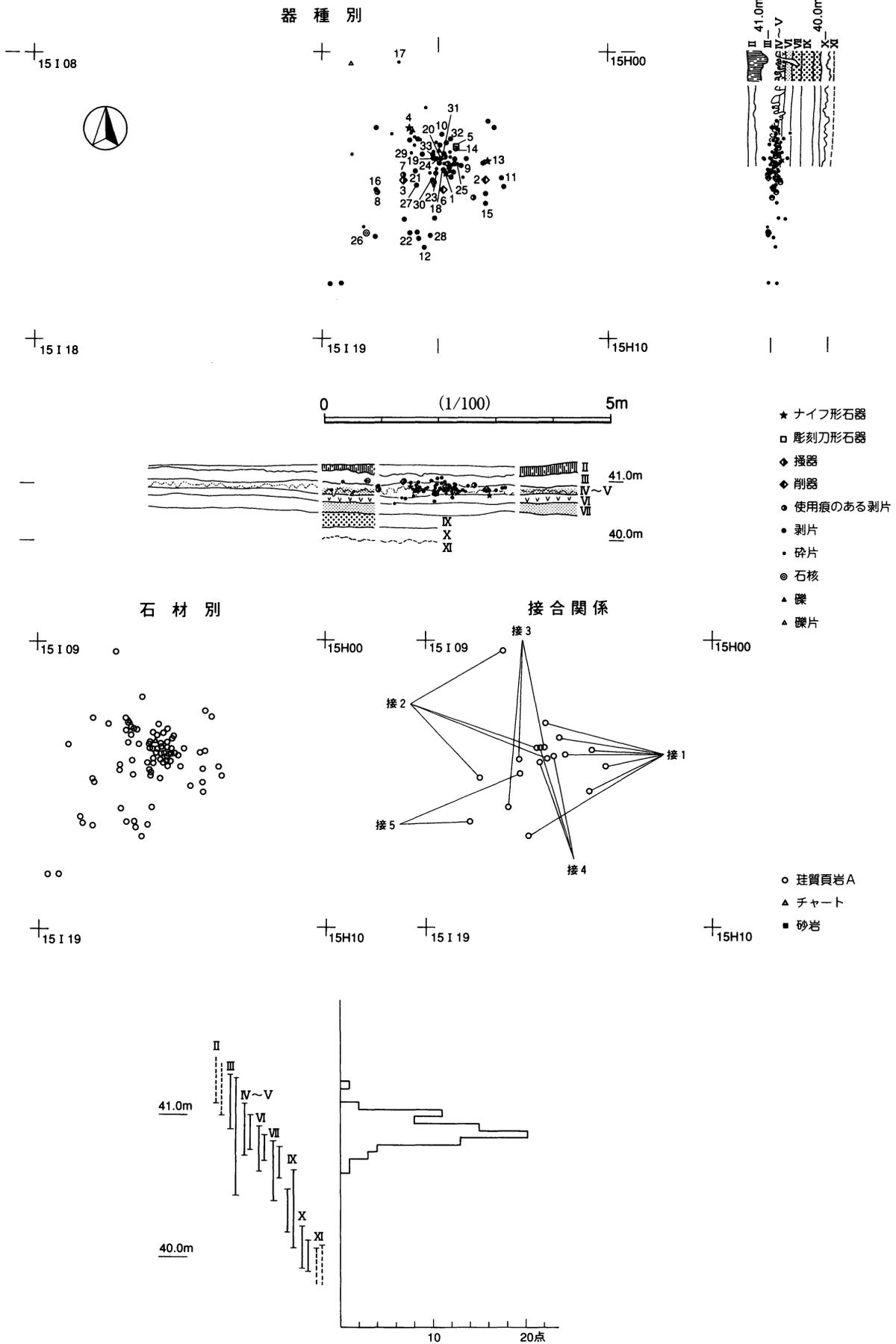
出土遺物 総遺物点数は84点で、ナイフ形石器3・彫刻刀形石器1・削器2・搔器1・使用痕のある剥片7・剥片44・碎片22・石核1点がある。すべて珪質頁岩A製で、礫・礫片にチャート・砂岩が伴う。

1は二側縁に急角度調整を施して断面三角形状に仕上げたナイフ形石器である。未調整部分は自然面を残し斜刃となっている。2・3・6は剥片の縁辺にブランディング状の急角度調整を施した資料で、搔器・削器とした。2・3は欠損しているものの、連続した剥離がみられ安定した刃部を形成している。4はナイフ形石器先端部である。片側縁に急角度調整が湾曲して施されている。5は寸詰まりの剥片を斜位に折断し折断面を打面として彫刀面を作り出している。実測図左側面には急角度調整が施されている。7・8は使用痕のある剥片である。

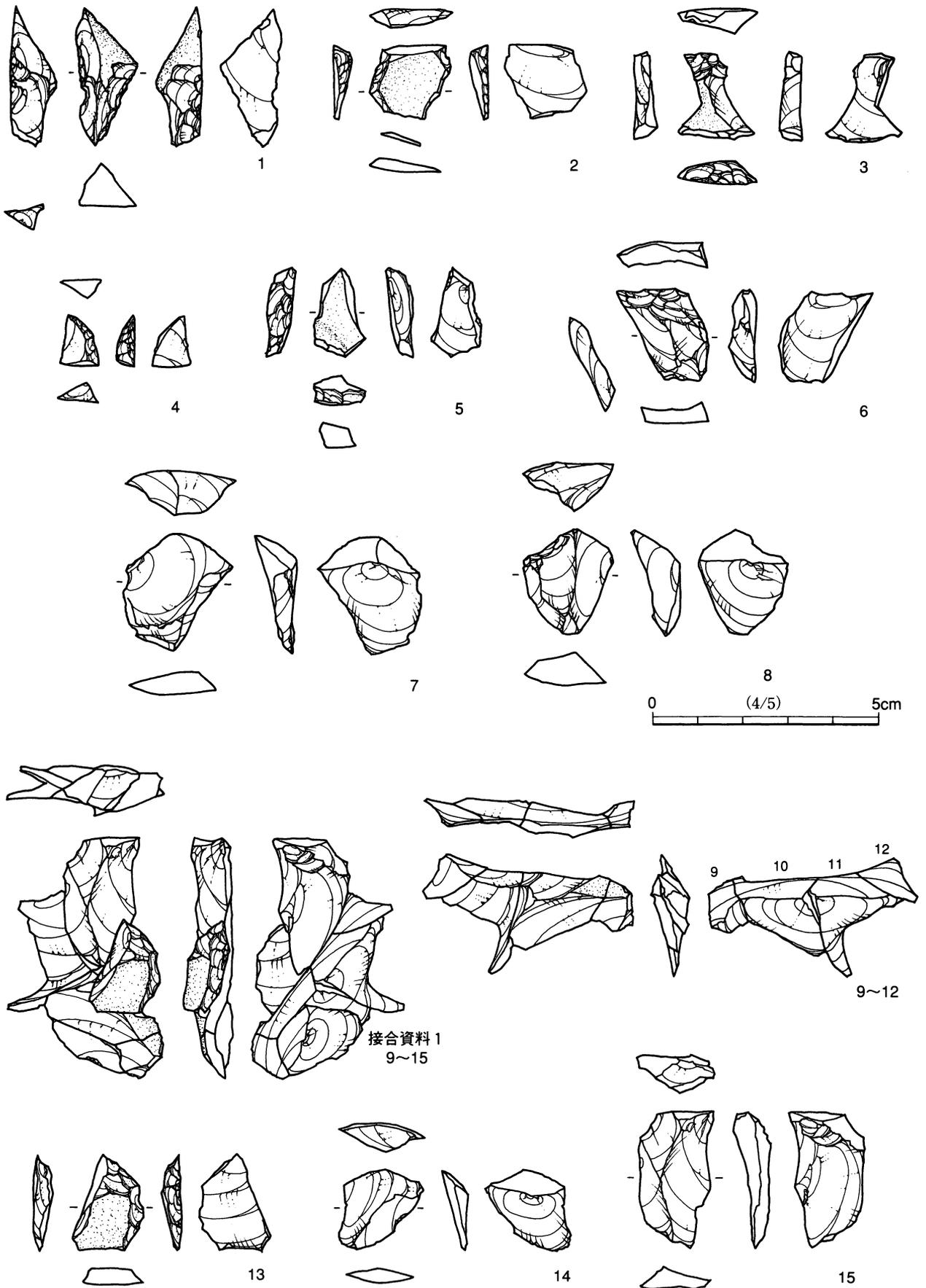
珪質頁岩Aはすべて同一母岩の可能性があるが、色調の違いによって焦げ茶色を呈した珪質頁岩A 1と薄茶色を呈した珪質頁岩A 2に分離した。珪質頁岩A 1が主体で81点中70点が抽出された。

珪質頁岩A 1は本地点で積極的な剥片剥離が見られるが、石器の素材剥片生産というよりは素材剥片を持ち込んで本地点で調整を施して遺跡外へ製品を持ち出しているように思われる。よって石器集中4のように接合によって大きく復元される資料は皆無である。

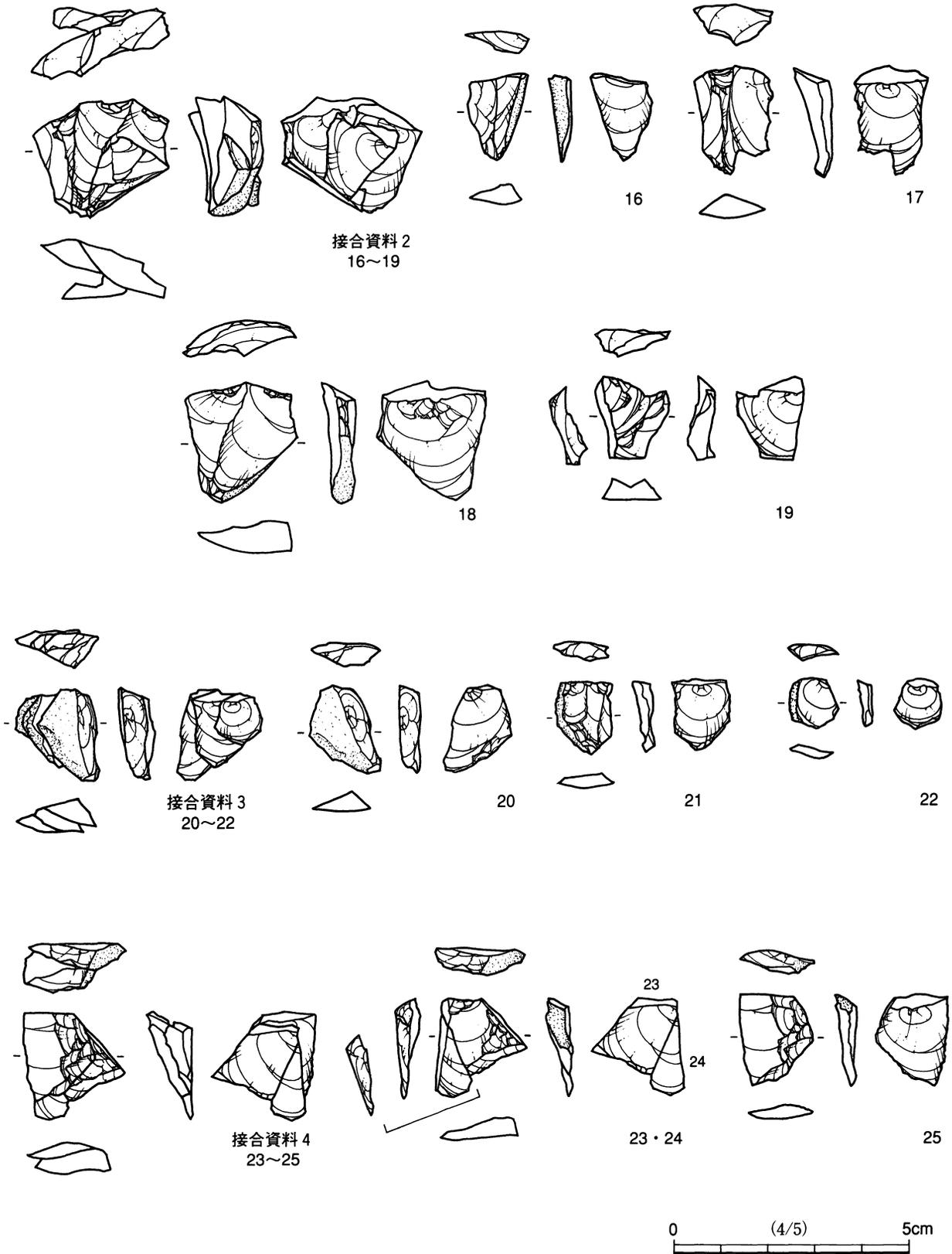
2～7点の接合資料が7個体ある（接合資料1～5・7・8）。接合資料1の剥離順序は13→15→9～12+14で、13には急角度調整が施され、ナイフ形石器となっているが左側面は大きく欠損している。9～12+14は厚みのある幅広剥片の縁辺の調整剥片である。調整された製品は遺跡外へ持ち出されている。接合資料2は同一打面からの連続した剥片剥離により剥離された剥片が3点接合したものである。打面は凸面状に湾曲し、ボジ面である可能性が高く、分厚い剥片の主要剥離面を打面としたものであろうか。接合



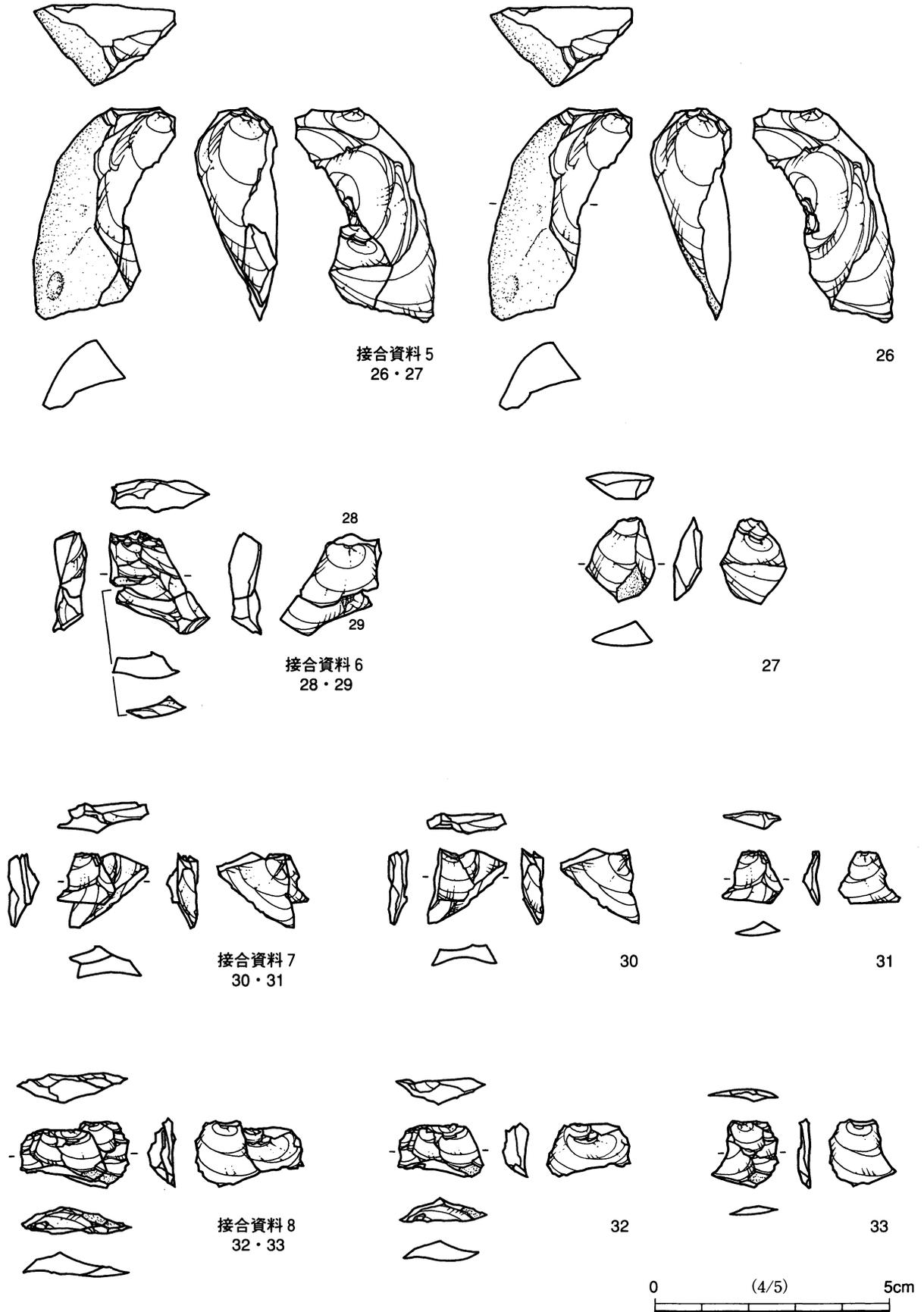
第24図 石器集中5 出土状況



第25図 石器集中5 出土石器(1)



第26図 石器集中5 出土石器(2)



第27図 石器集中5 出土石器(3)

資料3は背面に自然面がみられる剥片3点の接合資料で、その大きさや連続性からツール製作のための調整剥片であると考えられる。接合資料4は自然面を打面とした剥片剥離から90度打面転位して剥離しはじめた資料である。23・24は剥離時の同時割れのようなものである。接合資料5は分厚い剥片を用いた剥片剥離によって剥がされた剥片から、さらに剥離された調整剥片(27)と石核(26)の接合資料である。接合資料7・8は連続して剥離された小型剥片同士の接合資料である。これもまたツール製作の調整剥片と考えられる。母岩分類 礫・礫片を除く剥片石器にはすべて珪質頁岩Aが用いられており、色調の違いにより70点を珪質頁岩A1, 10点を珪質頁岩A2と細分した。接合状況・剥片の形状・打面の状況等から、本遺跡では、分厚い剥片を素材とした石核を用いた剥片剥離や剥片の二次加工が行われていたようで、それらに用いられた素材剥片の生産は余所で行った蓋然性が高いことが判明した。製品は少なく、多くが遺跡外へ搬出されたものと考えられる。

#### c 石器集中6 (第28図～31図, 第7・18表, 図版5・11)

出土状況 13J75・84・85グリッドに位置し、平面分布は長軸7m・短軸3mの範囲に広がる。分布状況は大きく2か所の集中域を形成し、チャートを主体とした北集中域と安山岩を主体とした南集中域に分かれる。出土層位はIV層～V層で、石器集中4・5と比較して遺物量が少ないためその状況がよく把握できるが、どちらかというIV層～V層の上部(ソフトローム最下部)に集中するようである。それは垂直分布のヒストグラムにおいてもその傾向を端的に見ることができる。分布深度の平均は標高41.453mである。

出土遺物 総遺物点数は32点で、削器1・調整痕のある剥片2・剥片17・碎片4・石核5・礫2・礫片1点がある。チャート(23点)を主体とし、安山岩A(5点)・黒曜石(1点)・凝灰岩(2点)を伴う。

1は小型剥片を用いて鋸歯状に調整が施されたもので、調整痕のある剥片とした。安山岩製の石器はこれ以外に小型剥片と接合資料4(20・21)があるのみである。接合資料4は剥片と石核の接合であるが、石核(21)はさらに剥離が進行し小型化している。安山岩の遺跡内での剥片剥離は極めて小規模なものである。

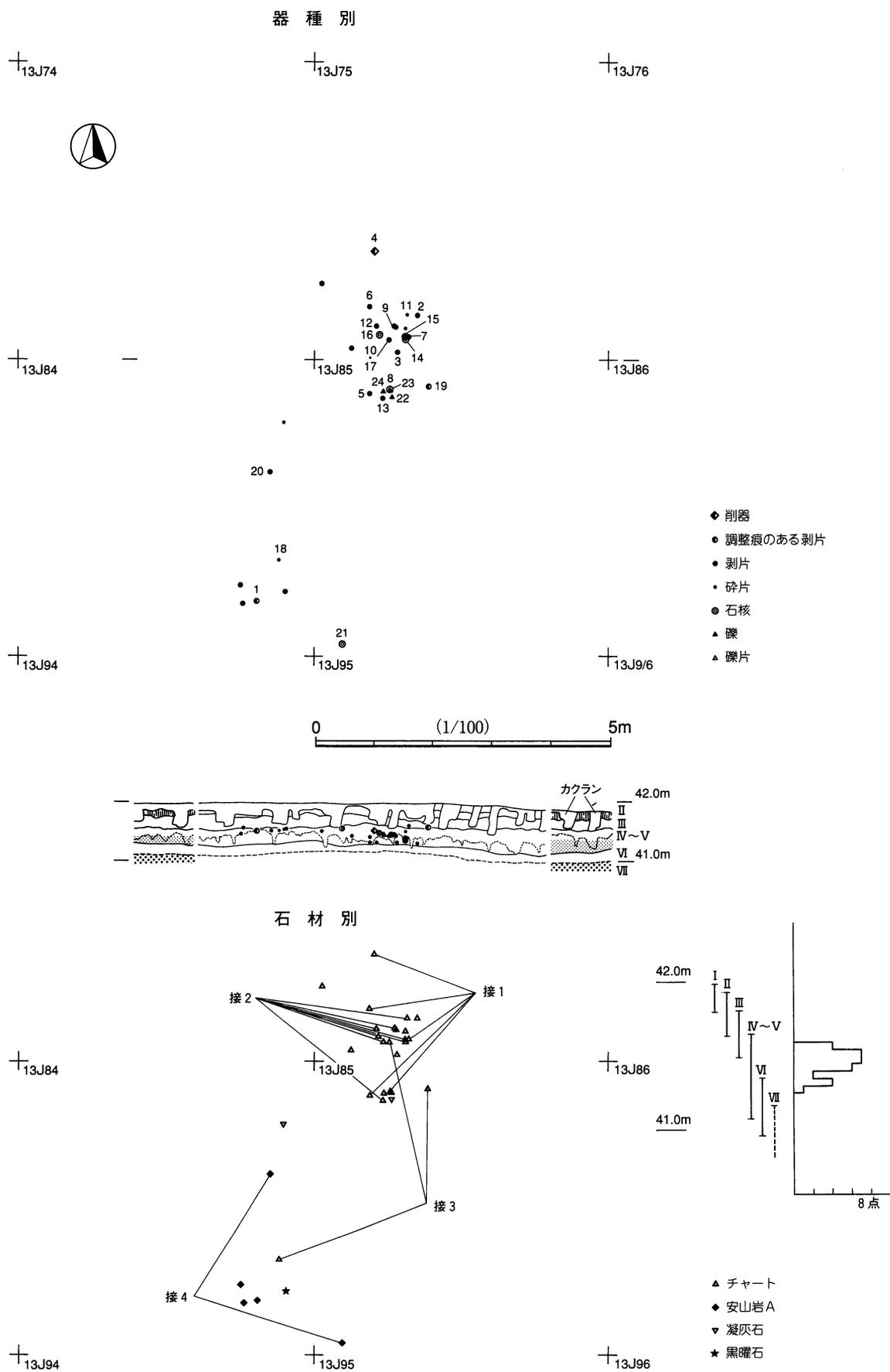
接合資料1は角柱状の礫を用いて長軸方向に作業面を設けた資料で、5・6は打面形成(再生)のために剥離されたものである。4・7は長軸方向に剥離されたもので、4は打面側に急角度調整を施しており削器としたが、左側縁の樋状剥離を彫刀面と見て彫刻刀形石器とすることもできよう。

接合資料2の剥離順序は11→12→14～16+9+10→13である。14+15+16の主要剥離面は節理面状の面で比較的分厚い剥片となっているが、これを利用してさらに小型剥片が剥離されている。これらは安山岩を用いた接合資料4の例を参考として石核としたが、内部の節理面に邪魔されて思うように刃部を形成できなかった搔器類の可能性もある。

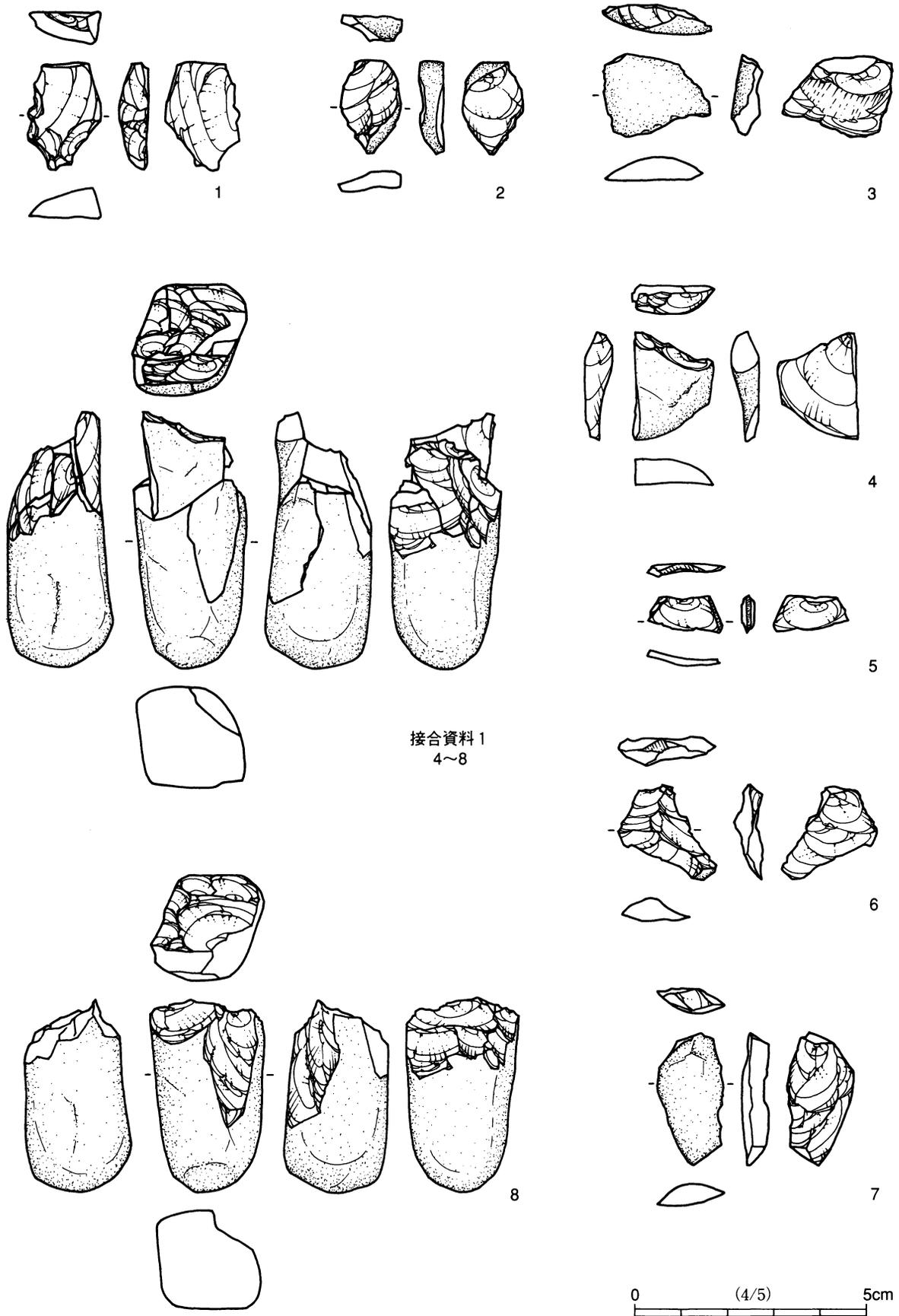
接合資料3は石核と碎片の接合資料である。石核の打面は未調整で平坦となっている。裏面には自然面が大きく残っている。

接合資料1～3の石材はすべてチャートで、接合資料2と接合資料3は同一母岩の可能性が高い。他に礫・礫片として3点を図示したが(22～24)、これらは剥片剥離のための原石と理解される。23は打面形成のために、短軸方向に剥離が試みられたが、石質が不良であったため廃棄されたと考えられる。

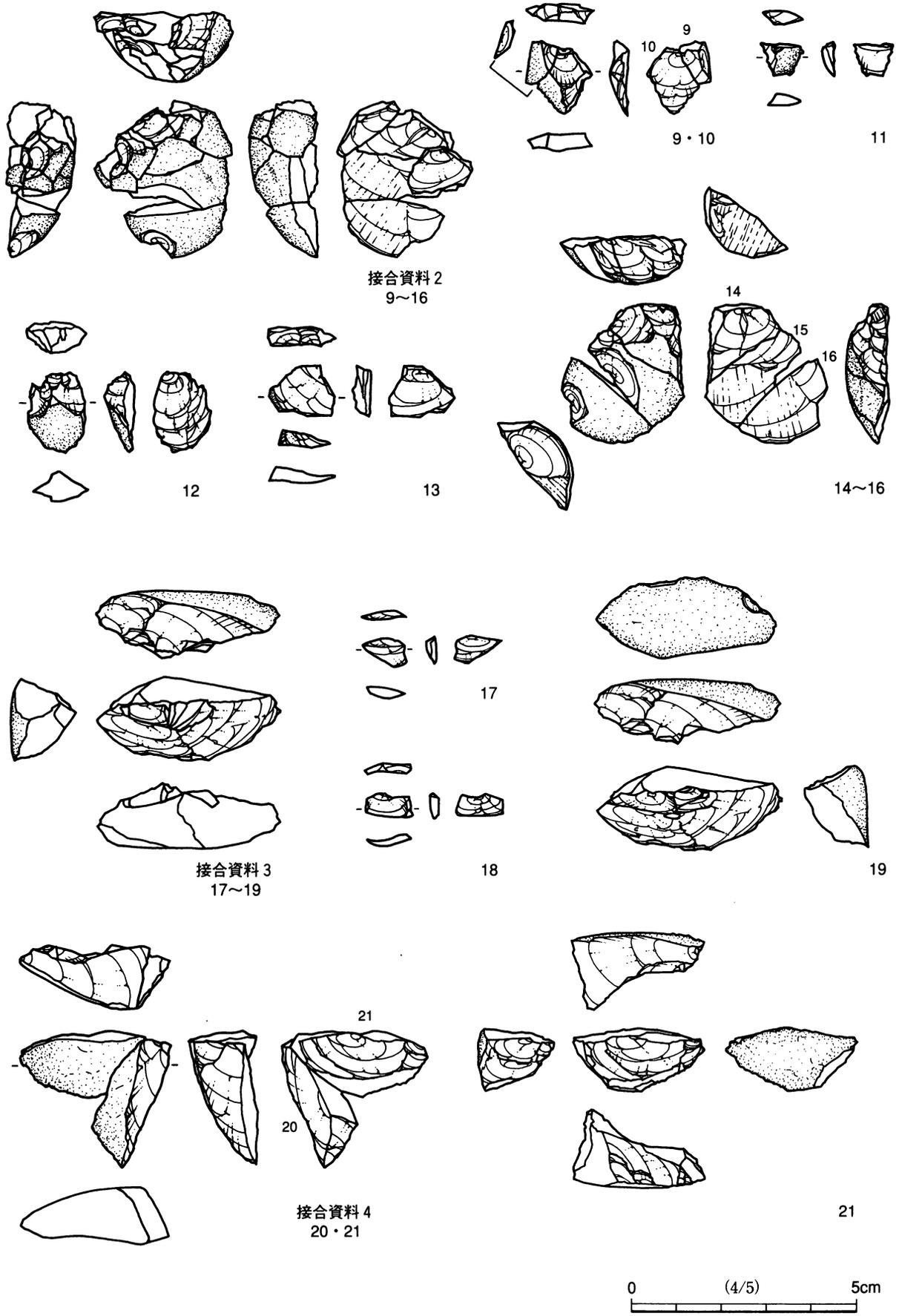
母岩分類 礫・礫片以外のチャートは2母岩に細分され、その多くが接合関係にある。小礫を遺跡内に持ち込み剥片剥離を試みているが、小規模でナイフ形石器などの利器も伴わないことから、その位置づけに苦慮する。



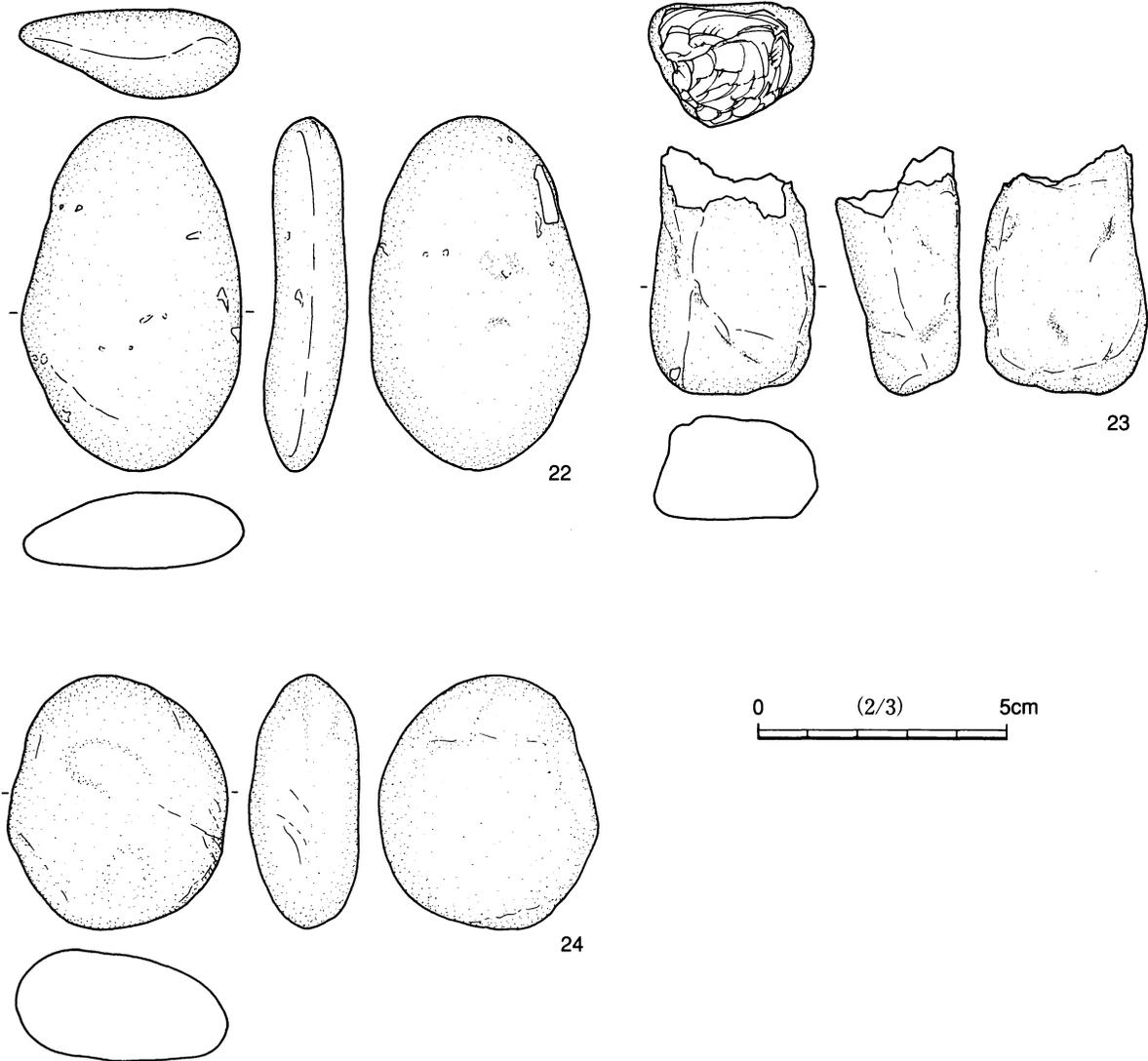
第28図 石器集中6 出土状況



第29図 石器集中6 出土石器(1)



第30図 石器集中6 出土石器(2)



第31図 石器集中6 出土石器(3)

d 石器集中7 (第32・33図, 第8・18・19表, 図版5・11)

出土状況 15G68・69グリッドに位置し, 平面分布は長軸4.5m・短軸2.5mの範囲に散漫に広がる。出土層位はIV層～V層で, 分布深度の平均標高は41.115mとなり, IV層～V層でも上半部(ソフトローム最下部)にあたることを理解される。

出土遺物 総遺物点数は7点で, 楔形石器1・使用痕のある剥片1・調整痕のある剥片1・剥片4点がある。安山岩A(5点)主体で, 黒曜石・チャートが各1点伴う。楔形石器(3)は縦長で薄手のもので, 自然面を残している。

4 石器集中地点外

下層確認のための調査グリッドから石器が検出されたが, 周辺を拡張した結果, 遺物の広がりを知ることができなかったものについてここで報告する。ただし出土遺物の多くが礫・礫片であり, 人間行動に関係するものである可能性は低いことを付記しておく。

石器集中地点外1 (第34図, 第19表, 図版5・11)

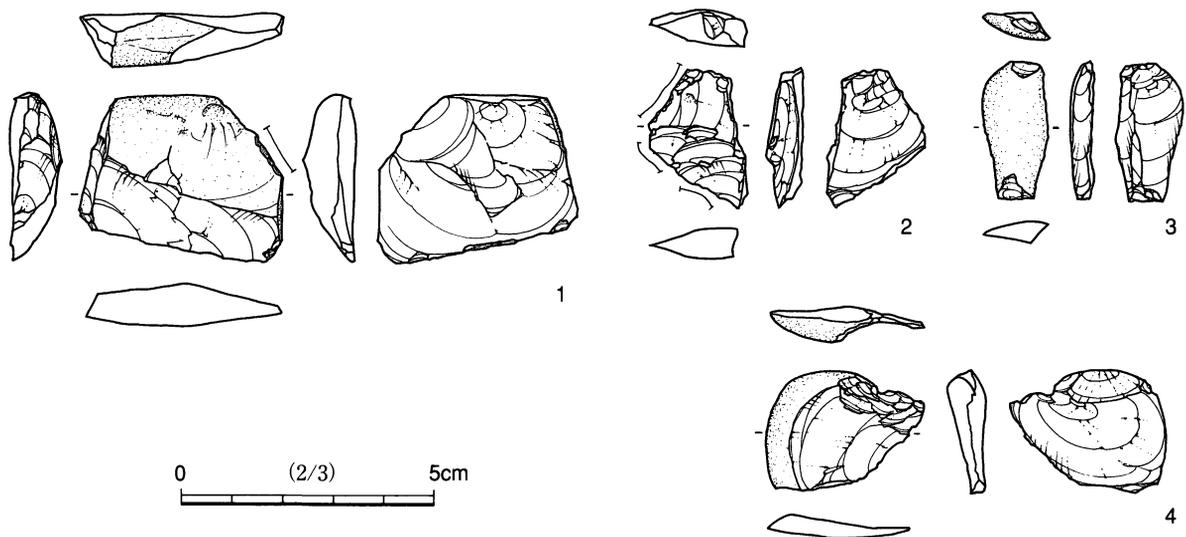
14J94グリッドの下層確認坑から黒曜石製の石核と礫片を各1点検出した。出土層位はIX層～X層である。試掘坑周辺を拡張したが, 遺物分布の広がりを知ることができなかった。石核は斑晶の混じる比較的粗雑な黒曜石を用いたもので, 本資料を見た限りでは, 打面や作業面の管理といったシステマティックな剥片剥離工程はみられず, 敲けるところを敲いていくという状況が読みとれる。礫片はX層中から検出されたものであるが「いも石」である可能性が高い。

石器集中地点外2 (第35図, 第19表, 図版5)

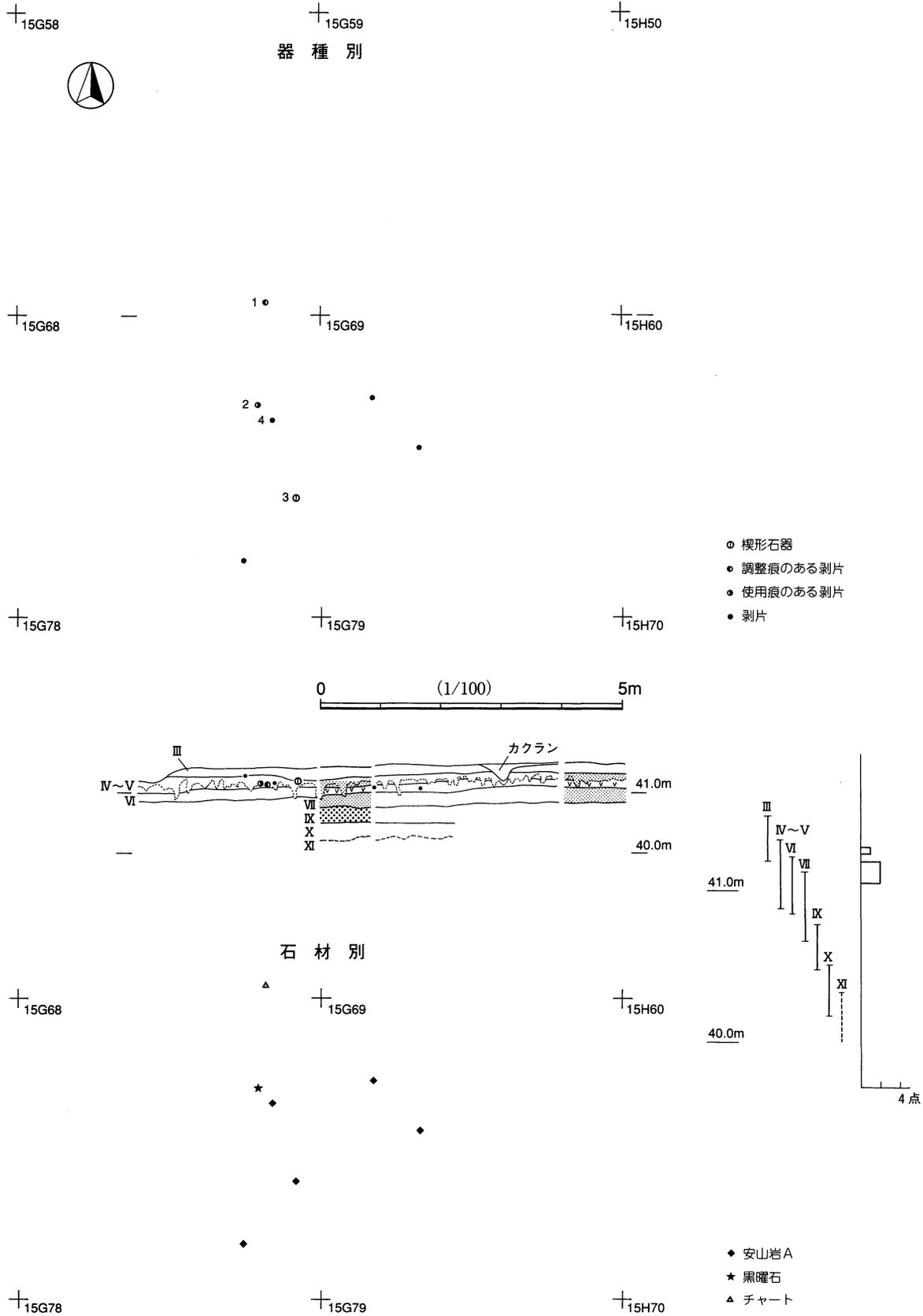
15J09グリッドの下層確認坑から, チャート製の礫2点をIX層下部とXI層上面で検出した。試掘坑周辺を拡張したが, 遺物分布の広がりを知ることができなかった。

石器集中地点外3 (第36図, 第19表)

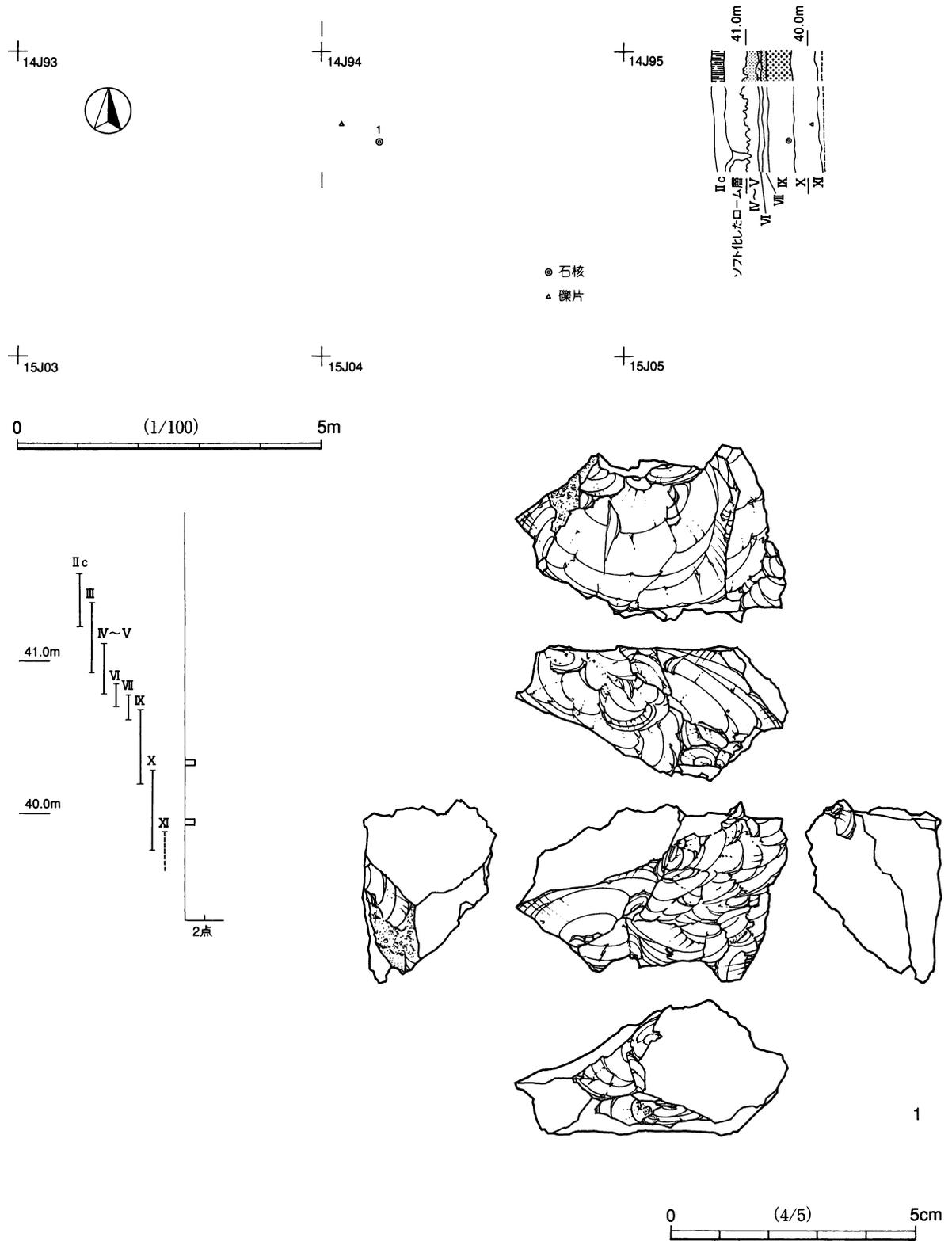
14J96グリッドの下層確認坑から, 礫片2点をIII層上面で検出した。石材は流紋岩とチャートである。試掘坑周辺を拡張したが, 遺物分布の広がりを知ることができなかった。



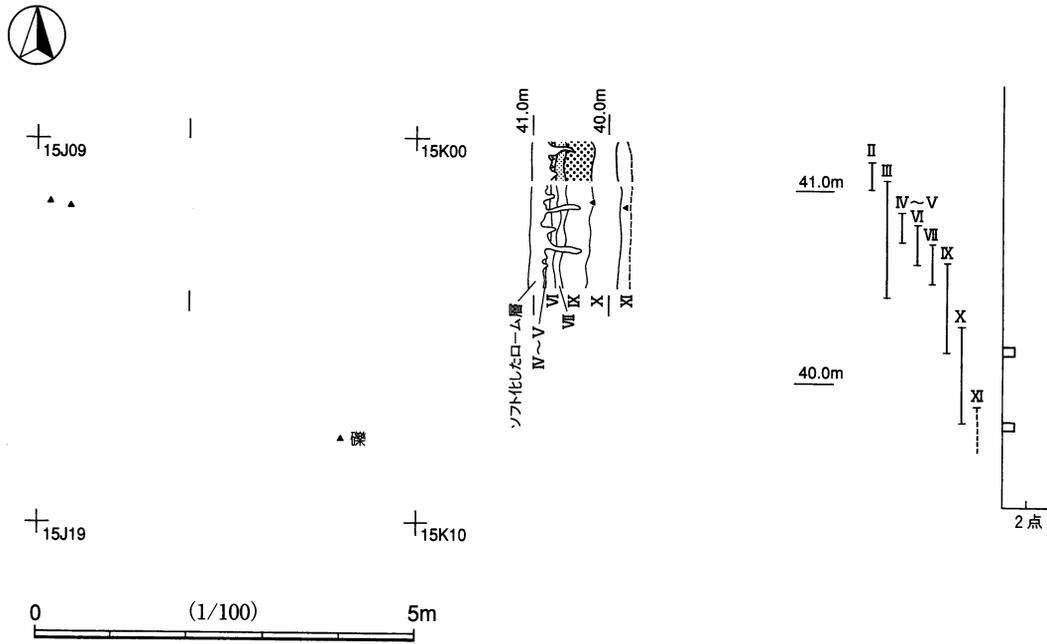
第32図 石器集中7 出土石器



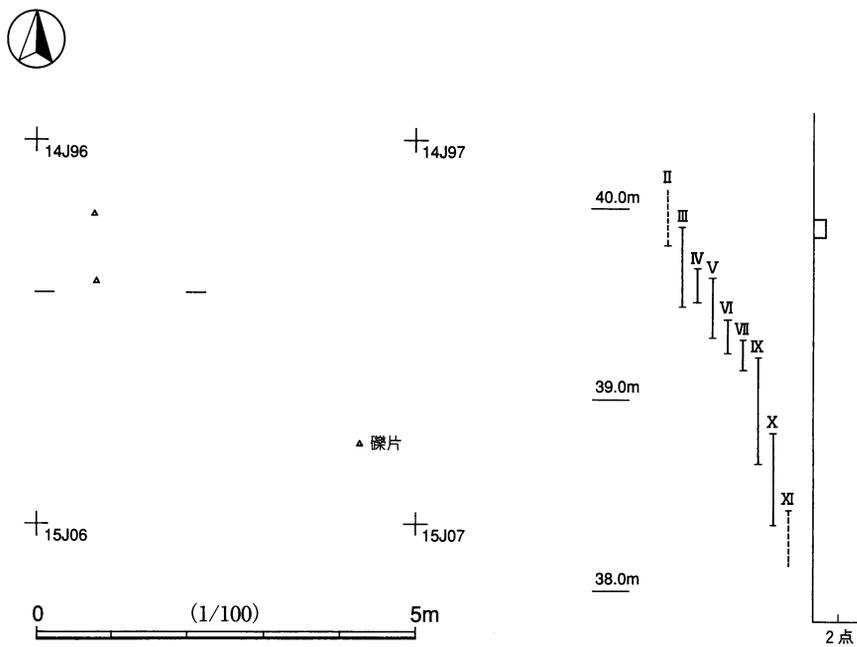
第33図 石器集中7 出土状況



第34図 石器集中地点外1 出土状況と出土石器



第35図 石器集中地点外2 出土状況



第36図 石器集中地点外3 出土状況

第2表 石器集中1 組成表

	石核	剥片	碎片	礫	礫片	合計	組成比
安山岩A	2 32.05	20 79.54	6 1.18			28 112.77	90.32 94.39
チャート				1 0.10	1 0.56	2 0.66	6.45 0.55
流紋岩					1 6.04	1 6.04	3.23 5.06
合計	2 32.05	20 79.54	6 1.18	1 0.10	2 6.60	31 119.47	100.00 100.00
組成比	6.45 26.83	64.52 66.58	19.35 0.99	3.23 0.08	6.45 5.52	100.00 100.00	

第3表 石器集中2 組成表

	削器	調整痕のある剥片	原石	剥片	礫片	合計	組成比
安山岩A	1 9.36	1 12.34	1 126.87	2 22.51		5 171.08	71.43 96.67
安山岩B				1 5.73		1 5.73	14.29 3.24
ホルンフェルス					1 0.17	1 0.17	14.29 0.10
合計	1 9.36	1 12.34	1 126.87	3 28.24	1 0.17	7 176.98	100.00 100.00
組成比	14.29 5.29	14.29 6.97	14.29 71.69	42.86 15.96	14.29 0.10	100.00 100.00	

第4表 石器集中3 組成表

	使用痕のある剥片	石核	剥片	礫	合計	組成比
安山岩A	1 46.40	2 14.87			3 61.27	60.00 96.20
珪質頁岩	1 2.21				1 2.21	20.00 3.47
チャート				1 0.21	1 0.21	20.00 0.33
合計	1 2.21	1 46.40	2 14.87	1 0.21	5 63.69	100.00 100.00
組成比	20.00 3.47	20.00 72.85	40.00 23.35	20.00 0.33	100.00 100.00	

第5表 石器集中4 組成表

	ナイフ形石器	使用痕のある剥片	調整痕のある剥片	石核	剥片	碎片	礫	その他	合計	組成比
珪質頁岩A	5 9.53	8 10.91	4 11.28	1 28.98	65 135.72	86 4.22			169 200.64	68.15 52.12
安山岩A	3 10.54	1 6.51		1 61.37	54 102.48	14 1.14			73 182.04	29.44 47.29
メノウ					1 0.46				1 0.46	0.40 0.12
チャート						1 0.04	3 1.49		4 1.53	1.61 0.40
その他								1 0.28	1 0.28	0.40 0.07
合計	8 20.07	9 17.42	4 11.28	2 90.35	120 238.66	101 5.4	3 1.49	1 0.28	248 384.95	100 100
組成比	3.23 5.21	3.63 4.53	1.61 2.93	0.81 23.47	48.39 62.00	40.73 1.40	1.21 0.39	0.40 0.07	100.00 100.00	

第6表 石器集中5 組成表

	ナイフ形石器	彫刻刀形石器	削器	掻器	使用痕のある剥片	石核	剥片	碎片	礫片	礫	合計	組成比
珪質頁岩A	3 4.22	1 1.41	2 3.04	1 1.15	7 9.05	1 13.03	44 31.87	22 3.71			81 67.48	96.43 98.94
チャート										2 0.21	2 0.21	2.38 0.31
砂岩									1 0.51		1 0.51	1.19 0.75
合計	3 4.22	1 1.41	2 3.04	1 1.15	7 9.05	1 13.03	44 31.87	22 3.71	1 0.51	2 0.21	84 68.20	100.00 100.00
組成比	3.57 6.19	1.19 2.07	2.38 4.46	1.19 1.69	8.33 13.27	1.19 19.11	52.38 46.73	26.19 5.44	1.19 0.75	2.38 0.31	100.00 100.00	

第7表 石器集中6 組成表

	削器	調整痕のある剥片	石核	剥片	碎片	礫	礫片	合計	組成比
チャート	1 2.48	1 9.06	4 39.54	13 11.77	2 0.22	1 71.07	1 48.39	23 182.53	71.88 68.54
安山岩A		1 2.39	1 5.85	3 4.67	1 0.11			6 13.02	18.75 4.89
黒曜石				1 0.16				1 0.16	3.13 0.06
凝灰岩					1 0.13	1 70.47		2 70.60	6.25 26.51
合計	1 2.48	2 11.45	5 45.39	17 16.60	4 0.46	2 141.54	1 48.39	32 266.31	100.00 100.00
組成比	3.13 0.93	6.25 4.30	15.63 17.04	53.13 6.23	12.50 0.17	6.25 53.15	3.13 18.17	100.00 100.00	

第8表 石器集中7 組成表

	楔形石器	使用痕のある剥片	調整痕のある剥片	剥片	合計	組成比
安山岩A	1 2.16			4 5.61	5 7.77	71.43 31.62
黒曜石		1 2.74			1 2.74	14.29 11.15
チャート			1 14.06		1 14.06	14.29 57.22
合計	1 2.16	1 2.74	1 14.06	4 5.61	7 24.57	100.00 100.00
組成比	14.29 8.79	14.29 11.15	14.29 57.22	57.14 22.83	100.00 100.00	

第9表 旧石器観察表(1)

石器集中	挿図No	クワッドNo	遺物番号	器種	石材	接合No	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	打面打角	打面調整	頭部調整	背面構成					折面部位	末端	層位	X座標	Y座標	標高(m)	備考		
															C	S	H	T	R								L	D
1	1	15182	0002	剥片	安山岩A		35.9	15.3	7.3	3.65	1	106										H	Ⅹ層下部	-25791.775	51914.195	39.887		
1	2	15182	0013	剥片	安山岩A		22.9	28.1	5.4	2.46	1	133										F	Ⅹ層上部	-25794.817	51914.758	40.030		
1	3	15192	0004	剥片	安山岩A		17.2	24.4	5.6	2.34	1	125										1	F	Ⅹ層下部	-25795.088	51914.879	39.985	
1	4	15183	0006	剥片	安山岩A		30.7	39.7	8.3	7.82	1	115										2	H	Ⅹ層下部	-25791.773	51918.238	40.058	遺物No重複
1	5	15192	0006	剥片	安山岩A		51.5	40.8	10.9	22.09	1	119										2	F	Ⅹ層上部	-25796.761	51914.805	40.085	
1	6	15182	0003	剥片	安山岩A		40.6	22.6	13.4	12.27	1	126											F	Ⅹ層上部	-25792.298	51913.496	40.077	
1	7	15173	0001	石核	安山岩A	1	49.1	34.7	11.6	18.86													F	Ⅹ層下部	-25789.661	51915.854	40.028	
1	8	15182	0008	石核	安山岩A	1	39.3	31.1	11.2	13.19													F	Ⅹ層下部	-25793.938	51914.891	40.055	
1	9	15192	0001	剥片	安山岩A	1	25.3	19.0	4.0	1.85	1	118										4	H	Ⅹ層下部	-25795.381	51913.737	39.823	
1	10	15192	0005	碎片	安山岩A	1	13.9	18.5	2.3	0.72	1	116											H	Ⅹ層下部	-25796.130	51914.829	40.218	
1	1	15172	0004	剥片	安山岩A		36.8	52.6	11.0	19.61	1	114											F	Ⅹ層下部	-25788.950	51914.864	40.077	
1	1	15182	0001	礫片	チャート		15.9	10.3	3.1	0.56													X	Ⅹ層上部	-25791.942	51914.685	40.322	
1	1	15182	0004	礫片	流紋岩		23.6	24.2	10.2	6.04													X	Ⅹ層下部	-25792.427	51913.307	39.878	
1	1	15182	0005	礫	チャート		9.5	5.5	1.5	0.10													X	Ⅹ層下部	-25792.575	51913.479	39.797	
1	1	15182	0006	剥片	安山岩A		9.5	15.1	3.3	0.37	P												X	Ⅹ層上部	-25794.164	51913.706	40.110	
1	1	15182	0007	剥片	安山岩A		12.0	16.3	4.1	0.71	1	135											F	Ⅹ層上部	-25794.720	51913.639	39.950	
1	1	15182	0009	剥片	安山岩A		11.1	11.3	3.3	0.39													F	Ⅹ層上部	-25794.113	51914.959	40.000	
1	1	15182	0010	剥片	安山岩A		10.7	5.4	2.1	0.13													F	Ⅹ層上部	-25794.476	51914.641	39.740	
1	1	15182	0011	剥片	安山岩A		10.2	8.6	2.3	0.21	P												F	Ⅹ層上部	-25794.644	51914.643	39.847	
1	1	15182	0012	碎片	安山岩A		9.2	9.4	1.3	0.13													H	Ⅹ層下部	-25794.650	51914.800	39.917	
1	1	15182	0014	剥片	安山岩A		10.8	9.9	3.5	0.40													H	Ⅹ層下部	-25794.893	51914.728	39.798	
1	1	15183	0001	碎片	安山岩A		3.4	5.2	1.7	0.02	1	116											F	Ⅹ層上部	-25794.923	51915.229	39.955	
1	1	15183	0002	剥片	安山岩A		16.3	22.2	4.0	1.00													F	Ⅹ層上部	-25794.982	51915.829	39.970	
1	1	15183	0003	剥片	安山岩A		21.6	17.4	4.0	1.53	1	104											H	Ⅹ層下部	-25794.644	51914.643	39.847	
1	1	15183	0004	剥片	安山岩A		10.8	15.9	2.9	0.39	1	112											H	Ⅹ層下部	-25794.893	51914.728	39.798	
1	1	15183	0004	碎片	安山岩A		5.7	9.7	2.2	0.10	1	118											F	Ⅹ層上部	-25794.348	51916.084	40.010	遺物No重複
1	1	15183	0005	剥片	安山岩A		17.3	15.6	4.5	1.16	1	118											F	記録なし	-25793.768	51917.040	40.408	遺物No重複
1	1	15183	0006	剥片	安山岩A		4.8	9.9	2.1	0.08													H	Ⅹ層下部	-25793.061	51916.020	40.037	遺物No重複
1	1	15192	0002	剥片	安山岩A		11.1	8.9	2.6	0.34	1	116											X	Ⅹ層下部	-25795.434	51914.374	39.885	遺物No重複
1	1	15192	0003	剥片	安山岩A		7.5	8.3	2.4	0.13	2	125											X	Ⅹ層下部	-25795.419	51914.614	39.977	遺物No重複
1	1	15193	0001	剥片	安山岩A		15.8	16.9	3.8	0.82	2	116											F	Ⅹ層下部	-25795.419	51914.614	39.977	出土位置不明
2	1	15172	0001	削器	安山岩A		35.8	32.1	10.7	9.36	1	119											O	Ⅹ層下部	-25785.449	51911.255	40.060	
2	2	15162	0004	調整痕のある剥片	安山岩A		44.3	34.4	9.9	12.34	1	122											F	Ⅹ層下部	-25784.475	51911.344	40.140	台形様石器?
2	3	15162	0001	剥片	安山岩A		43.7	31.3	9.1	11.57	C	137											H	Ⅹ層下部	-25780.411	51912.421	40.125	
2	4	15172	0002	剥片	安山岩A		38.1	36.6	9.1	10.94	2	120											F	Ⅹ層下部	-25785.697	51911.291	40.093	
2	5	15172	0003	剥片	安山岩B		39.2	32.7	6.3	5.73	1	94											H	Ⅹ層下部	-25787.191	51911.969	40.087	
2	6	15162	0003	原石	安山岩A		65.7	49.1	28.4	126.87													X	Ⅹ層下部	-25784.033	51911.692	40.052	
2	2	15162	0002	礫片	ホルンフェルス		10.6	8.2	1.9	0.17													X	Ⅹ層下部	-25783.919	51912.185	40.175	
3	1	15141	0001	使用痕のある剥片	珪質頁岩		43.5	23.0	4.8	2.21	2	112											F	Ⅹ層中部	-25774.450	51909.067	40.198	
3	2	15152	0004	剥片	安山岩A		31.9	54.1	10.2	11.69	1	128											O	Ⅹ層下部	-25775.990	51914.859	39.955	
3	3	15152	0001	石核	安山岩A		60.5	59.0	17.7	46.40													X	Ⅹ層下部	-25777.138	51911.245	40.150	

第10表 旧石器観察表 (2)

石器集中	挿図 No.	フリット	遺物番号	器種	石材	接合 No.	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	打面形状	打面角度	打面調整	頭部調整	背面構成					折面部位	末端	層位	X座標	Y座標	標高 (m)	備考		
															C	S	H	T	R								L	D
3		15152	0002	剥片	安山岩A		26.5	16.8	6.8	3.18	1	126		○	2	2						F	Ⅵ層下部	-25775.581	51910.757	40.280		
3		15152	0003	礫	チャート		11.6	5.0	3.2	0.21												L-R	Ⅴ層上部	-25775.331	51911.534	40.066		
4	1	15161	0214	ナイフ形石器	安山岩A		26.9	17.6	7.0	3.10												F	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.535	51906.028	40.715		
4	2	15161	0034	ナイフ形石器	安山岩A		29.6	20.1	8.3	4.33												F	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.806	51905.784	40.820		
4	3	15161	0091	ナイフ形石器	安山岩A		30.3	16.1	6.8	3.11													H	Ⅳ～Ⅴ層	-25784.677	51907.799	40.744	
4	4	15161	0015	剥片	安山岩A		24.2	24.7	8.3	3.02	1	122		○	3							H	Ⅳ～Ⅴ層	-25784.073	51906.665	40.812		
4	5	15161	0217	剥片	安山岩A		32.1	22.6	8.1	4.90												F	Ⅳ～Ⅴ層	-25784.150	51906.280	40.745		
4	6	15161	0116	剥片	安山岩A		43.0	38.7	15.4	21.31	1	130		○	1	1						H	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.800	51906.313	40.758		
4	7	15161	0120	剥片	安山岩A		17.1	19.3	5.9	1.82	1	109		○	1							F	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.591	51906.153	40.859		
4	8	15161	0190	剥片	安山岩A		13.1	21.7	4.5	1.25	1	113		○	3	1						F	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.348	51906.135	40.712		
4	9	15161	0163	剥片	安山岩A		20.6	19.6	5.8	2.20												F	Ⅳ～Ⅴ層	-25784.061	51907.419	40.794		
4	10	15161	0012	使用痕のある剥片	安山岩A		25.2	33.2	8.2	6.51	2	111		○	3							H	Ⅲ層下部	-25784.168	51906.127	40.941		
4	11	15161	0004	剥片	安山岩A	1	48.6	28.6	9.5	9.42	1	115		○	1							H	Ⅳ～Ⅴ層	-25784.686	51906.167	40.831		
4	12	15161	0026	剥片	安山岩A	1	33.2	24.2	11.6	7.56	1	128		○	1							H	Ⅲ層下部	-25783.529	51906.465	40.962		
4	13	15161	0102	剥片	安山岩A	1	33.2	18.7	9.1	5.35												F	Ⅳ～Ⅴ層	-25784.341	51906.360	40.791		
4	14	15160	0009	剥片	安山岩A	1	11.1	17.2	4.0	0.60	1	109		○	4							F	記録なし	-25783.212	51904.479	40.768		
4	15	15161	0117	剥片	安山岩A	1	20.1	17.7	6.9	1.75	1	130		○	1	2						F	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.771	51906.422	40.757		
4	16	15161	0110	剥片	安山岩A	1	16.4	18.1	6.7	1.70	2	106		○	2	1						F	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.979	51906.417	40.768		
4	17	15161	0193	剥片	安山岩A	1	24.5	35.2	10.7	7.55	C	118		○	2							H	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.697	51906.435	40.733		
4	18	15161	0045	剥片	安山岩A	1	10.1	32.2	8.0	1.77	1	107		○	1	2						H	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.558	51905.543	40.943		
4	19	15161	0198	剥片	安山岩A	1	23.6	19.8	6.7	2.95												F	Ⅳ～Ⅴ層	-25784.033	51906.219	40.724		
4	20	15161	0106	剥片	安山岩A	1	15.5	21.2	6.6	1.80	2	22										H	Ⅳ～Ⅴ層	-25784.062	51906.544	40.706		
4	21	15161	0232	剥片	安山岩A	1	33.3	36.3	7.7	7.20	2	111										F	Ⅵ層	-25783.497	51907.222	40.905		
4	22	15161	0014	剥片	安山岩A	1	21.9	16.5	6.3	2.68	1	123										F	Ⅳ～Ⅴ層	-25784.036	51906.275	40.939		
4	23	15161	0025	石核	安山岩A	1	42.8	49.5	29.5	61.37												F	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.747	51906.080	40.812		
4	24	15161	0196	ナイフ形石器	珪質頁岩A1		25.3	14.3	5.9	1.50													Ⅳ～Ⅴ層	-25784.120	51906.518	40.688		
4	25	15161	0119	ナイフ形石器	珪質頁岩A1		16.7	14.6	4.1	1.19													Ⅳ～Ⅴ層	-25783.633	51906.242	40.805		
4	26	15161	0077	使用痕のある剥片	珪質頁岩A1		14.1	23.2	4.0	0.93	1	123										H	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.378	51905.815	40.909		
4	27	15161	0062	剥片	珪質頁岩A2		14.6	16.9	6.1	1.28	1	126		○	3	2						F	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.067	51905.442	40.915		
4	28	15161	0158	剥片	珪質頁岩A2		17.7	19.3	3.1	0.61	P			○	3							H	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.161	51905.415	40.784		
4	29	15161	0182	剥片	珪質頁岩A1	2	7.9	15.0	3.2	0.33	P			○	1	2						H	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.353	51905.526	40.761		
4	30	15161	0107	剥片	珪質頁岩A1	2	10.8	16.7	3.9	0.60	1	135		○	1	2						O	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.873	51906.653	40.857		
4	31	15161	0038	剥片	珪質頁岩A1	2	12.7	12.4	3.3	0.46	1	145		○	1	1						F	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.897	51905.396	40.815		
4	32	15161	0052	使用痕のある剥片	珪質頁岩A1	2	16.9	24.0	8.5	2.27	P			○	2							F	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.298	51905.192	40.824		
4	33	15161	0088	剥片	珪質頁岩A1	2	10.8	18.2	3.2	0.38	P			○	2							H	Ⅳ～Ⅴ層	-25781.585	51906.656	40.988		
4	34	15161	0169	剥片	珪質頁岩A1	2	27.6	37.5	16.3	15.22	P			○	3	5						H	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.069	51905.549	40.780		
4	35	15160	0008	剥片	珪質頁岩A1	2	29.4	14.2	11.2	2.46	1	126		○	1							H	Ⅲ層下部	-25782.704	51904.362	40.966		
4	36	15161	0072	剥片	珪質頁岩A1	2	34.4	19.0	12.5	5.77	1	121		○	1	3						H	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.256	51905.632	40.805		
4	37	15161	0064	剥片	珪質頁岩A1	2	22.6	17.5	7.1	1.41	C	116		○	3							H	Ⅳ～Ⅴ層	-25782.989	51905.471	40.855		
4	38	15161	0161	剥片	珪質頁岩A1	2	18.2	14.5	10.2	1.65	1	93		○	3							F	Ⅳ～Ⅴ層	-25782.901	51905.145	40.810		
4	39	15161	0030	剥片	珪質頁岩A1	2	32.9	22.4	9.0	6.43	2	120		○	2							H	Ⅳ～Ⅴ層	-25783.603	51905.921	40.915		









第15表 旧石器観察表 (7)

石器集中	挿図 No	グロット番号	遺物番号	器種	石材	接合 No	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	打面形状	打面打角	打面調整	頭部調整	背面構成			折面部位	本端	層位	X座標	Y座標	標高 (m)	備考	
															C	S	H								T
4	15161	0177	0177	碎片	珪質頁岩A1		6.0	5.2	0.8	0.02	P									IV~V層	-25783.601	51905.534	40.668		
4	15161	0178	0178	碎片	珪質頁岩A1		2.1	3.9	0.5	0.01	P										IV~V層	-25783.578	51905.654	40.744	
4	15161	0179	0179	剥片	安山岩A		10.6	6.0	2.9	0.15	1	104				2					IV~V層	-25783.612	51905.739	40.717	
4	15161	0181	0181	碎片	珪質頁岩A1		6.3	5.3	1.8	0.06	1	120									IV~V層	-25783.353	51905.592	40.743	
4	15161	0184	0184	碎片	珪質頁岩A1		7.7	9.9	2.1	0.13	1	115									IV~V層	-25783.394	51905.485	40.708	
4	15161	0185	0185	碎片	珪質頁岩A1		3.3	7.9	0.8	0.01	L										IV~V層	-25783.155	51905.489	40.692	
4	15161	0186	0186	碎片	珪質頁岩A1		4.8	2.6	0.8	0.01	P										IV~V層	-25783.067	51905.421	40.768	
4	15161	0187	0187	碎片	珪質頁岩A1		7.3	7.2	1.9	0.10	1	128									IV~V層	-25782.975	51905.338	40.769	
4	15161	0188	0188	剥片	珪質頁岩A1		19.3	3.9	2.3	0.09	P										IV~V層	-25782.995	51905.491	40.765	
4	15161	0189	0189	碎片	珪質頁岩A1		8.1	5.4	1.9	0.04	1	125									IV~V層	-25782.962	51905.611	40.709	
4	15161	0191	0191	剥片	珪質頁岩A1		20.8	7.0	3.7	0.31											IV~V層	-25783.525	51906.094	40.762	
4	15161	0192	0192	剥片	安山岩A		13.2	10.4	3.9	0.54	1	122									IV~V層	-25783.580	51906.063	40.718	
4	15161	0194	0194	剥片	安山岩A		6.3	13.1	3.0	0.21	1	118									IV~V層	-25783.846	51906.344	40.751	
4	15161	0195	0195	碎片	安山岩A		7.2	4.3	2.2	0.07	1	120									IV~V層	-25783.957	51906.477	40.728	
4	15161	0197	0197	碎片	安山岩A		7.6	6.3	1.5	0.06	L										IV~V層	-25784.172	51906.673	40.712	
4	15161	0199	0199	剥片	珪質頁岩A1		15.1	6.3	2.7	0.16											IV~V層	-25784.168	51906.294	40.804	
4	15161	0200	0200	碎片	安山岩A		6.1	3.6	1.0	0.03											IV~V層	-25783.998	51906.096	40.667	
4	15161	0201	0201	碎片	珪質頁岩A1		4.8	8.5	1.6	0.04	L										IV~V層	-25783.593	51905.129	40.768	
4	15161	0202	0202	碎片	珪質頁岩A1		5.8	4.8	1.6	0.04	1	114									IV~V層	-25783.040	51905.282	40.660	
4	15161	0203	0203	碎片	珪質頁岩A1		7.1	8.0	1.3	0.06											IV~V層	-25783.342	51905.325	40.658	
4	15161	0204	0204	碎片	珪質頁岩A1		5.0	5.0	1.3	0.03	P										IV~V層	-25783.535	51905.148	40.727	
4	15161	0205	0205	剥片	珪質頁岩A1		6.0	15.3	2.4	0.22	1	120									IV~V層	-25783.500	51905.179	40.649	
4	15161	0206	0206	碎片	珪質頁岩A1		7.6	7.0	2.3	0.09	1	119									IV~V層	-25783.512	51905.408	40.694	
4	15161	0207	0207	碎片	珪質頁岩A1		7.1	6.4	1.7	0.09	1	124									IV~V層	-25783.437	51905.382	40.667	
4	15161	0210	0210	碎片	安山岩A		8.3	8.9	2.1	0.14	1	116									IV~V層	-25783.434	51905.504	40.731	
4	15161	0211	0211	碎片	珪質頁岩A1		5.1	6.4	0.8	0.01	P										IV~V層	-25783.356	51905.422	40.760	
4	15161	0212	0212	碎片	珪質頁岩A1		9.9	5.8	1.9	0.09	P										IV~V層	-25783.055	51905.517	40.687	
4	15161	0213	0213	碎片	珪質頁岩A1		9.4	8.6	3.4	0.17	1	121									IV~V層	-25782.966	51905.298	40.742	
4	15161	0215	0215	碎片	安山岩A		7.3	6.0	2.0	0.07	1	113									IV~V層	-25783.721	51906.277	40.655	
4	15161	0216	0216	碎片	安山岩A		6.8	7.5	1.0	0.05	L										IV~V層	-25784.133	51906.241	40.747	
4	15161	0218	0218	碎片	安山岩A		6.0	9.7	3.3	0.17	P										IV~V層	-25784.170	51906.272	40.647	
4	15161	0220	0220	碎片	珪質頁岩A1		1.9	2.6	0.2	0.01	P										IV~V層	-25783.330	51905.471	40.722	
4	15161	0221	0221	剥片	珪質頁岩A1		10.5	5.5	2.1	0.06	P										IV~V層	-25783.037	51905.322	40.657	
4	15161	0222	0222	礫	チャート		6.8	4.2	3.3	0.12											IV~V層	-25783.304	51905.407	40.672	
4	15161	0223	0223	碎片	珪質頁岩A1		4.5	3.0	0.8	0.01	P										VI層	-25783.274	51905.492	40.602	
4	15161	0224	0224	碎片	珪質頁岩A1		5.5	5.3	1.5	0.04	P										IV~V層	-25783.103	51905.596	40.650	
4	15161	0226	0226	剥片	安山岩A		11.7	17.4	3.9	0.68	2	126									VI層	-25783.684	51905.931	40.618	
4	15161	0227	0227	礫	チャート		18.7	7.9	5.8	1.35											VI層	-25781.863	51906.034	40.596	
4	15161	0228	0228	剥片	安山岩A		12.6	18.2	6.2	1.13											IV~V層	-25784.372	51907.179	40.826	
4	15161	0229	0229	剥片	安山岩A		4.3	11.1	2.5	0.09											IV~V層	-25784.206	51907.027	40.802	
4	15161	0230	0230	剥片	珪質頁岩A1		8.3	13.1	2.6	0.17	P										IV~V層	-25783.741	51907.258	40.827	

第16表 旧石器観察表 (8)

石器集中 挿図 No	グリップ No	遺物 番号	器種	石材	接合 No	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	打面 形状	打面 形角	打面 調整	頭部 調整	背面構成			折面 部位	末端	層位	X座標	Y座標	標高(m)	備考
														C	S	H							
4	15161	0231	碎片	安山岩A		49	58	1.0	0.02	P							IV~V層	-25783.646	51907.207	40.838			
4	15161	0234	剥片	メノウ		120	21.1	3.9	0.46				○		2		IV~V層	-25783.048	51909.943	40.748			
4	15171	0001	剥片	安山岩A		136	82	2.0	0.15	1	112		○		2	1	IV~V層	-25785.064	51906.828	40.855			
4	15171	0002	剥片	安山岩A		138	130	5.2	0.86	1	118		○		2		III層下部	-25785.176	51906.178	40.901			
4	15171	0003	碎片	珪質頁岩A1		66	9.1	1.8	0.07	1	107		○				IV~V層	-25785.200	51905.619	40.868			
5	15109	0078	ナイフ形石器	珪質頁岩A1		30.4	14.9	10.3	2.52								IV~V層	-25752.122	51947.172	40.876			
5	15109	0028	削器	珪質頁岩A1		178	16.7	4.1	1.08	1	118		○		2		IV~V層	-25752.236	51947.870	40.875			
5	15109	0038	搔器	珪質頁岩A1		200	17.5	4.8	1.15	1			○				III層	-25752.249	51946.420	41.026			
5	15109	0010	ナイフ形石器	珪質頁岩A1		129	8.7	4.3	0.30				○				III層	-25751.339	51946.530	40.916			
5	15109	0021	彫刻刀形石器	珪質頁岩A1		20.7	12.1	5.7	1.41				○		2		IV~V層	-25751.658	51947.365	40.850			
5	15109	0032	削器	珪質頁岩A1		24.4	18.2	5.4	1.96				○				IV~V層	-25752.398	51947.128	40.925			
5	15109	0037	使用痕のある剥片	珪質頁岩A1		27.0	24.8	8.7	3.10	2	117		○				III層	-25752.151	51946.427	41.028			
5	15109	0065	使用痕のある剥片	珪質頁岩A1		23.5	19.7	10.6	3.06	2	127		○		3		IV~V層	-25752.463	51945.980	40.882			
5	15109	0059	剥片	珪質頁岩A1	1	12.1	9.0	3.2	0.27				○		2		IV~V層	-25751.997	51947.447	40.878			
5	15109	0019	剥片	珪質頁岩A1	1	16.5	26.7	7.4	1.87	2	132		○		1		IV~V層	-25751.448	51947.106	40.879			
5	15109	0033	剥片	珪質頁岩A1	1	23.0	20.2	6.2	1.06	1	120		○				IV~V層	-25752.200	51948.151	40.910			
5	15109	0046	剥片	珪質頁岩A1	1	8.8	16.8	2.2	0.19				○		2		IV~V層	-25753.409	51946.800	40.895			
5	15109	0064	ナイフ形石器	珪質頁岩A1	1	21.6	13.5	4.4	1.40				○				IV~V層	-25751.920	51947.912	40.752			
5	15109	0060	使用痕のある剥片	珪質頁岩A1	1	18.4	19.6	4.7	1.02	1	135		○		1		IV~V層	-25751.696	51947.345	40.826			
5	15109	0030	剥片	珪質頁岩A1	1	30.3	16.6	8.0	2.88	1	100		○		3		IV~V層	-25752.642	51947.872	40.865			
5	15109	0047	剥片	珪質頁岩A1	2	17.7	14.0	4.2	0.89				○				IV~V層	-25752.401	51945.951	40.935			
5	15109	0004	碎片	珪質頁岩A1	2	22.9	16.7	6.7	1.66	1	114		○		2		III層	-25750.178	51946.363	40.732			
5	15109	0026	剥片	珪質頁岩A1	2	26.1	24.4	6.7	2.94	1	120		○		2		III層	-25752.065	51947.134	41.025			
5	15109	0085	剥片	珪質頁岩A1	2	17.5	15.5	4.7	0.96	1	118		○		4		III層	-25751.870	51946.951	40.680			
5	15109	0022	剥片	珪質頁岩A1	3	19.1	14.6	4.6	1.05	1	117		○				VI層	-25751.871	51947.083	41.097			
5	15109	0036	剥片	珪質頁岩A1	3	15.5	12.5	3.8	0.68	1	108		○				III層	-25752.080	51946.637	40.960			
5	15109	0084	剥片	珪質頁岩A1	3	10.1	10.2	2.7	0.29	1	115		○		1		VI層	-25752.916	51946.446	40.725			
5	15109	0055	剥片	珪質頁岩A1	4	17.3	3.8	5.3	1.13	1	123		○		1		III層	-25752.127	51947.000	40.981			
5	15109	0053	剥片	珪質頁岩A1	4	17.1	7.6	4.0	0.29				○		1		III層	-25751.874	51947.005	41.082			
5	15109	0068	剥片	珪質頁岩A1	4	20.1	16.4	4.4	1.13	1	120		○				IV~V層	-25752.026	51947.239	40.919			
5	15109	0049	石核	珪質頁岩A1	5	16.8	51.6	23.5	13.03	1	114		○				III層	-25753.164	51945.774	41.040			
5	15109	0039	剥片	珪質頁岩A1	5	18.7	14.2	6.0	1.10	P			○		2		IV~V層	-25752.331	51946.660	40.887			
5	15109	0043	剥片	珪質頁岩A2	6	15.9	16.6	6.0	1.26	1	119		○		3		III層	-25753.201	51946.901	41.040			
5	15109	0008	碎片	珪質頁岩A1	6	9.8	9.2	3.9	0.23				○				III層	-25751.768	51946.573	40.768			
5	15109	0063	使用痕のある剥片	珪質頁岩A1	7	17.5	14.9	3.5	0.78	1	123		○		3		IV~V層	-25752.285	51946.965	40.808			
5	15109	0073	使用痕のある剥片	珪質頁岩A1	7	11.1	12.5	3.3	0.27	L			○		3		IV~V層	-25751.841	51947.158	40.883			
5	15109	0061	剥片	珪質頁岩A1	8	11.3	18.0	4.9	0.87	L			○		3		IV~V層	-25751.527	51947.262	40.745			
5	15109	0083	剥片	珪質頁岩A1	8	13.8	14.3	2.5	0.36	1	120		○		4		IV~V層	-25751.794	51946.944	40.859			
5	15109	0001	剥片	珪質頁岩A1		5.4	7.4	1.4	0.06	1	110		○				III層	-25751.793	51945.530	40.843			
5	15109	0002	剥片	珪質頁岩A2		14.2	24.4	13.5	3.03				○				III層	-25751.329	51945.967	40.953			
5	15109	0003	礫片	砂岩		14.1	8.1	3.2	0.51				○				III層	-25750.203	51945.511	40.790			

第17表 旧石器観察表(9)

石器集中	挿図No.	グリップ番号	遺物番号	器種	石材	接合No.	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	打面角	打面調整	頭部調整	背面構成			折面部位	末端	層位	X座標	Y座標	標高(m)	備考
															C	S	H							
5	15109	0005	0005	碎片	珪質頁岩A1		9.8	7.0	1.2	0.08					1			H	III層	-25750.978	51946.826	40.921		
5	15109	0006	0006	碎片	珪質頁岩A1		4.5	6.7	1.6	0.05								H	III層	-25751.542	51946.731	40.872		
5	15109	0007	0007	剥片	珪質頁岩A1		8.0	10.5	1.5	0.10	1	125			3			L	III層	-25751.793	51946.761	40.847		
5	15109	0009	0009	剥片	珪質頁岩A		16.8	12.6	3.6	0.41	1	126			1			R	III層	-25751.555	51946.539	40.930		
5	15109	0011	0011	碎片	珪質頁岩A1		5.3	4.2	0.8	0.02	P							F	III層	-25751.636	51946.630	40.905		
5	15109	0012	0012	碎片	珪質頁岩A1		5.3	4.2	1.0	0.01	1	118						F	III層	-25751.421	51946.565	40.885		
5	15109	0013	0013	碎片	珪質頁岩A1		9.3	7.5	1.7	0.10	1	108						F	III層	-25751.498	51946.633	40.895		
5	15109	0014	0014	鏢	チャート		5.5	5.0	2.4	0.09								F	III層	-25751.381	51946.602	40.825		
5	15109	0015	0015	碎片	珪質頁岩A1		6.4	7.3	2.1	0.10	1	116						L	III層	-25751.437	51946.233	40.628		
5	15109	0016	0016	剥片	珪質頁岩A1		9.4	11.5	5.9	0.43	1	123			2		1	O	III層	-25751.530	51946.685	40.852		
5	15109	0017	0017	剥片	珪質頁岩A1		9.2	12.0	3.0	0.28	1	120			3			F	IV~V層	-25751.217	51947.918	40.867		
5	15109	0018	0018	剥片	珪質頁岩A1		5.2	15.4	4.8	0.28	L				1		2	F	IV~V層	-25751.324	51948.034	40.869		
5	15109	0020	0020	剥片	珪質頁岩A1		9.0	13.5	2.2	0.23	1	123			2			T	III層	-25751.634	51947.077	40.995		
5	15109	0023	0023	剥片	珪質頁岩A1		11.4	8.4	1.7	0.17	1	120			3			H	III層	-25751.874	51947.328	40.973		
5	15109	0024	0024	剥片	珪質頁岩A1		6.1	11.6	1.7	0.10								H	III層	-25751.875	51947.538	40.950		
5	15109	0025	0025	剥片	珪質頁岩A1		13.3	19.5	1.8	0.36	1	112			3		1	H	III層	-25751.951	51947.822	40.868		
5	15109	0027	0027	剥片	珪質頁岩A1		9.7	14.8	3.1	0.28	1	113			2			H	IV~V層	-25752.104	51947.306	40.930		
5	15109	0029	0029	使用痕のある剥片	珪質頁岩A1		9.5	14.6	3.4	0.41	1	121			1			H	IV~V層	-25752.543	51947.654	40.950		
5	15109	0031	0031	剥片	珪質頁岩A1		11.5	16.7	3.8	0.59	2	107			1			H	IV~V層	-25752.470	51947.867	40.875		
5	15109	0034	0034	剥片	珪質頁岩A2		14.7	13.5	4.3	0.51	1	110						L	IV~V層	-25752.358	51948.198	40.925		
5	15109	0035	0035	碎片	珪質頁岩A1		9.5	7.6	2.6	0.19	P						L·R	III層	-25752.120	51946.902	41.032			
5	15109	0040	0040	碎片	珪質頁岩A1		6.4	6.7	3.7	0.10	2	122						F	IV~V層	-25752.351	51946.958	40.905		
5	15109	0041	0041							遺物なし								F	III層	-25752.561	51946.246	41.205		
5	15109	0042	0042	剥片	珪質頁岩A2		17.9	15.6	4.0	0.97	1	123			3		1	L	IV~V層	-25752.901	51946.975	40.842		
5	15109	0044	0044	剥片	珪質頁岩A2		10.8	8.1	2.8	0.16	1	120			1			L·T	III層	-25753.144	51946.675	41.014		
5	15109	0045	0045	剥片	珪質頁岩A2		7.3	10.9	2.5	0.21	3	135						L	III層	-25753.145	51946.537	41.010		
5	15109	0048	0048	剥片	珪質頁岩A2		8.9	20.5	4.5	0.49	1	127			1			F	III層	-25753.214	51945.944	41.024		
5	15109	0050	0050	碎片	珪質頁岩A1		7.3	4.2	0.9	0.03	P							F	III層	-25753.052	51945.731	41.040		
5	15109	0051	0051	剥片	珪質頁岩A2		8.6	10.5	2.8	0.24	1	108			1			R·T	III層	-25754.043	51945.350	41.022		
5	15109	0052	0052	剥片	珪質頁岩A2		20.6	17.1	4.7	1.07					3			R	IV~V層	-25754.054	51945.150	40.874		
5	15109	0054	0054	使用痕のある剥片	珪質頁岩A1		10.0	14.2	3.1	0.41	1	122			2			R	IV~V層	-25751.952	51947.203	40.937		
5	15109	0056	0056	剥片	珪質頁岩A1		10.7	15.9	3.6	0.58	L				2			O	IV~V層	-25752.186	51947.260	40.832		
5	15109	0057	0057	碎片	珪質頁岩A1		9.4	4.0	2.3	0.05	P							O	IV~V層	-25751.974	51947.287	40.981		
5	15109	0058	0058	剥片	珪質頁岩A1		10.5	13.6	4.1	0.41	C	102					1	H	IV~V層	-25751.781	51947.144	40.890		
5	15109	0062	0062	剥片	珪質頁岩A1		5.2	9.9	3.1	0.13	1	118						F	IV~V層	-25752.194	51947.484	40.840		
5	15109	0066	0066	剥片	珪質頁岩A2		18.1	14.6	4.0	0.82	1	126			2			L·R	IV~V層	-25753.248	51946.697	40.928		
5	15109	0067	0067	剥片	珪質頁岩A1		8.0	6.8	1.9	0.06	1	108					1	F	IV~V層	-25751.756	51947.254	40.880		
5	15109	0069	0069	碎片	珪質頁岩A1		7.4	8.6	1.4	0.10	1	111						H	IV~V層	-25751.959	51947.387	40.841		
5	15109	0070	0070	剥片	珪質頁岩A1		5.4	6.3	1.3	0.05	1	114						T	IV~V層	-25751.752	51946.956	40.944		
5	15109	0071	0071	剥片	珪質頁岩A1		5.5	10.3	1.5	0.07	L							H	VI層上部	-25752.246	51946.935	40.807		
5	15109	0072	0072	剥片	珪質頁岩A1		12.1	4.8	3.4	0.40	1	116			2			R	IV~V層	-25751.595	51947.195	40.870		

第18表 旧石器観察表 (10)

石器集中 挿入 No.	挿入 No.	遺物 番号	器種	石材	接合 No.	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	打面 形状	打 面 角 度	打面 調整	頭部 調整	背面構成			折面 部位	本 端	層位	X座標	Y座標	標高(m)	備考
														C	S	H							
5	15109	0074	剥片	珧質頁岩A1		7.9	12.6	2.1	0.17	P			○	3				IV~V層	-25751.945	51947.059	40.902		
5	15109	0075	剥片	珧質頁岩A1		9.3	13.2	2.7	0.29		120		○	2				IV~V層	-25751.968	51947.335	40.899		
5	15109	0076	剥片	珧質頁岩A1		9.3	9.2	2.7	0.17	1			○					IV~V層	-25751.588	51947.009	40.789		
5	15109	0077	礫	チャート		6.5	5.5	2.4	0.12									IV~V層	-25751.732	51947.060	40.872		
5	15109	0079	砕片	珧質頁岩A1		6.1	3.2	0.8	0.01	>								IV~V層	-25752.048	51947.006	40.850		
5	15109	0080	砕片	珧質頁岩A1		4.1	5.9	2.1	0.05									IV~V層	-25752.082	51947.240	40.838		
5	15109	0081	砕片	珧質頁岩A1		8.3	8.6	2.5	0.19	P			○					IV~V層	-25751.959	51947.143	40.806		
5	15109	0082	砕片	珧質頁岩A1		8.5	13.9	3.3	0.28	1	117		○	2				IV~V層	-25751.844	51947.254	40.805		
6	13184	0007	調整痕のある剥片	安山岩A1		22.5	15.5	6.6	2.39									IV~V層	-25694.055	51974.036	41.503		
6	13175	0012	剥片	チャート1		18.1	13.5	5.9	1.29	C	114		○	1				VI層上部	-25689.265	51976.761	41.295		
6	13175	0008	剥片	チャート1		18.2	25.0	6.0	2.45	1	127		○					VI層上部	-25689.881	51976.411	41.314		
6	13175	0001	削器	チャート2	1	23.2	17.3	5.5	2.48				○					IV~V層	-25688.194	51976.026	41.514		
6	13185	0001	剥片	チャート2	1	7.1	15.8	2.8	0.26	1	126							VI層上部	-25690.577	51975.948	41.311		
6	13175	0004	剥片	チャート2	1	20.0	21.0	5.5	1.13	1	113		○	4				IV~V層	-25689.121	51975.947	41.405		
6	13175	0009	剥片	チャート2	1	27.2	14.8	5.7	2.09	1	114							血層下部	-25689.618	51976.614	41.597		
6	13185	0008	石核	チャート2	1	37.4	21.5	23.5	30.72									IV~V層	-25690.508	51976.291	41.440		
6	13175	0007	剥片	チャート1	2	10.2	6.4	3.7	0.25	1	107		○	1				IV~V層	-25689.441	51976.364	41.454	遺物No.重複	
6	13175	0013	剥片	チャート1	2	10.5	6.1	2.5	0.12	P			○	2				IV~V層	-25689.256	51976.586	41.389		
6	13175	0011	砕片	チャート1	2	6.9	9.0	3.0	0.18				○					IV~V層	-25689.441	51976.061	41.312		
6	13175	0005	剥片	チャート1	2	17.6	13.5	6.7	1.44	P			○	2				IV~V層	-25690.663	51976.172	41.452		
6	13185	0002	剥片	チャート1	2	13.8	12.4	4.3	0.77				○	1				IV~V層	-25689.670	51976.557	41.370		
6	13175	0015	石核	チャート1	2	10.6	23.9	11.5	3.36									IV~V層	-25689.614	51976.553	41.341		
6	13175	0016	石核	チャート1	2	10.0	20.8	13.1	2.76									IV~V層	-25689.577	51976.106	41.474		
6	13175	0006	石核	チャート1	2	9.1	23.2	12.6	2.70									IV~V層	-25689.577	51976.106	41.474		
6	13175	0013	剥片	チャート1	3	11.7	9.3	3.6	0.53				○	2				IV~V層	-25689.661	51976.278	41.425	遺物No.重複	
6	13184	0003	砕片	チャート1	3	5.1	9.9	1.8	0.11	P								IV~V層	-25693.370	51974.407	41.515		
6	13185	0005	調整痕のある剥片	チャート1	3	17.3	41.1	14.7	9.06				○	2				IV~V層	-25690.453	51976.943	41.564		
6	13184	0002	剥片	安山岩A1	4	29.3	14.6	9.0	3.89	1	120		○					IV~V層	-25691.891	51974.263	41.512		
6	13185	0006	石核	安山岩A1	4	13.9	29.4	15.7	5.85									IV~V層	-25694.795	51975.469	41.556		
6	13185	0003	礫	燧灰岩		70.7	45.2	15.6	70.47									IV~V層	-25690.643	51976.328	41.450		
6	13185	0004	礫片	チャート		50.5	32.9	24.3	48.39									IV~V層	-25690.530	51976.302	41.454		
6	13185	0007	礫	チャート		49.9	45.2	29.5	71.07									IV~V層	-25690.534	51976.188	41.444		
6	13175	0002	剥片	チャート2		6.7	11.2	4.5	0.25	1	107		○					IV~V層	-25688.741	51975.128	41.506		
6	13175	0003	剥片	チャート2		10.2	6.2	8.1	0.44	1								IV~V層	-25689.810	51975.640	41.422		
6	13175	0010	砕片	チャート1		7.2	6.3	1.1	0.04	P			○	1				IV~V層	-25689.479	51976.557	41.495		
6	13175	0014	剥片	チャート1		16.5	10.1	4.7	0.75	L								IV~V層	-25689.462	51976.396	41.427	面極	
6	13184	0001	砕片	燧灰岩		7.1	8.9	3.5	0.13									IV~V層	-25691.063	51974.492	41.536		
6	13184	0004	剥片	黒曜石		4.9	12.1	3.8	0.16	L								IV~V層	-25693.896	51974.528	41.545		
6	13184	0005	剥片	安山岩A1		14.1	7.1	3.8	0.37	1	113							血層下部	-25694.102	51973.799	41.564		
6	13184	0006	剥片	安山岩A1		9.3	12.0	5.9	0.41	3(2)	117							IV~V層	-25693.792	51973.759	41.461		
7	15G58	0001	調整痕のある剥片	チャート		31.7	39.6	9.5	14.06	C	114		○	2				IV~V層	-25779.792	51844.096	41.125		



### 第3節 縄文時代

#### 1 遺構（第37・38図，図版6）

1号土坑 15J10グリッドで検出された。緩く抉れた台地の奥部縁辺付近にあり，長軸方向は谷に並行となっている。平面形は長楕円形で一端がややすぼまり，確認面での大きさは長軸2.36m×短軸1.16m，確認面からの深さは0.52mである。長軸方向はN-17° -Eである。底面は凸凹を呈し，長軸0.4mの浅い掘り込みがみられる。覆土中から遺物は出土していない。確認面の標高が低く，陥穴の底面近くが残ったものとも解釈されるが，形状・深さ・覆土の状況等からは確証がないので，ここでは土坑としておく。

2号土坑 13J50グリッドで検出された。台地先端部付近にあり，確認面での平面形は楕円形を呈する。大きさは長軸2.08m×短軸1.40mで，底面は半分を削平してしまっているが，一辺約1.0mほどの隅丸方形に近い形状を呈していたと推測される。確認面からの深さは2.78mと深く，底面は常総粘土層に達している。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。長軸方向はN-69° -Eである。

土層断面の観察によると下位の9～14層はローム粒を含み，粘性・しまりが顕著で水平体積となるなど，土坑機能当時に壁等が崩落して堆積したものとみられ，その直上に堆積する黒色土は（図版6参照），旧表土起源のものと考えられ，本土坑を埋め戻した当初の土と理解される（人為的かどうかは疑問）。7層より上位は通常の陥穴等にみられるものと同様で，自然堆積と捉えることができる。覆土中から遺物は検出されていない。

1号陥穴 14I73・74グリッドにまたがって検出された。舌状台地中央部にあり，長軸方向は台地先端部に向かって谷と並行となっている。確認面での平面形は長楕円形を呈し，大きさは長軸2.04m×短軸1.16m，底面は長軸1.68m×短軸0.48mの長楕円形を呈している。確認面からの深さは1.48mである。長軸方向はN-60° -Eである。壁は短軸方向はほぼ垂直となり，長軸方向は底面から約0.6mのところできく抉れているのが特徴である。覆土中から遺物は出土していない。

2号陥穴 13J85・95グリッドにまたがって検出された。舌状台地先端部付近にあり，長軸方向は南東側の谷に向かって等高線に垂直となっている。確認面での平面形は長楕円形を呈し，大きさは長軸2.44m×短軸1.20mで，底面は長軸3.25m×短軸0.20mの棒状を呈している。確認面からの深さは2.00mである。長軸方向はN-24° -Wである。短軸方向の断面はV字状で急な角度で立ち上がり，長軸方向は袋状を呈している。覆土中から遺物は出土していない。

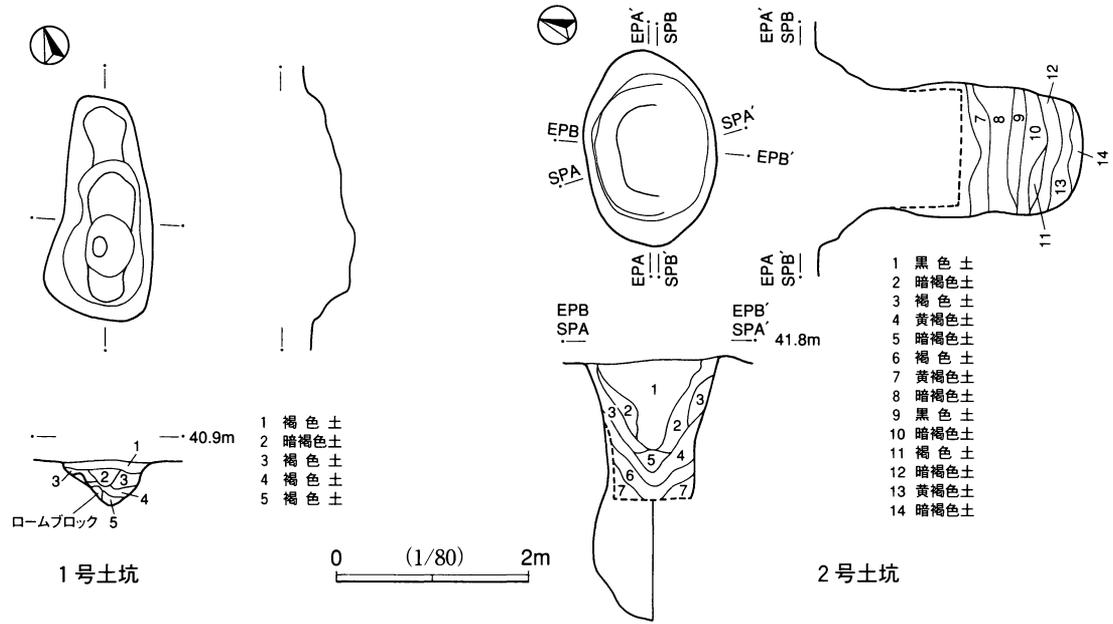
#### 2 遺物（第39・40図，図版11）

縄文土器片が若干であるが採集されている。1・2・4は撚糸文土器で，1は胴部片であり明瞭でないが撚糸文L，2は胴部片で比較的密な条の撚糸文L，3は底部付近で撚糸文Rが施文されている。それぞれ別個体で，2は施文後，全体的に軽く磨り消されている。早期稻荷台式土器である。3は繊維混入した無文の胴部片で，内面は縦位にナデられている。田戸上層から子母口式に並行するものと考えられる。5は波状沈線，6はL R縄文，7は変形爪形文が施文された胴部小破片で，前期浮島式並行のものである。

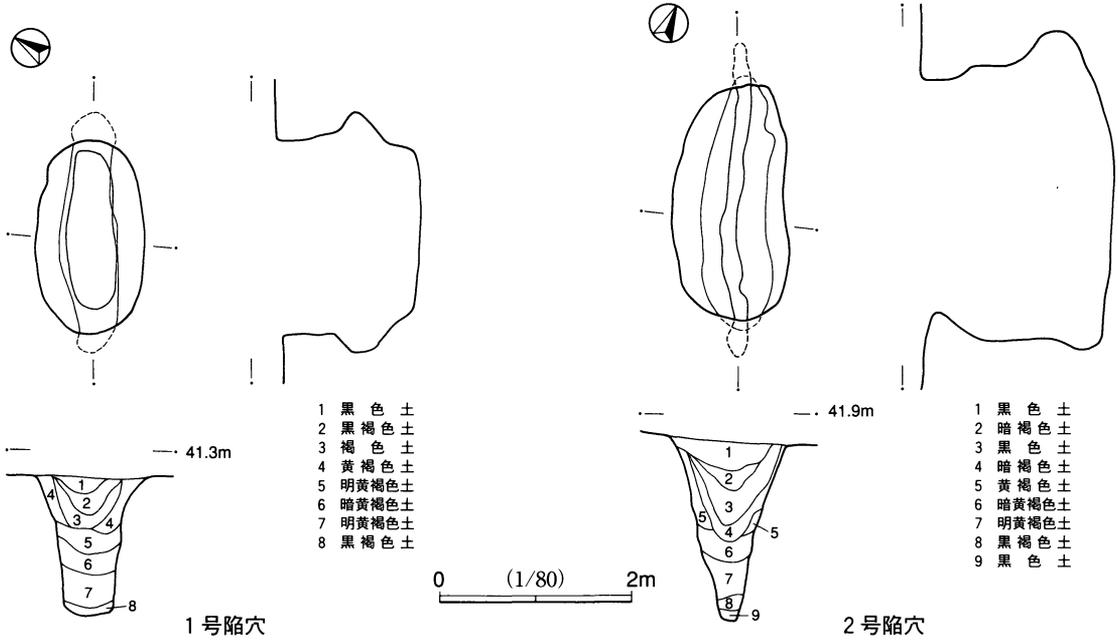
8はチャート製の石鏃で14I99グリッドから出土した。18.2×11.1×3.1mm，0.49g。

注1 川島利道・雨宮龍太郎 1985『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書V No.2遺跡 No.10遺跡』（財）千葉県文化財センター

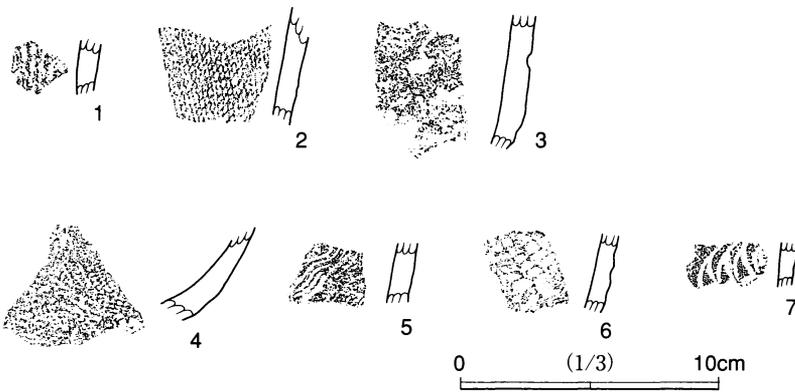
2 島立 桂・新田浩三・渡辺修一 1992「下総台地における立川ローム層の層序区分－平成2・3年度職員研修会から－」『研究連絡誌』第35号（財）千葉県文化財センター



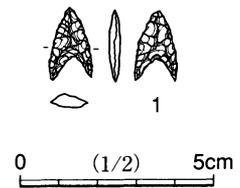
第37図 土坑



第38図 陥穴



第39図 縄文土器



第40図 石鋏

## 第3章 取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）

### 第1節 調査の概要

#### 1 調査の方法と成果（第42図）

発掘調査を始めるにあたり、公共座標に基づきグリッドを設定したが、その基準を昭和53年度から55年度の調査で設定したものを踏襲することにした。すなわち、調査対象区域に公共座標に合わせて50m×50mの大グリッドを設定し、さらに、その大グリッド内を5m×5mに分割し、100個の小グリッドとした。大グリッドはX=-24.400・Y=50.150を基準点0 Aとし、北から南へ0, 1, 2, 3……, 西から東へA, B, C……と記号をつけ、小グリッドについては北から南へ00, 10, …, 90, 西から東へ00, 01, …, 09と番号をつけ、これ等を組み合わせて呼称することにした。今回の調査地点は2 M, 0 N, 1 N, 0 O, 1 O大グリッドにあたる。

調査地点は、第2旅客ターミナルビルの北側およそ1kmに位置し、暫定平行滑走路の誘導路として計画された。隣接して未買収地があることにより、調査地点は大きく2地点に分断されている。北東側の3,480㎡の範囲は大半がⅢ層上面まで耕作による攪乱を受けており、さらにそのうちの東側の多くはⅢ層上面まで削平を受け、新たに土砂が敷き積められていた。従って、上層の包含層が存在していた可能性もあるが、遺物はまったくといっていいほど見られず、本調査は不要と判断した。一方、南西側の520㎡の範囲については、縄文時代早期（井草Ⅰ・Ⅱ式）の良好な包含層がほぼ全面にわたって広がることが確認され、全域を本調査範囲とした。

他方、下層については縄文時代早期遺物包含層を確認した南西側調査区から、細石刃石核と剥片をそれぞれ1点ずつ検出したが、いずれも攪乱層中からの出土であった。これらの遺物が本来包含されていたと考えられるⅢ層中からは、他に遺物の出土が見られなかったことから、本調査の必要は無いと判断した。

#### 2 基本層序（第41図, 図版13）

攪乱が少なく比較的良好に残存している土層断面として、縄文遺物包含層内2M48グリッド南壁の上層から下層にかけての断面図を第41図に掲載した。以下はその層序説明である。

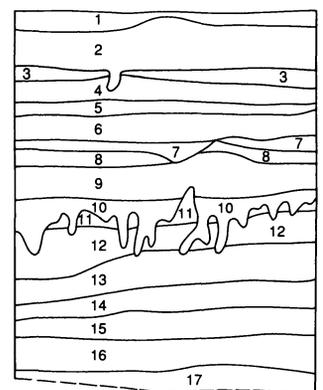
- 1 (Ⅰ層) 耕作土, 黒色土 (7.5YR2/1)
- 2 (Ⅰ層) 黒褐色土 (7.5YR2/2)
- 3 (Ⅱa層) 黒褐色土 (7.5YR3/1), 耕作の影響で燃糸文土器を多く含む。
- 4 (Ⅱb層) 暗褐色土 (7.5YR3/3), 耕作の影響で燃糸文土器を多く含む。  
黒褐色土 (7.5YR3/2) 30%~40%混在。
- 5 (Ⅱc層) 黒褐色土 (7.5YR3/2), 耕作の影響で燃糸文土器を多く含む。
- 6 (Ⅱc層) 極暗褐色土 (7.5YR2/3), 燃糸文土器包含層の中心。
- 7 (Ⅱc層) 極暗褐色土 (7.5YR2/3), 燃糸文土器包含層の中心。暗褐色土 (7.5YR3/4) 25%混在。
- 8 (Ⅲa層) ソフトローム層, 暗褐色土 (7.5YR3/4), 上部に燃糸文土器がくいだむ。極暗褐色土 (7.5YR2/3) 15%混在。
- 9 (Ⅲb層) ソフトローム層, 褐色土 (7.5YR4/3)
- 10 (Ⅳ層) ソフトローム層, 褐色土 (7.5YR4/3)
- 11 (Ⅴ層) ハードローム層, 褐色土 (7.5YR4/3)
- 12 (Ⅵ層) A T包含層, 火山ガラス多く含む, 褐色土 (7.5YR4/3 ~ 4/4)
- 13 (Ⅶ層) ハードローム層, 褐色土 (7.5YR4/3), Ⅵ層に比べやや暗い色調。
- 14 (Ⅸa層) 暗褐色土 (7.5YR3/4), 黒色スコリア含む。
- 15 (Ⅸc層) 暗褐色土 (7.5YR3/4), 赤色スコリア・黒色スコリア含む。
- 16 (Ⅹ層) 立川ローム最下層, 褐色土 (7.5YR4/4), ソフト化している。
- 17 (ⅩI層) 武蔵野ローム最上層, 褐色土 (7.5YR4/6), ソフト化している。

※土色は『標準土色帳』に拠った。

40.000m

39.000m

38.000m



第41図 基本層序（2M48南壁）（1/40）



第42図 確認調査グリッド (1/2,000)

## 第2節 遺物

### 1 土器（第43図～46図，図版15～17）

縄文時代に属する土器は、本調査520㎡とした地点のほぼ全面で、総数876点の破片を確認した。土器はほぼ早期のものと考えられ、更にその大半が井草式土器である。

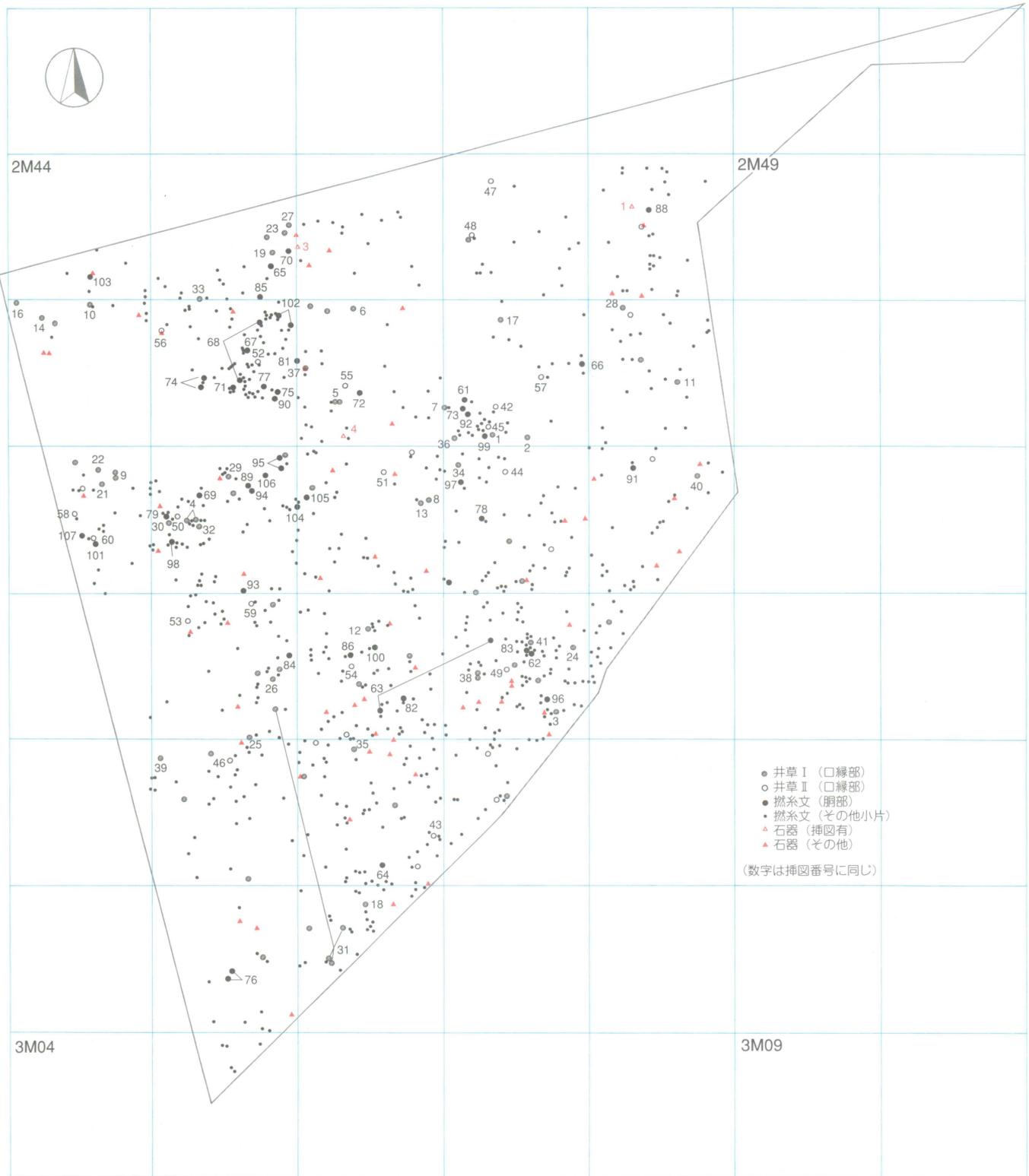
昭和53～55年度の隣接調査地点（I地点）の出土状況を見ると、撚糸文系土器の出土量が卓越しており、今回の調査結果も全く同様の傾向を示している。第43図の土器分布状況を見ると、2M30ライン上のグリッドについては未確認ながら、本調査範囲中に多少の濃淡はあるものの、ほとんど偏ることなく一様に出土しているのがわかる。当然のこととして、隣接する未調査区域にも同様な密度の包含層の存在が想定される。

口縁部破片は101点確認できるが、内訳は井草Ⅰ式が70点、井草Ⅱ式が31点である。第20表に主な土器の遺物番号、型式、部位、出土層位を示した。

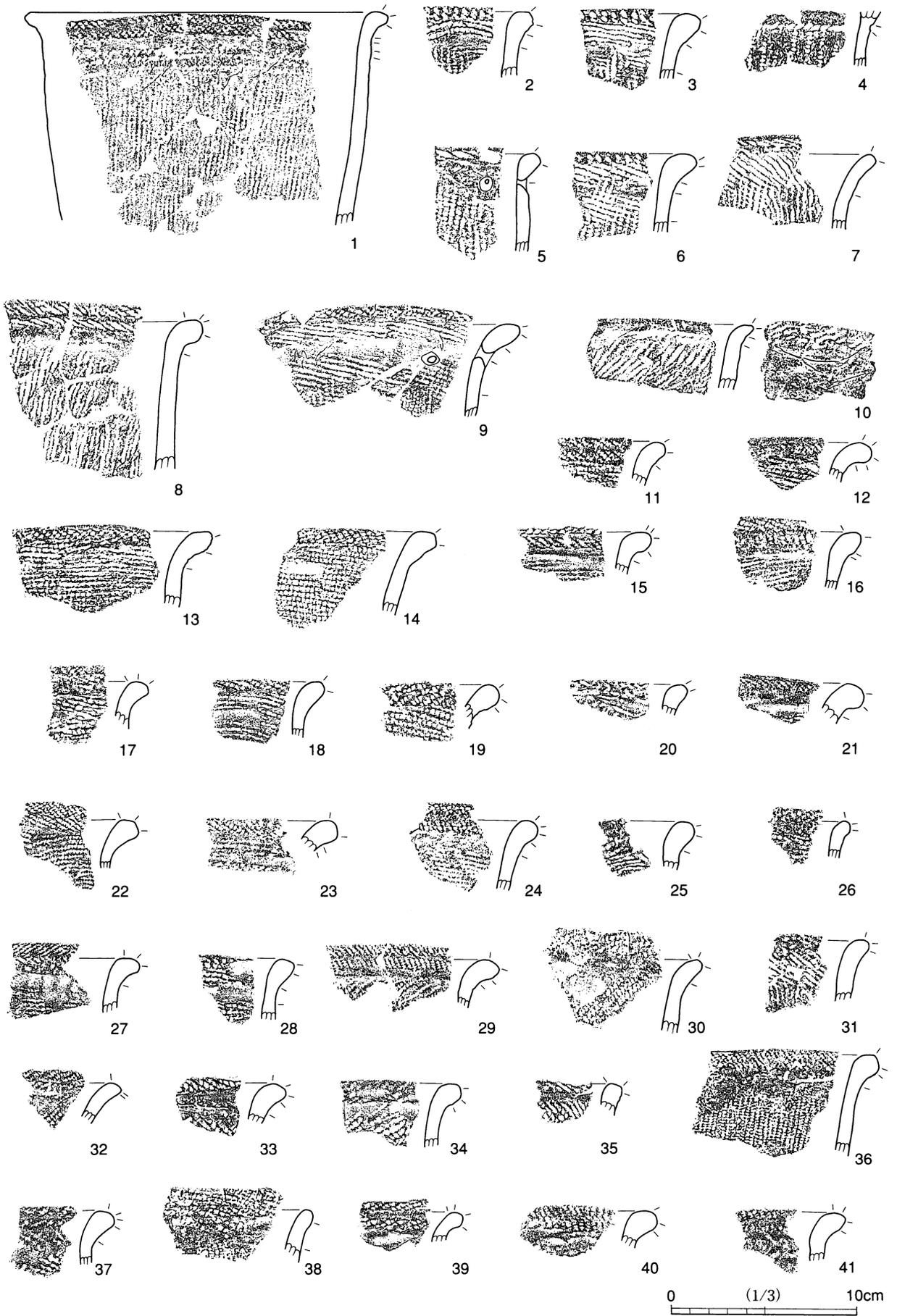
1～41は井草Ⅰ式土器の口縁部破片である（4のみ口唇部欠損）。いずれも胎土には砂粒を多く含み、焼成は概ね良好である。色調は黒褐色を基調とする。施文は縄文のみによって行われ、10・19を除き単節RLを原体として用いている。1・4は、横位の縄文原体圧痕（単節RL）が施文されるものである。1は推定口径が約20cmであり、寸胴に近いものの、胴部から口縁部にかけてわずかに開く器形である。口縁部直下の原体圧痕は、横位3条を基本とする。だが、最上段のものは、途切れる部分があったりするなど、下2段に比して非常に不安定な施文である。4も口縁部直下の原体圧痕と思われるが、破片上部が欠損しているため詳細は不明である。2・3・6は口縁部外端に、原体圧痕（単節RL）が縦位に施文されるものである。この文様は、いわゆる「刻み」のような施文効果があると考えられる。5・8・15・23・20・21・23・24・27・28・33は頸部が無文帯となり、24・27の頸部には指頭圧痕が観察される。また、2・3・6・7・9・11・13・14・22などは頸部の縄文が横位ないし斜位に施文され、胴部の縦位縄文と施文帯を分割する意図が明確に見られるものである。他のものの頸部については、残存状況によるものも含めて、無文帯や施文帯の形成が明瞭さを欠く傾向にあり、消失へと向かう段階のものと考えられる。なお、10は口縁部内面に縄文が施文されているが、これはより古い段階の特徴が残存しているものと思われる。

42～60は井草Ⅱ式土器の口縁部破片である。口縁部の肥厚及び外反が弱くなり、頸部の施文帯がほぼ消失しているものが相当する。上記の井草Ⅰ式土器に比して、胎土中の砂粒がやや少量となる傾向にあるが、総じて製作的特徴は類似する。原体は単節RLが大半であるが、口縁部に単節LRを施文するもの（42）もみられる。なお、56～60については、以下に述べるように異質な特徴が見られ、編年的位置について再考の余地があることを指摘しておく。56は頸部が無文となるが、施文域との境界は不明瞭で、胎土の砂粒も少ない。57は胎土及び器形については井草Ⅱ式と同様の特徴を示すが、原体を縦方向に引いた集合沈線状文様がみられる。この文様は撚糸文終末期に見られるものである。58～60は、縄文施文後にナデが加えられており、文様は痕跡程度となっており、原体等は判然としない。

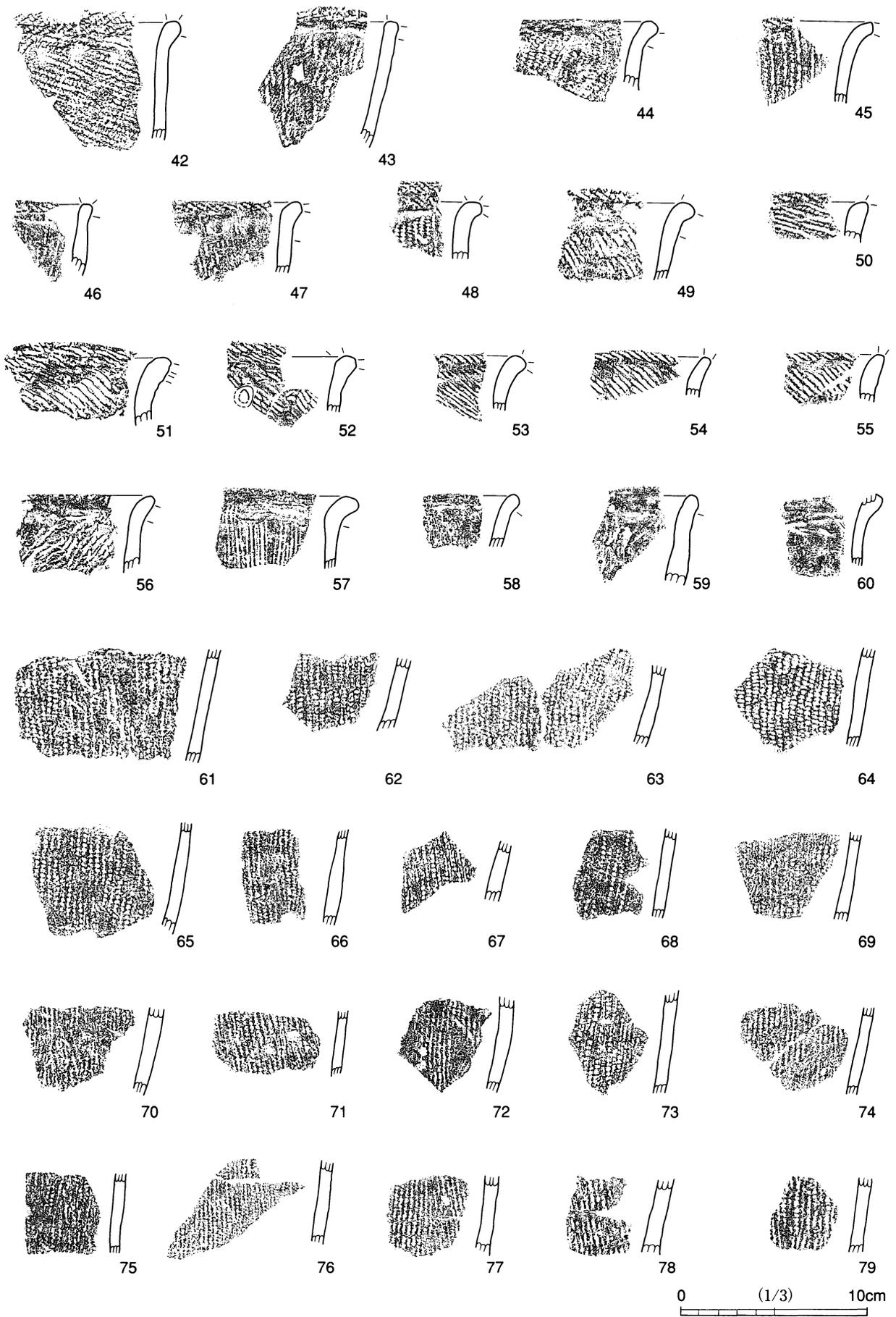
61～106は、撚糸文土器の胴部破片である。上記の両型式に属するものが混在していると思われるが、分別が困難なため一括して取り扱うこととした。なお、96～99は縄文の施文方向を変えることで、施文帯を分割したと考えられ、井草Ⅰ式である可能性が高い。100～102は底部に近い部分の破片である。103～106はまばらな縄文が施文されており、58～60の胴部であると思われる。107は口径約9.4cm、高さ約7.2cmほどの小形土器である。口縁部が外反し、丸底、無文である。胎土には砂粒が少量含まれる程度である。



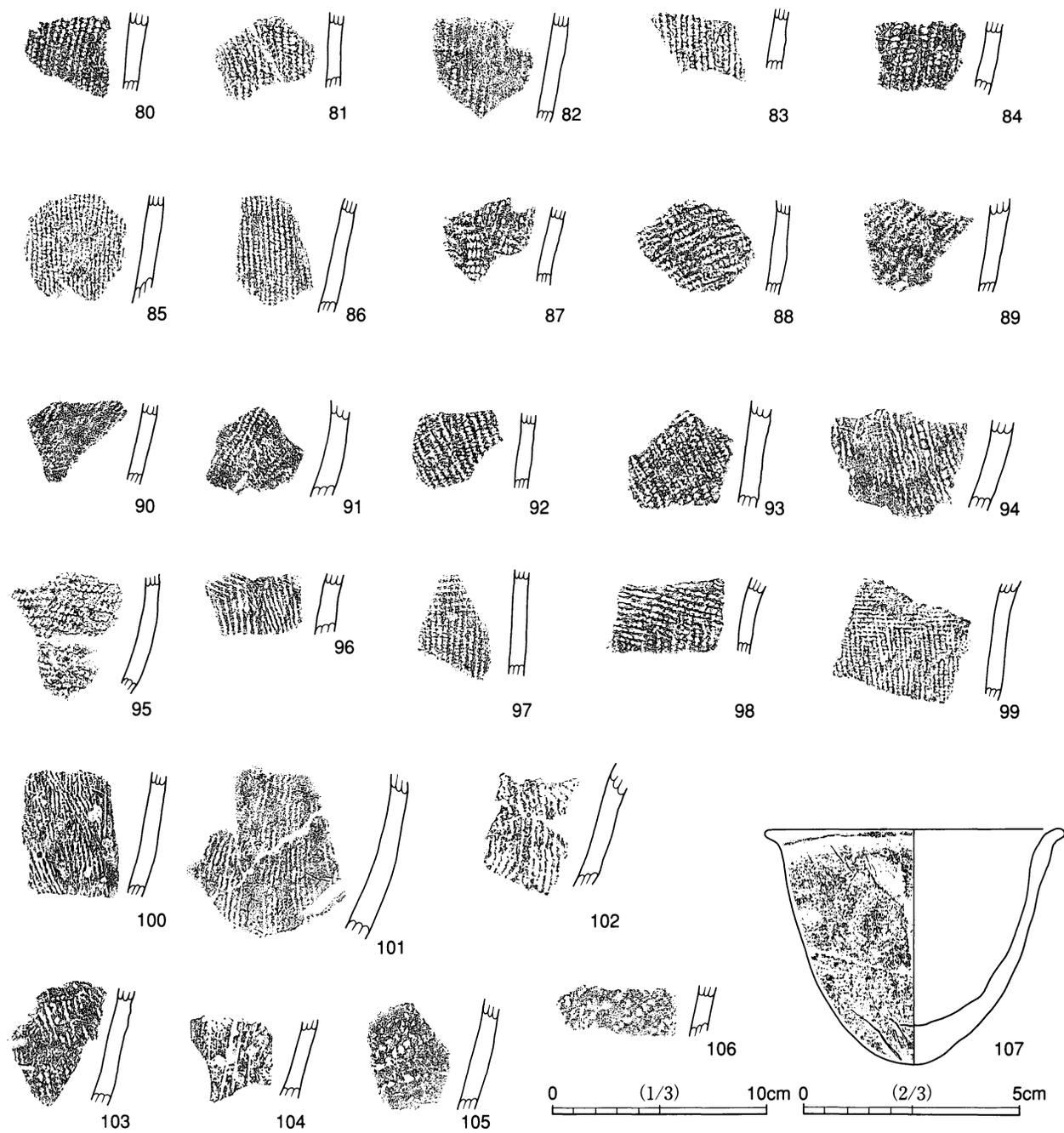
第43図 遺物分布図



第44図 縄文土器 (1)



第45図 縄文土器 (2)



第46図 縄文土器 (3)

第20表 出土土器一覽

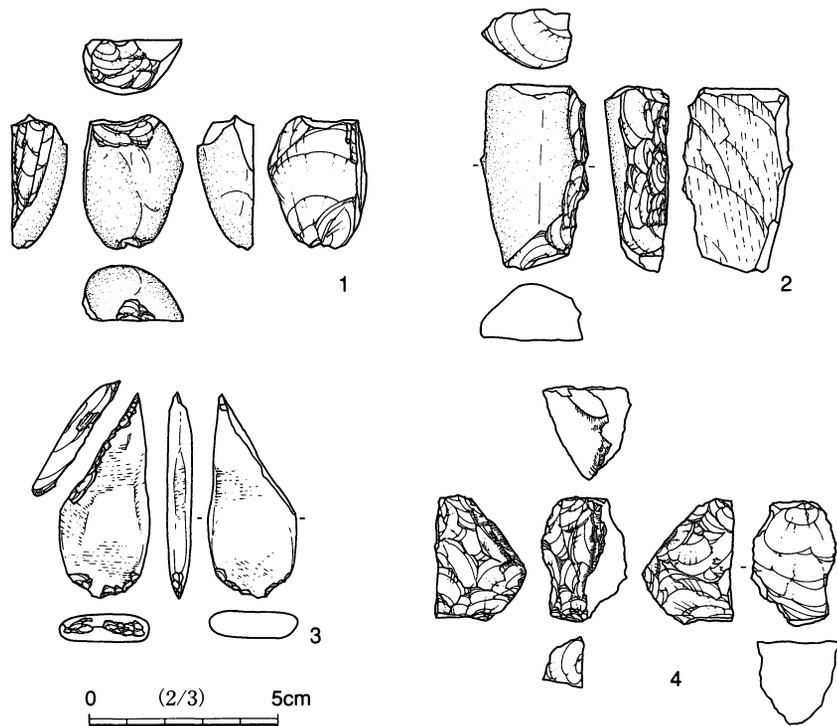
挿図 番号	記号	遺物番号	型式	部位	出土層位	挿図 番号	記号	遺物番号	型式	部位	出土層位
1	◎	2M57-5	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc中	61	●	2M57-15	撚糸文	胴部	Ⅱc下
2	◎	2M57-2	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc上	62	●	2M77-33	撚糸文	胴部	Ⅱc中
3	◎	2M77-73	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	63	●	2M77-20,2M76-80	撚糸文	胴部	Ⅱc下,Ⅱc
4	◎	2M65-27,29	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc,Ⅱc	64	●	2M86-52	撚糸文	胴部	Ⅱa
5	◎	2M56-35,39	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc,Ⅱc	65	●	2M45-7	撚糸文	胴部	Ⅱa
6	◎	2M56-18	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	66	●	2M57-21	撚糸文	胴部	Ⅱc上
7	◎	2M57-17	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc上	67	●	2M55-27	撚糸文	胴部	Ⅱa
8	◎	2M66-34	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc	68	●	2M55-41,78	撚糸文	胴部	Ⅱc上,Ⅱc
9	◎	2M64-11,25	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc,Ⅱc	69	●	2M65-75	撚糸文	胴部	Ⅱc
10	◎	2M54-6	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	70	●	2M45-2	撚糸文	胴部	Ⅱa
11	◎	2M58-36	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	71	●	2M55-32	撚糸文	胴部	Ⅱc上
12	◎	2M76-15	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc上	72	●	2M56-7	撚糸文	胴部	Ⅱc下
13	◎	2M66-51	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc	73	●	2M57-37	撚糸文	胴部	Ⅱc
14	◎	2M54-3	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	74	●	2M55-35	撚糸文	胴部	Ⅱc上
15	◎	001一括	井草Ⅰ	口縁部		75	●	2M55-10	撚糸文	胴部	Ⅱc上
16	◎	2M54-2	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	76	●	2M95-4,5	撚糸文	胴部	Ⅱa,Ⅱa
17	◎	2M57-31	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc上	77	●	2M55-15	撚糸文	胴部	Ⅱa
18	◎	2M96-1	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc下	78	●	2M67-81	撚糸文	胴部	Ⅱc
19	◎	2M45-6	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	79	●	2M65-55	撚糸文	胴部	Ⅱc
20	◎	2M53-1	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc上	80	●	2M53-4	撚糸文	胴部	Ⅱc下
21	◎	2M64-23	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc	81	●	2M56-13	撚糸文	胴部	Ⅱc下
22	◎	2M64-24	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc	82	●	2M76-86	撚糸文	胴部	Ⅱc
23	◎	2M45-3	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc上	83	●	2M77-12	撚糸文	胴部	Ⅱc下
24	◎	2M77-121	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc	84	●	2M75-52	撚糸文	胴部	Ⅱc
25	◎	2M75-40	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc上	85	●	2M45-20	撚糸文	胴部	Ⅱc
26	◎	2M75-32	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc	86	●	2M76-52	撚糸文	胴部	Ⅱa
27	◎	2M45-4	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc上	87	●	2M45-1	撚糸文	胴部	一括
28	◎	2M58-38	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc	88	●	2M48-2	撚糸文	胴部	Ⅱc上
29	◎	2M65-18	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	89	●	2M65-14	撚糸文	胴部	Ⅱc
30	◎	2M65-37	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	90	●	2M55-11	撚糸文	胴部	Ⅱc上
31	◎	2M75-42,2M96-11,12	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc,Ⅱa,Ⅱa	91	●	2M68-48	撚糸文	胴部	Ⅱc
32	◎	2M65-23	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	92	●	2M57-36	撚糸文	胴部	Ⅱc
33	◎	2M45-15	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc	93	●	2M65-1	撚糸文	胴部	Ⅱc下
34	◎	2M67-36,2M87-36?	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	94	●	2M65-61	撚糸文	胴部	Ⅱc
35	◎	2M86-26	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	95	●	2M65-11,56	撚糸文	胴部	Ⅱc,Ⅱc
36	◎	2M57-41	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc	96	●	2M77-115	撚糸文	胴部	Ⅱc
37	◎	2M56-10	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱa	97	●	2M67-75	撚糸文	胴部	Ⅱc
38	◎	2M77-44	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc下	98	●	2M65-51	撚糸文	胴部	Ⅱc
39	◎	2M85-29	井草Ⅰ	口縁部	攪乱層中	99	●	2M57-40	撚糸文	胴部	Ⅱc
40	◎	2M68-51	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc	100	●	2M76-51	撚糸文	胴部	Ⅱa
41	◎	2M77-10	井草Ⅰ	口縁部	Ⅱc上	101	●	2M64-27	撚糸文	胴部	Ⅱc
42	○	2M57-13	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc下	102	●	2M55-48,52	撚糸文	胴部	Ⅱa,Ⅱa
43	○	2M86-82	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc	103	●	2M44-1	撚糸文	胴部	Ⅱa
44	○	2M67-38	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc	104	●	2M66-26	撚糸文	胴部	Ⅱc
45	○	2M57-6	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc中	105	●	2M66-48	撚糸文	胴部	Ⅱc
46	○	2M85-35	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc	106	●	2M65-57	撚糸文	胴部	Ⅱc
47	○	2M47-5	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc上	107	●	2M64-9	無文	ミニチュア	Ⅱc
48	○	2M47-8	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc						
49	○	2M77-47	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc下						
50	○	2M65-47	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc						
51	○	2M66-24	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱa						
52	○	2M55-4	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc上						
53	○	2M75-14	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc上						
54	○	2M76-53	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱa						
55	○	2M56-8	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc中						
56	○	2M55-79	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc						
57	○	2M57-26	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc上						
58	○	2M64-4	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱa						
59	○	2M75-20	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc上						
60	○	2M64-17	井草Ⅱ	口縁部	Ⅱc						

2 石器 (第43・47図, 図版17)

確認調査・縄文時代包含層の本調査によって検出された石器類は72点である。その多くが包含層出土の縄文土器と同時期のものと思われるが、旧石器時代・歴史時代の遺物も見られた。その内訳は細石刃石核1点、削器1点、磨製石斧1点、火打石1点、剥片2点、完形礫・破損礫66点である。

分布密度は低く、実測図掲載資料は以下の4点のみである。

1は安山岩製の細石刃石核である。確認調査時に2M48グリッドから検出された(第43図)。出土層位はII a層であり、耕作によって本来の包含層から遊離している。撚糸文土器と同レベルで検出されている。下層の精査をしたが石器集中は検出されなかった。荒割りされた小礫を両極加撃によって半割し、分割面から打面を形成している。細石刃剥離痕は5～6条観察される。作業面を正面にして右側面には礫面が残置する。34.2×27.4×15.3mm, 17.40g。旧石器時代。2は凝灰岩製の削器である。節理面からの調整によって刃部を形成している。49.4×28.4×17.1mm, 29.36g。3は凝灰岩製の小型磨製石斧である。縄文土器包含層から検出された。扁平礫を素材として刃部と側縁を中心に研磨が施されている。器体上半部の擦痕状の傷は装着時のものであるかもしれない。刃部には刃こぼれが目立つ。折断面にも研磨痕が一部観察されるので、折断後も継続使用されたと思われる。52.6×24.3×7.0mm, 12.09g。縄文時代。4は石英製の火打石である。周縁の稜が火打金との接触によって「潰れ」ている。加撃によって半割している。32.8×22.3×23.5mm, 17.94g。歴史時代。



第47図 石器

## 第4章 まとめ

### 香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）

香山新田安戸台遺跡では、旧石器時代の石器集中地点7地点、炭化物集中地点1地点を検出した。炭化物の分布はⅦ層下部～Ⅸ層上部にあたり、比較的大きな炭化材を中心として径2mの範囲に密集している。空港予定地内の遺跡では炭化物の集中地点が比較的多く検出されており、その大半が第2黒色帯に包含されている点は注意される。出土層位に関係なく炭化物・焼土集中地点を検出した遺跡を挙げれば、岩山中袋遺跡（空港No.2遺跡）<sup>1)</sup>・香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）<sup>2)</sup>・香山新田中横堀遺跡（空港No.7遺跡）<sup>3)</sup>・古込遺跡（空港No.14・55・56遺跡）<sup>4)</sup>・天神峰最上遺跡（空港No.64遺跡）<sup>5)</sup>・東峰御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡）<sup>6)</sup>・十余三稻荷峰西遺跡（空港No.68遺跡）<sup>7)</sup>等がある。ほとんどが石器を共伴しないが、石器群と隣接して検出されたものもあるなど、いくつかのパターンが見られる。ただし、調査担当者の意識や調査方法の違いにより炭化物・焼土の検出は大きく左右されることから、それらの比較検討には注意を要する。

石器集中地点は第2黒色帯を中心とする第1文化層とⅣ層～Ⅴ層を中心とする第2文化層に分離される。第1文化層はお互いに隣接する石器集中地点が3か所検出され（石器集中1～3）、石材の特徴などから同一時期のものとして理解される。石器群としては零細で、分厚い剥片を素材とした求心的な剥片剥離により幅広い剥片を剥離する工程が見られた。臨機的な剥片生産か、台形様石器の素材剥片生産を意図したものと推測されるが、後者であれば製品・調整剥片等は検出されていないため、別地点で最終的な調整が施されたものと考えられる。

第2文化層は石器集中4～6の3地点が相当する。各地点とも個性的な様相を示している。石器集中4は珪質頁岩と安山岩の原石を搬入して、素材剥片生産から調整剥離に至るナイフ形石器生産の工程すべてを残している。特に珪質頁岩を用いた接合資料2は、接合によって原石状態にまで復元することができた点は注目される。通常は石器生産の工程は分割され、遺跡間（ブロック間）を連鎖する状況を呈することが多いなかで、一か所の狭い範囲に集中的に遺物が残された要因は何であったのか興味深い（もちろん、本地点に残されたナイフ形石器の大半は製作時に失敗したものがほとんどで、製品として完成したものは余所へ持ち出していると思われ、すべてがこの地点で完結しているとは言えない）。

一方で、石器集中4と同様に、狭い範囲に密集した出土状況を呈している石器集中5では、石器集中4とよく似た珪質頁岩を用いているもののその個体は異なり、搬入された分厚い剥片を用いた剥片剥離や、調整剥離によって剥がされた碎片類が多く検出され、その剥片剥離の工程には素材剥片剥離などの工程を見ることはできない。

石器集中5の切出形を呈するナイフ形石器の存在、石器集中4の比較の粗々しいナイフ形石器の調整や基部を一部抉るような調整などから武蔵野編年で言うところの「Ⅴ～Ⅳ下段階」の石器群と理解される。そして、角錐状石器を伴わず、ナイフ形石器の形態にバラエティーが見られ、小型であること等の特徴から、同段階のなかでもより新しい様相を本遺跡に見ることができようか。角錐状石器を伴い比較的大振りな切出形ナイフ形石器を伴う遺跡は空港予定地内でもいくつか類例を挙げることができる〔例えば天神峰奥之台（空港No.65遺跡）<sup>8)</sup>・岩山中袋遺跡・香山新田新山遺跡・取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）<sup>9)</sup>等〕

が、本遺跡に見られるような様相を示す遺跡は少ないため、理解を困難なものとしている。少ない類例ながら、成田市天神峰最上遺跡石器集中10には、珪質頁岩製の基部を抉る調整が施された小型のナイフ形石器とともに、ホルンフェルスを用いた本段階に特徴的な横長剥片剥離が見られ、本遺跡との関連が深そうである。また、佐原市の中山遺跡<sup>10)</sup>でも折断剥片を多産する黒曜石を主体とした石器群が検出され、石材は異なるものの折断を多用する調整技術等はよく似たものと評価される。

石器集中6はチャートの小礫を用いた剥片剥離が見られ、剥片剥離・石材等その様相は石器集中4・5と大きく異なることから、若干の時期差を想定する必要があると思われるが、ナイフ形石器の形態等からは明確な位置づけを与えることはできない。

#### 取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）

取香和田戸遺跡は、昭和53年度～55年度にすでに遺跡の大半の調査が終了し、その成果は、平成6年度刊行の『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ』において報告された。それによると、今回報告した平成12年度の調査区のうち北東地区はI地点の東側に隣接し、南西地区はI地点とH地点に挟まれた地域の一部にあたる。

H・I地点は取香川の源流域に広がる八つ手状の谷津に面しており、対岸の舌状台地には東峰御幸畑西遺跡が存在する。H・I地点あわせて燃糸文期（井草式期）の竪穴住居跡が6軒、東峰御幸畑西遺跡からは3軒が検出されている。住居跡周辺には燃糸文期の遺物包含層が広がり、土器片が濃密に分布している。

H・I地点に隣接する今回報告した調査区のうち、北東地区はⅢ層上面まで削平されており、上層遺構・土器包含層についてはその存在を確認することができなかった。一方、南西地区には良好な縄文土器包含層がひろがり、その時期も井草Ⅰ式・Ⅱ式を主体とすることが明らかとなったことから、前回の成果とあわせて、土器包含層が谷側へのびていることは確実となった。また、H地点とI地点に挟まれたこの地域には未調査区が広がり、同時期の遺物包含層をはじめ、竪穴住居跡等の遺構群の存在も予想されることから、今後の調査に期待したい。

前回の調査で、A～Lの各地点から旧石器時代の石器集中地点が46地点で検出されたため、石器群の検出が期待されたが、下層確認調査では検出できず、上層土器包含層の調査時に細石刃石核が1点検出されたのみであった。前回調査で、細石刃石器群はL地点から石器集中地点が1か所検出されており、その関連性が指摘されるが、L地点のものは黒曜石を主体とした円錐形の細石刃石核をとまなう資料であり、両地点はおよそ600m離れたところにあることなどから、今回報告した安山岩製の細石刃石核と直接的な関係を積極的に評価することはできない。

空港予定地内ではこれまでに13遺跡から細石刃石器群あるいは関連遺物が検出されている。これらは細石刃石核の技術形態の特徴と石材によって、以下のように大きく3つに分類される<sup>11)</sup>。

#### I. 削片系の細石刃石核を伴う遺跡

〔東峰御幸畑西遺跡・一畝田甚兵衛山遺跡第4ブロック（彫刻刀形石器のみ）〕

#### II. 黒曜石製の野辺山型細石刃石核を伴う遺跡

〔取香和田戸遺跡L-1ブロック・十余三稻荷峰遺跡（空港No.67遺跡－未報告）<sup>12)</sup>・東三里塚吉野台遺跡（空港No.3・51・52遺跡）<sup>13)</sup>・香山新田新山遺跡N・Oブロック・天神峰最上遺跡〕

#### III. 非黒曜石製の野辺山型細石刃石核を伴う遺跡

〔岩山中袋遺跡第6ブロック・天神峰最上遺跡第24～26ブロック・木の根拓実遺跡（空港No.6遺跡）<sup>14)</sup>・一

鍬田甚兵衛山遺跡第1～3ブロック・一鍬田甚兵衛山西（空港No.16遺跡）<sup>15)</sup>・十余三稻荷峰東遺跡（空港No.66遺跡）<sup>16)</sup>・十余三稻荷峰遺跡・香山新田新山遺跡]

今回報告した細石刃石核は、野辺山型の範疇におさまる資料と考えられ、石材に安山岩を用いていることから、「Ⅲ. 非黒曜石製の野辺山型細石刃石核を伴う遺跡」に含まれるが、安山岩を用いた細石刃石核・細石刃は空港予定地内では今だ知られておらず、希少なものである。

削片系の細石刃石核は、石材・石器製作技術等の諸点で明らかに北方系統のものであり時期的にもより終末期に近いものである点については見解の一致をみるが、これら3類型の関係については、いまだ解明されない部分が多く、その位置づけは流動的であるが、層位的な出土事例が充実する相模野台地では利用石材の変遷が黒曜石から在地系の石材へ移行するという傾向が指摘されており、一つの参考となろう。

- 注1 川島利道・雨宮龍太郎 1985『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ No.2遺跡 No.10遺跡』（財）千葉県文化財センター
- 2 注1川島・雨宮文献1985
- 3 西川博孝他 1984『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ - No.7遺跡 -』（財）千葉県文化財センター
- 4 野口行雄他 1983『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ No.14遺跡』（財）千葉県文化財センター
- 5 永塚俊司他 2001『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅤ - 天神峰最上遺跡（空港No.64遺跡） -』（財）千葉県文化財センター
- 6 宮 重行・麻生正信・永塚俊司 2000『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅢ - 東峰御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡） -』（財）千葉県文化財センター
- 7 宮 重行・永塚俊司他 2000『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅡ - 十余三稻荷峰西遺跡（空港No.68遺跡） -』（財）千葉県文化財センター
- 8 横山 仁・矢本節朗 1997『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ - 天神峰奥之台遺跡（空港No.65遺跡） -』（財）千葉県文化財センター
- 9 宮 重行・新田浩三他 1994『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ 取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）』（財）千葉県文化財センター
- 10 新田浩三他 1988『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ - 佐原地区（1） -』（財）千葉県文化財センター
- 11 永塚俊司 2000「細石刃文化期の遺物分布と集落 - 下総台地（空港予定地内）の事例 -」『槍先形尖頭器文化期の集落と武井遺跡』予稿集 笠懸野岩宿文化資料館
- 12 森本和男 1992「コンピュータによる細石器遺跡の分析」『研究連絡誌』34（財）千葉県文化財センター  
永塚俊司 2000「29 新東京国際空港予定地内遺跡群」『千葉県の歴史 資料編考古1』（財）千葉県資料研究財団
- 13 西野 元他 1971『三里塚 新東京国際空港用地内の考古学的調査』（財）千葉県北総公社
- 14 宮 重行・池田大助・野口行雄他 1981『木の根』（財）千葉県文化財センター
- 15 永塚俊司他 2001『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅣ - 一鍬田甚兵衛山西遺跡（空港No.16遺跡） -』（財）千葉県文化財センター
- 16 永塚俊司他 2001『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅥ - 十余三稻荷峰東遺跡（空港No.66遺跡） -』（財）千葉県文化財センター

# 写真図版

香山新田  
安戸台遺跡

- 1 香山新田安戸台遺跡  
(空港No.9遺跡)
- 2 取香和田戸遺跡  
(空港No.60遺跡)
- 9 一畝田甚兵衛山遺跡
- 10 一畝田甚兵衛山北遺跡  
(空港No.11遺跡)
- 11 一畝田甚兵衛山南遺跡  
(空港No.12遺跡)
- 12 一畝田甚兵衛山西遺跡  
(空港No.16遺跡)
- 13 東峰御幸畑西遺跡  
(空港No.61遺跡)
- 14 東峰御幸畑東遺跡  
(空港No.62遺跡)
- 15 古込遺跡  
(空港No.14・55・56遺跡)
- 16 香山新田新山遺跡  
(空港No.10遺跡)
- 17 香山新田念仏面遺跡  
(空港No.8遺跡)
- 18 香山新田中横堀遺跡  
(空港No.7遺跡)
- 28 金沢台遺跡  
(No.は第3図に準ずる)





香山新田  
安戸台遺跡

下層調査風景



炭化物集中地点（南より）



炭化物集中地点（東より）

香山新田  
安戸台遺跡



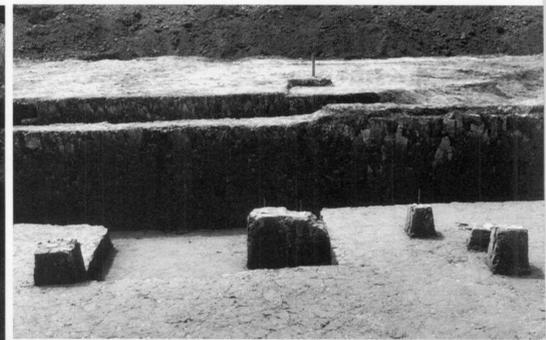
石器集中1～3  
(北より)



石器集中1  
(南西より)



左：石器集中1  
(西より)



右上：石器集中2  
(東より)



右下：石器集中3  
(東より)



香山新田  
安戸台遺跡

石器集中4  
(東より)



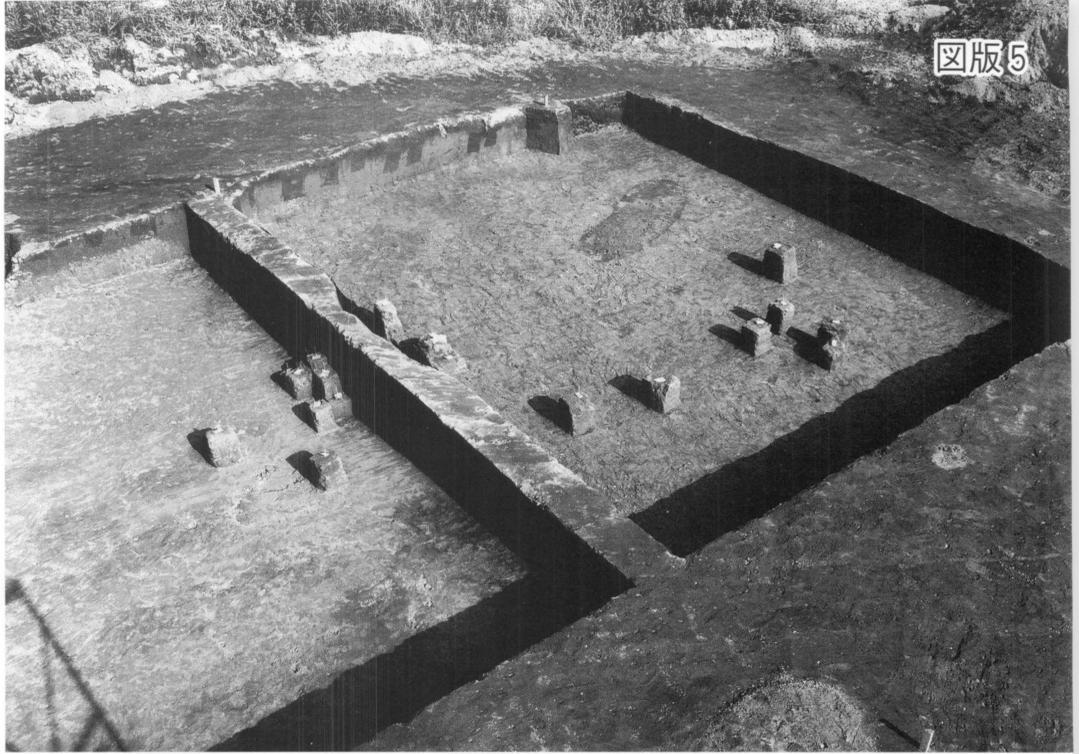
石器集中4  
(東より)



石器集中4  
(北東より)



石器集中5  
(南より)



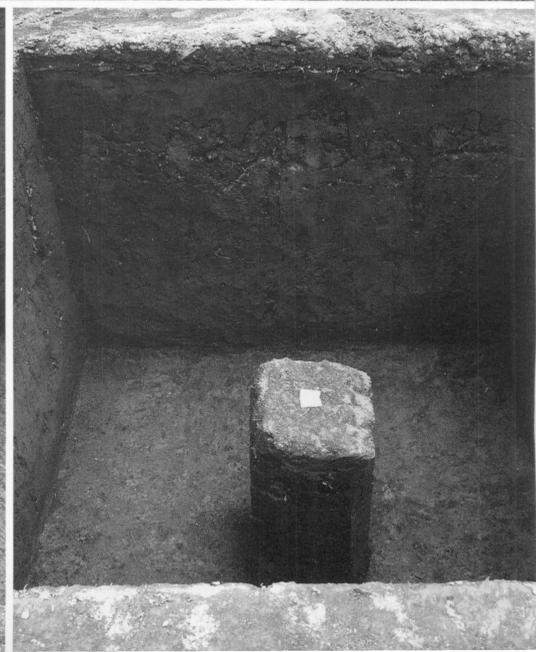
石器集中6  
(北西より)



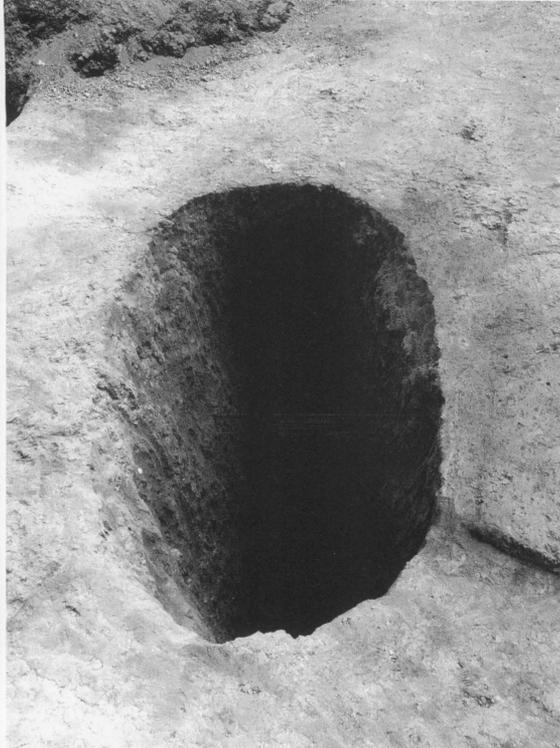
石器集中7  
(南より)



左：集中地点外1  
(東より)

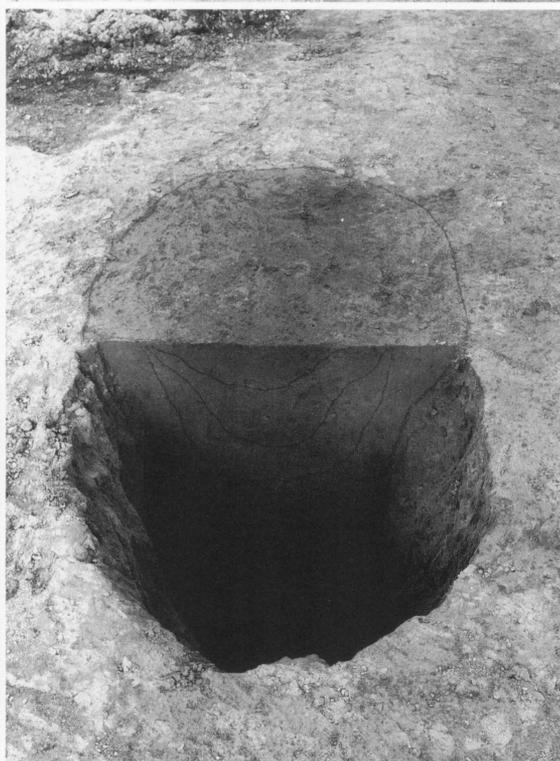


右：集中地点外2  
(西より)

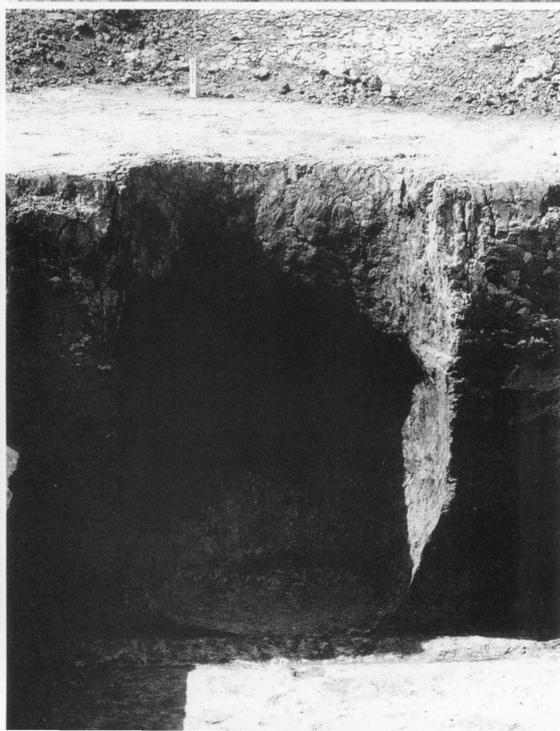
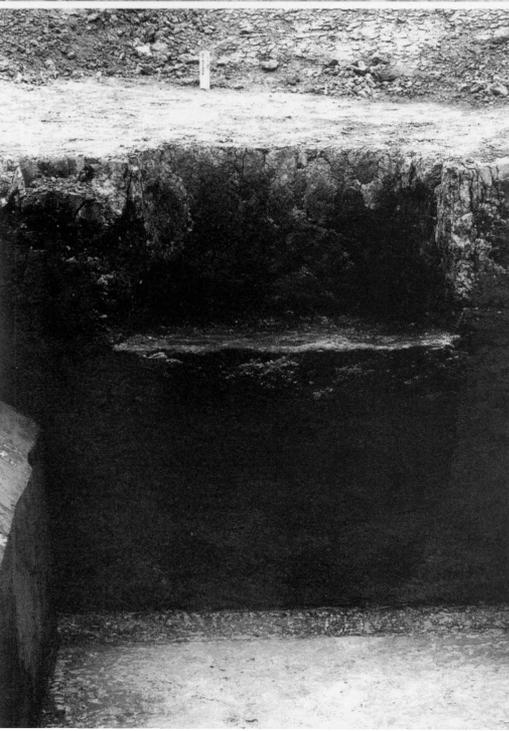


香山新田  
安戸台遺跡

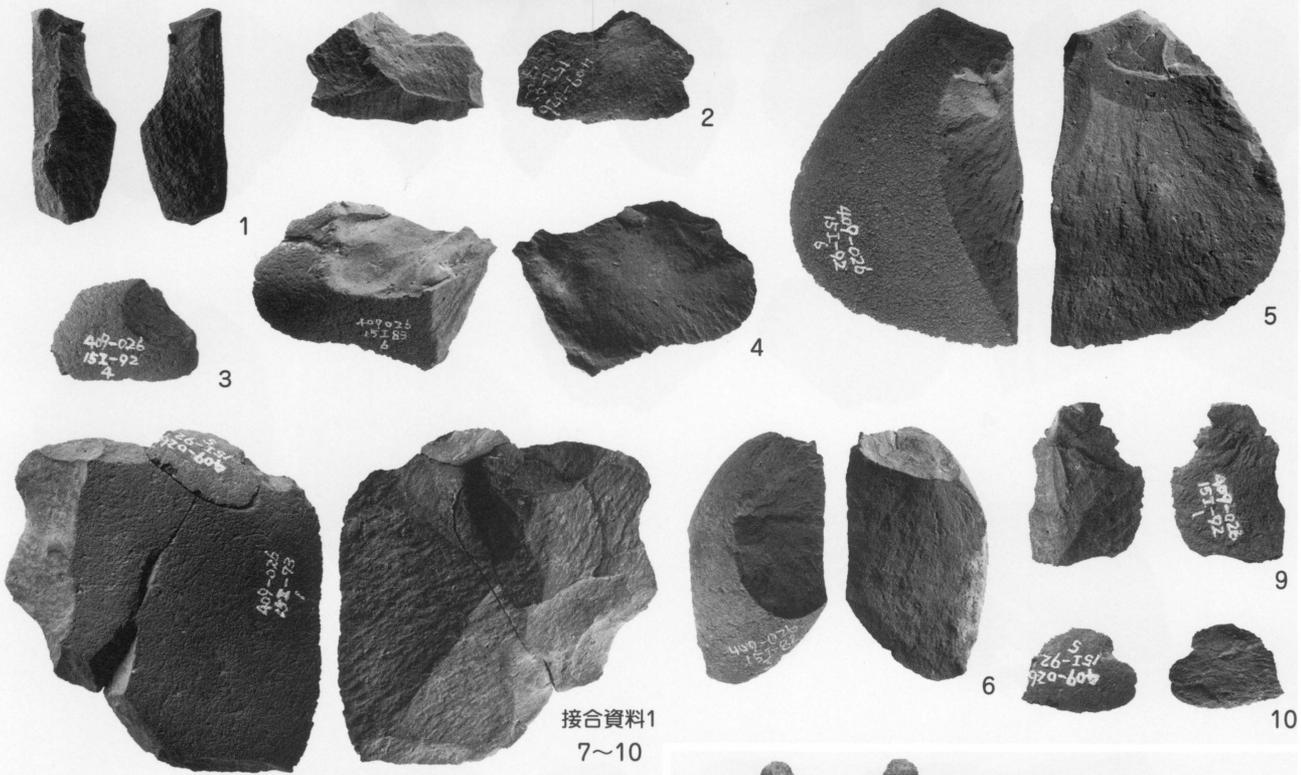
左：1号土坑  
（北より）  
右：1号陥穴  
（南西より）



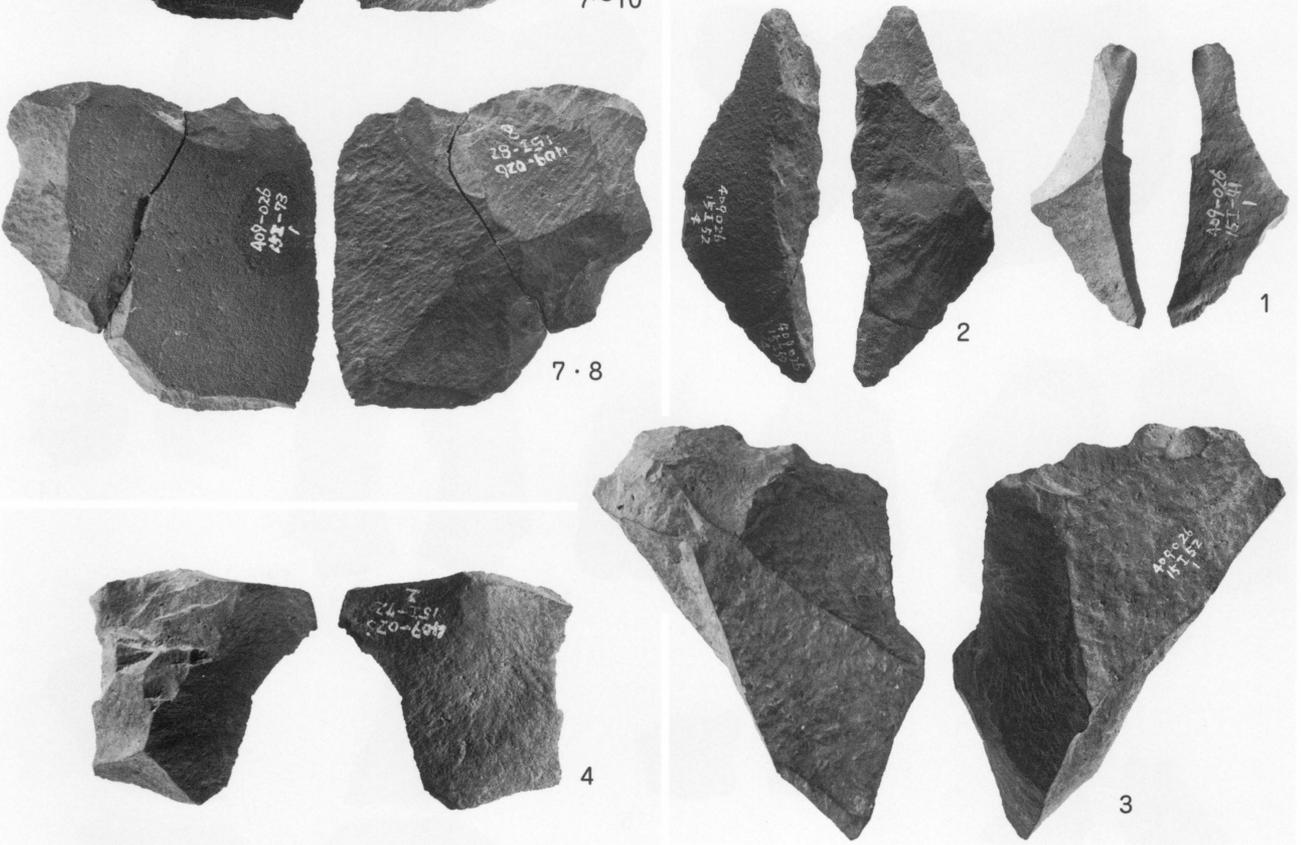
左：2号陥穴  
（南東より）  
右：1号陥穴  
（セクション）



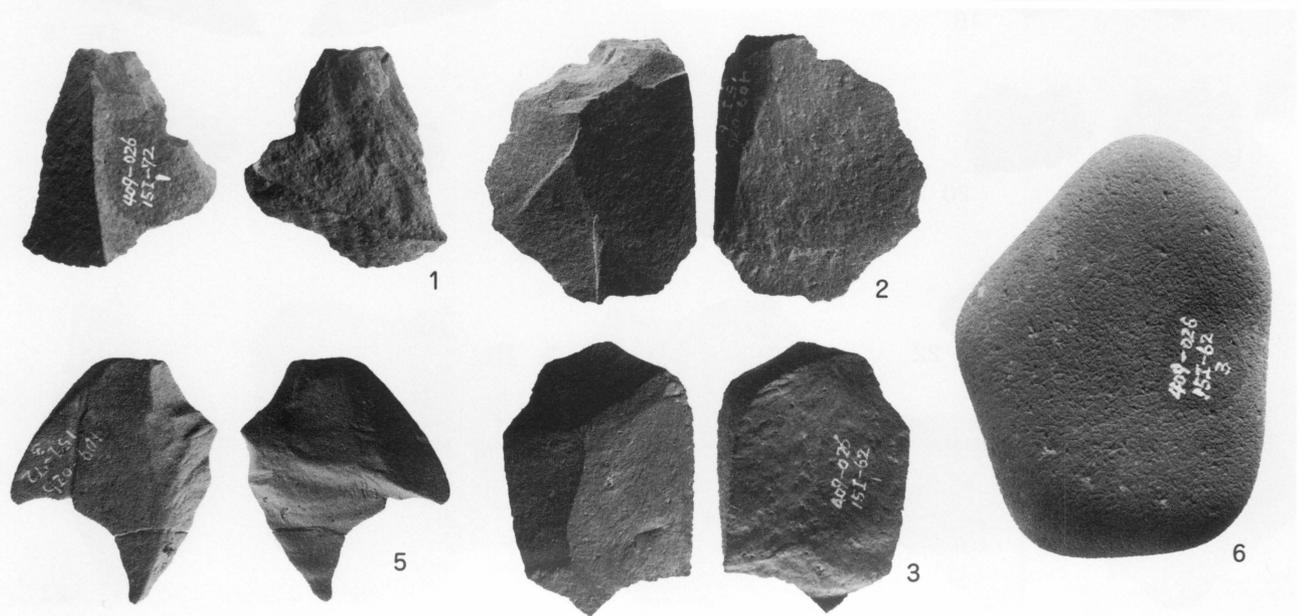
2号土坑  
（南西より）



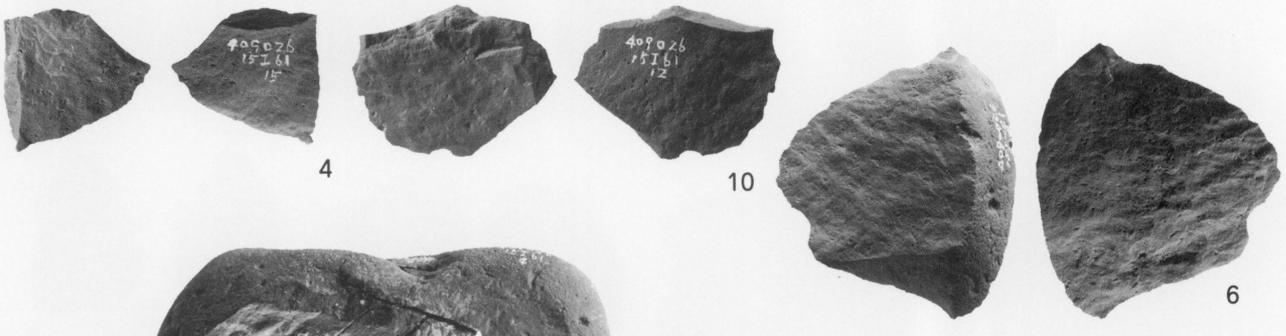
石器集中 1



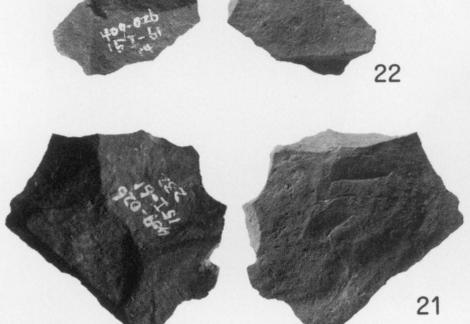
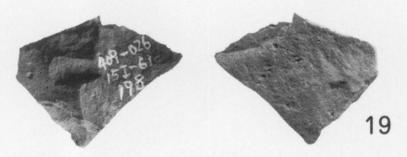
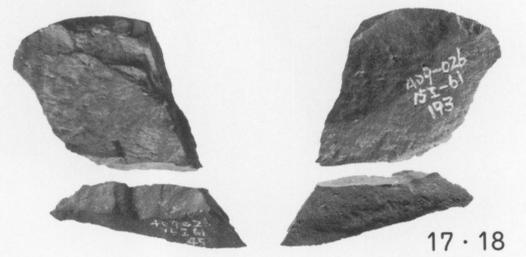
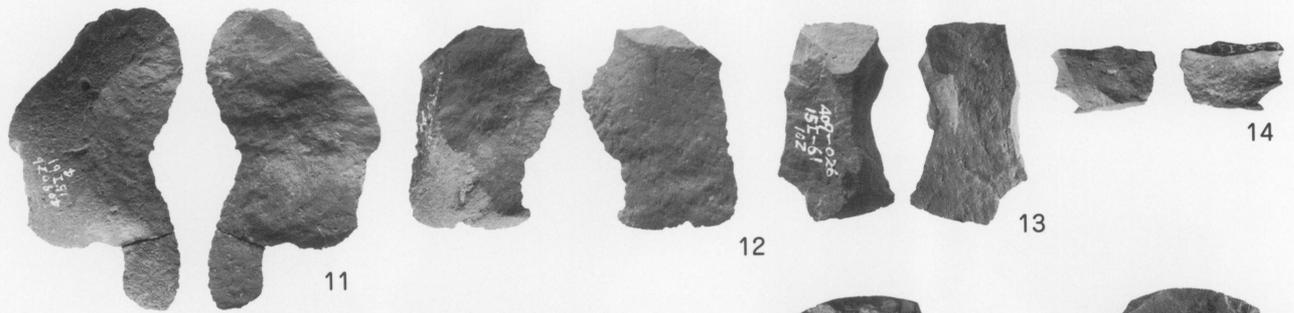
石器集中 3



石器集中 2

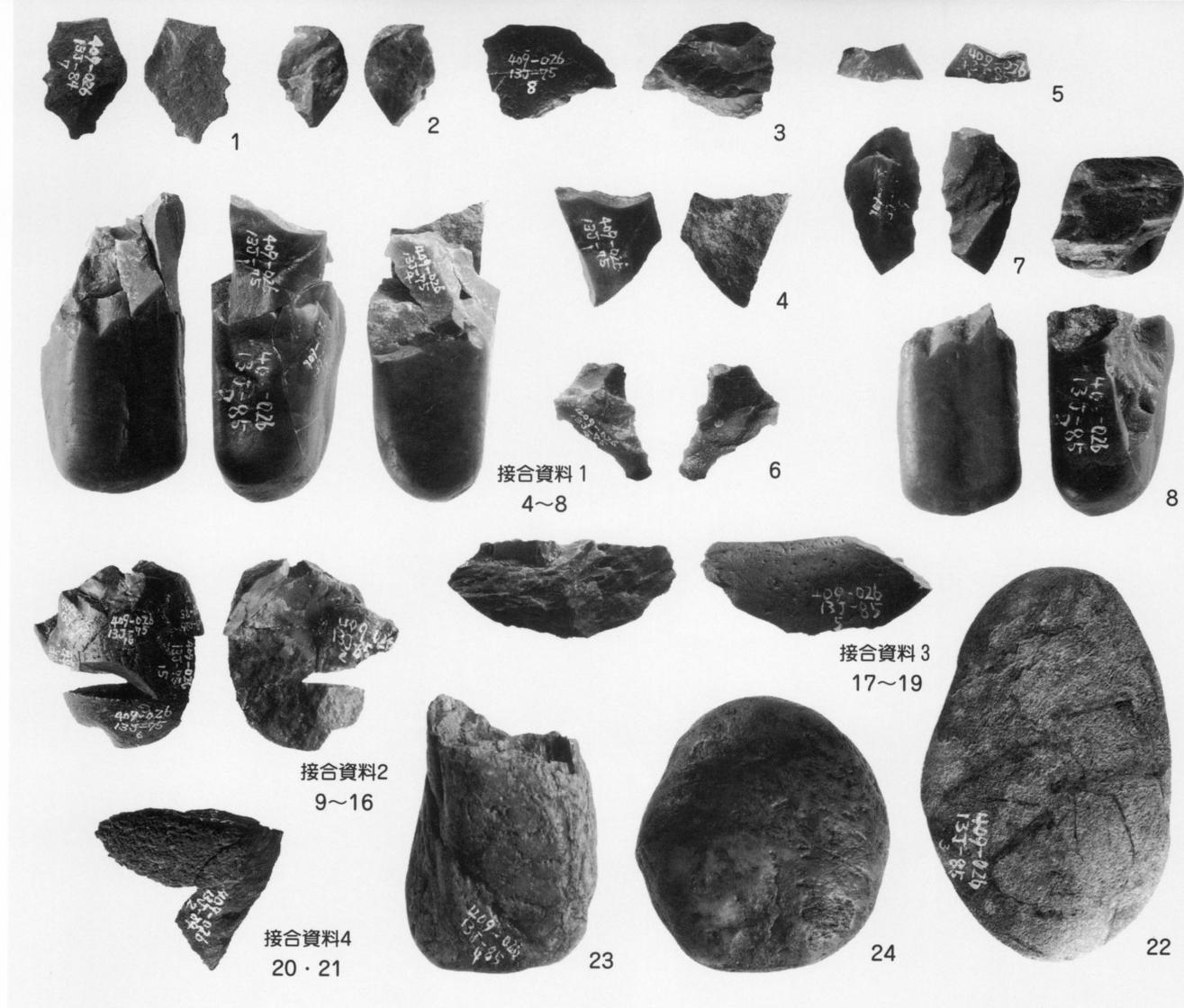


接合資料1  
 11~23

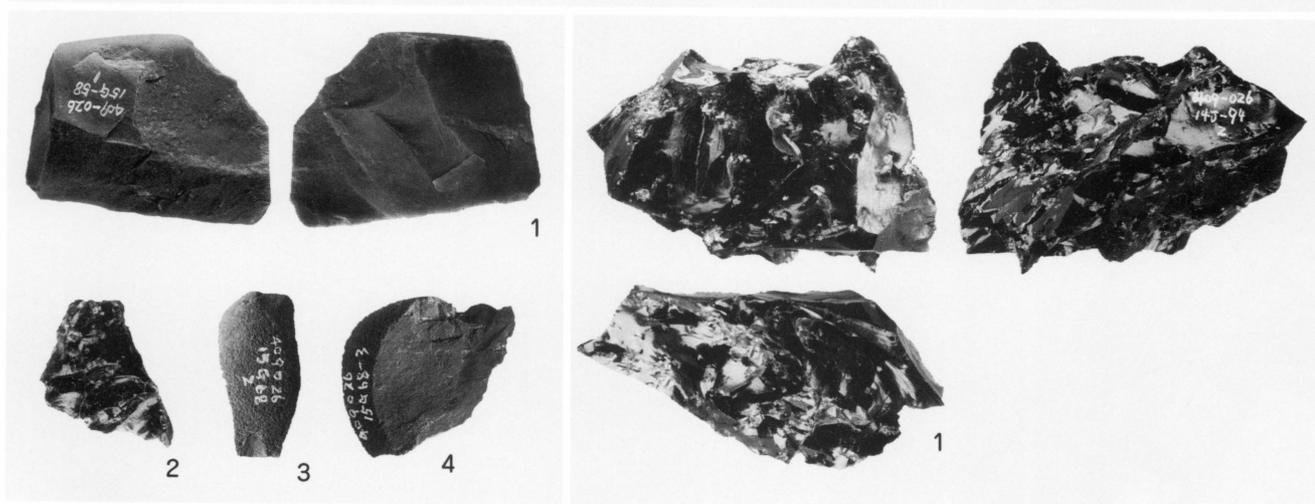




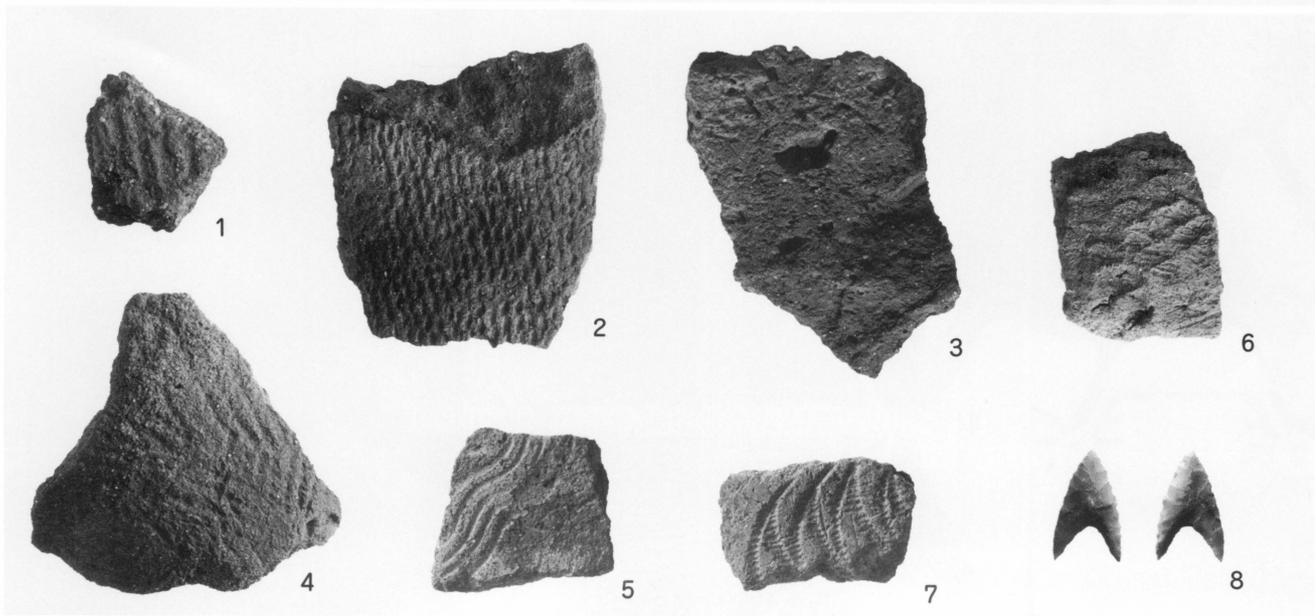




石器集中6



左：  
石器集中7  
右：  
石器集中  
地点外1



縄文土器  
石鏃



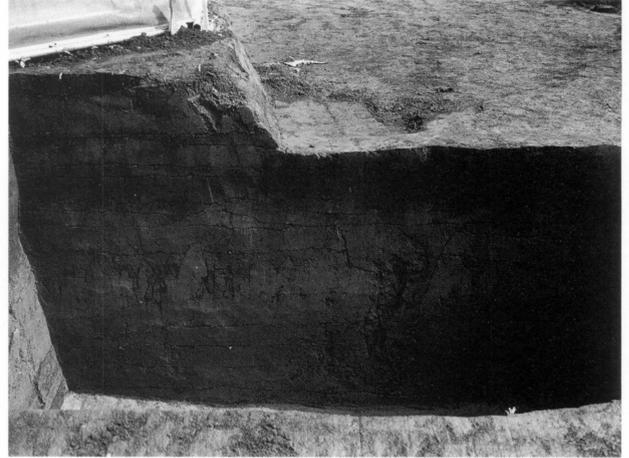
調査地点

取香和田戸遺跡調査地点航空写真 (1/10,000)

取香和田戸遺跡



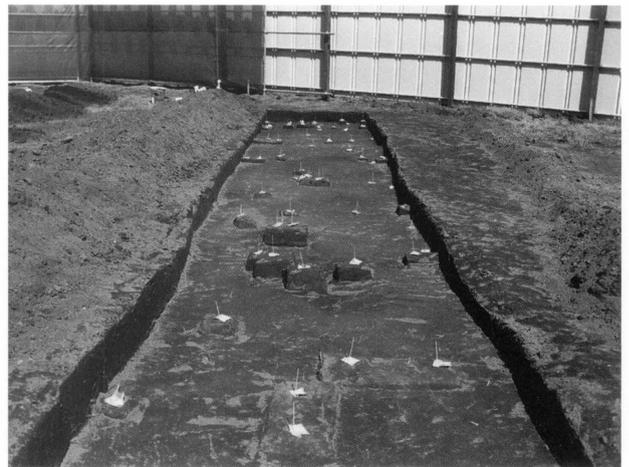
確認調査風景（0N, 1N付近）



土層断面（2M48 南側壁）



上層確認トレンチ（2M48）



上層確認トレンチ（2M58～78）



上層確認トレンチ（2M58～78）



上層確認トレンチ（2M54～58）



上層本調査 (2M45)



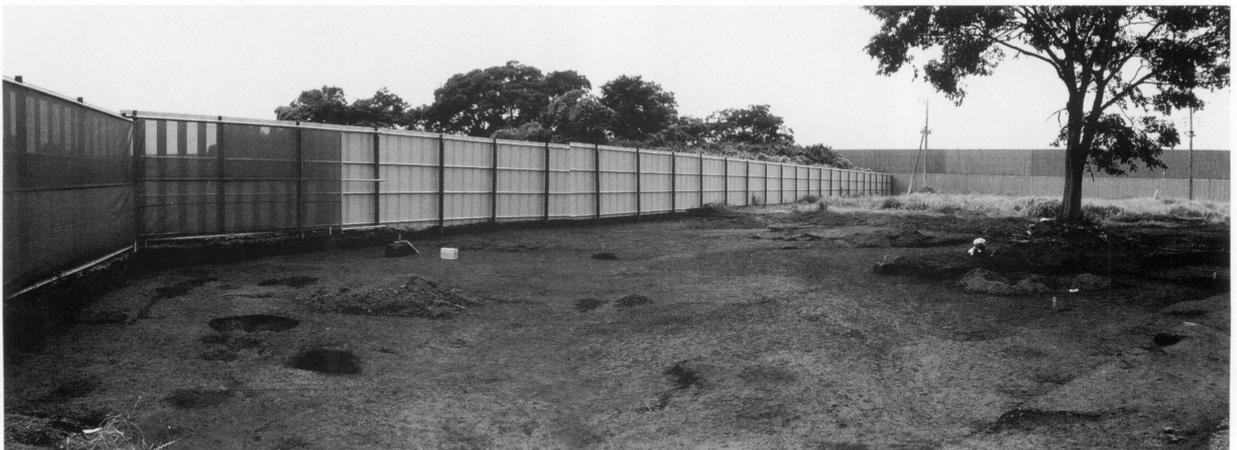
上層本調査  
(2M65~68)



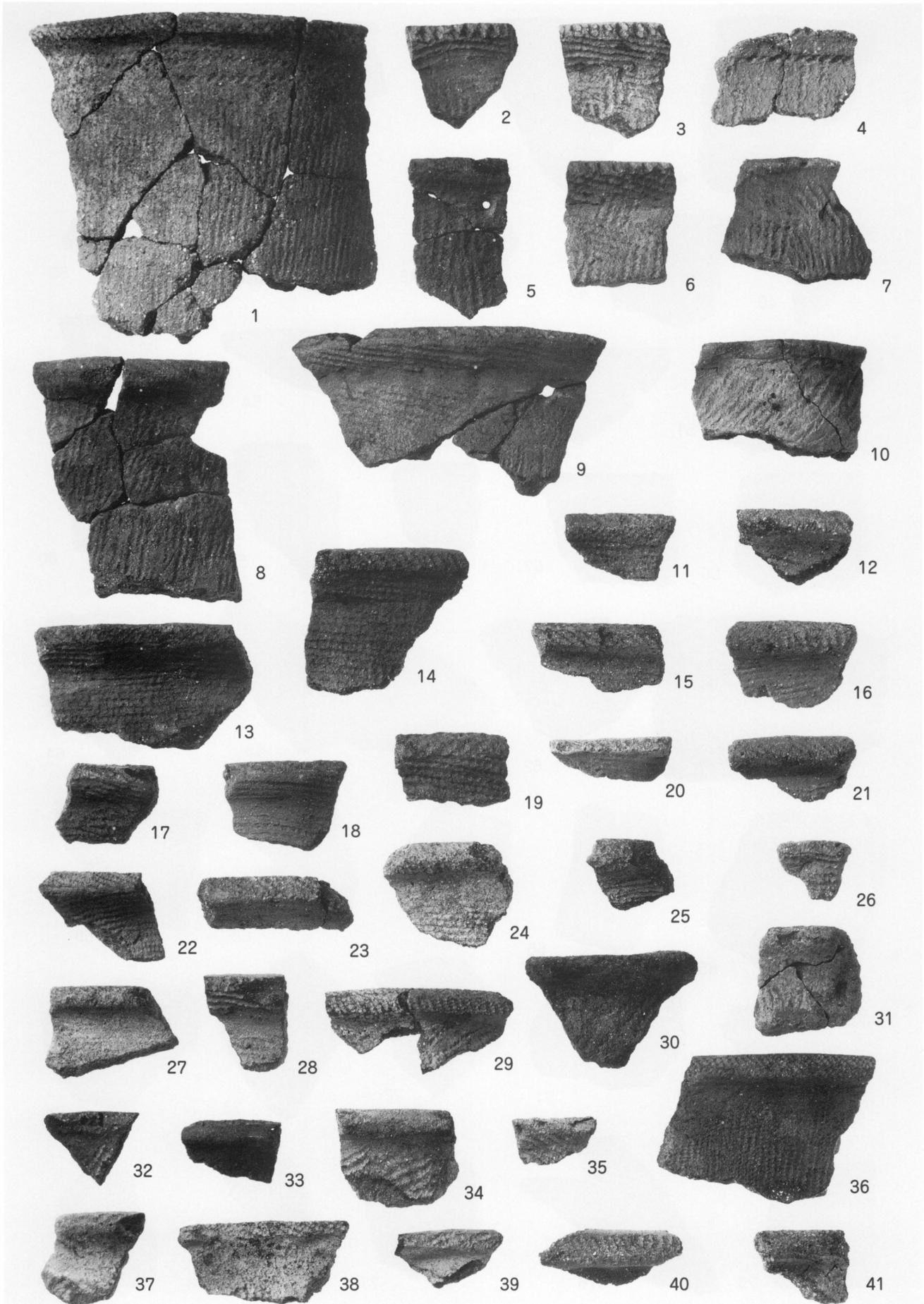
上層本調査 (2M76・77・86・87)



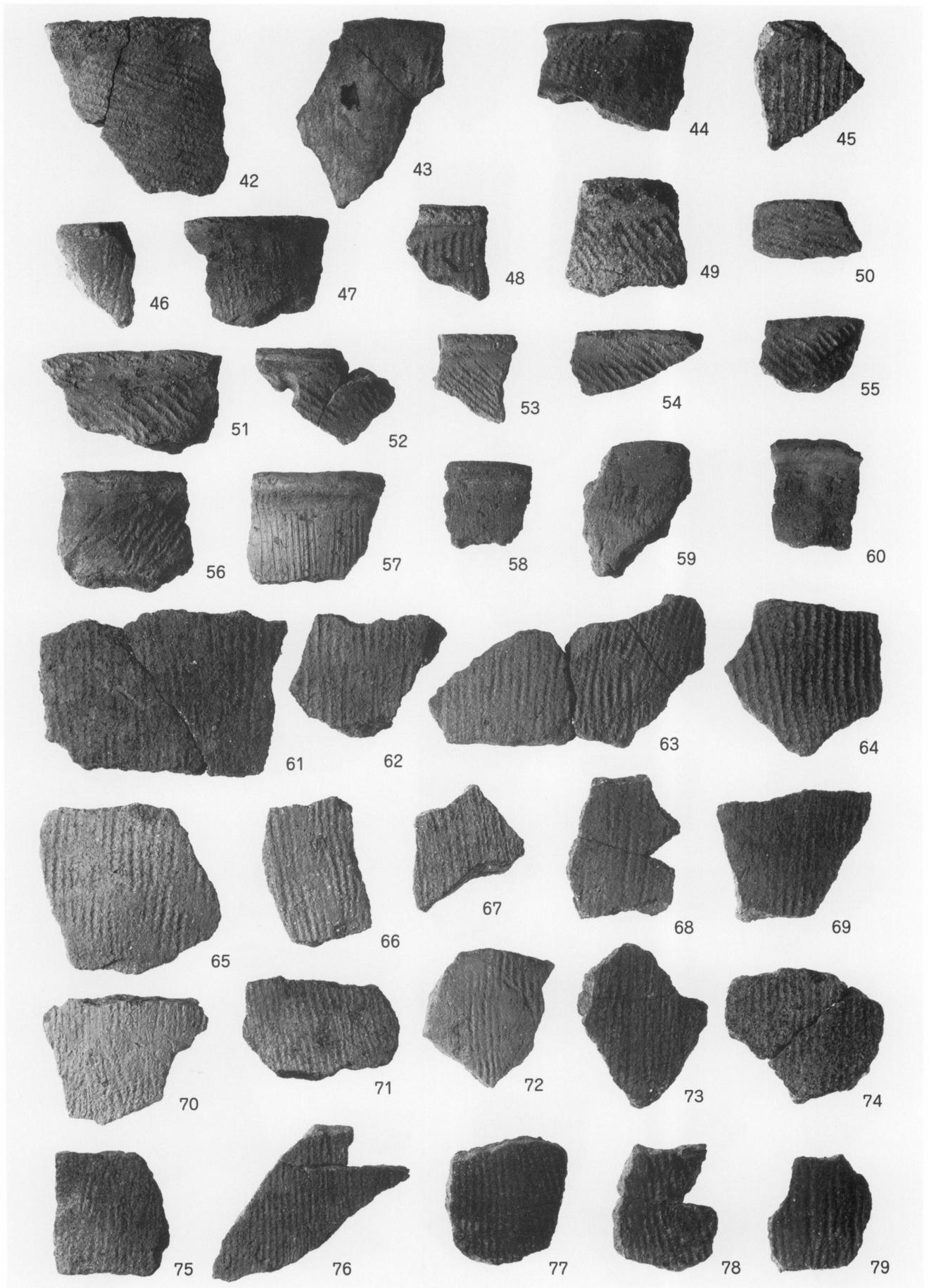
上層本調査風景 (2M)



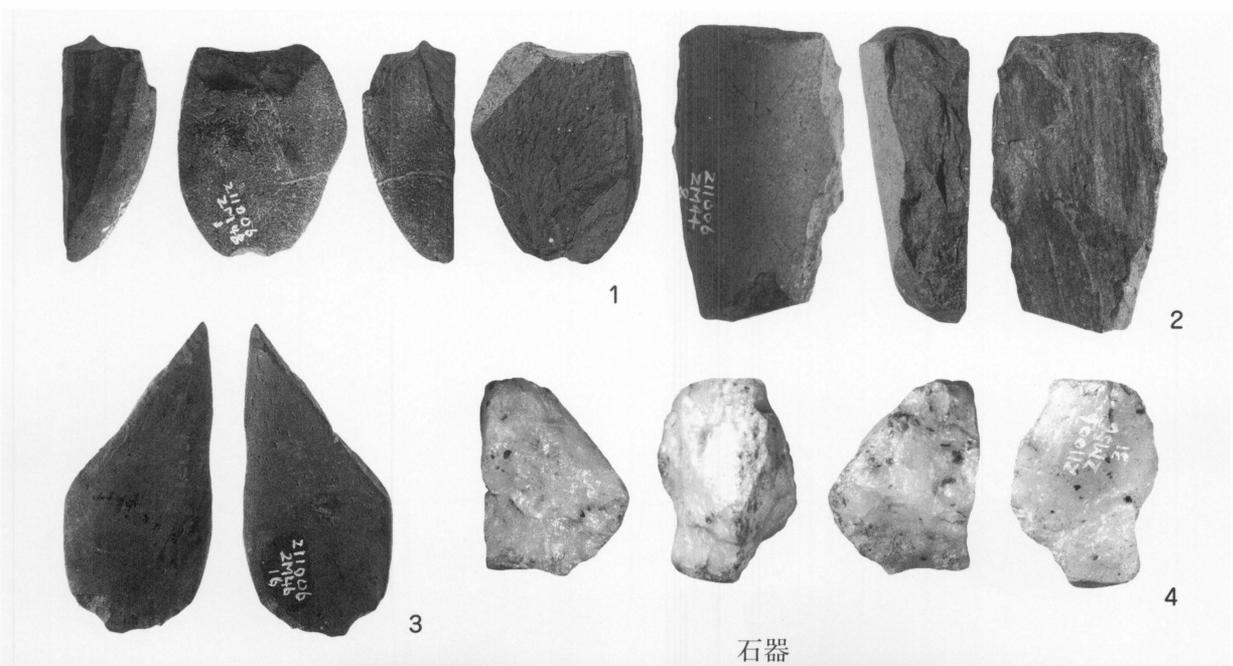
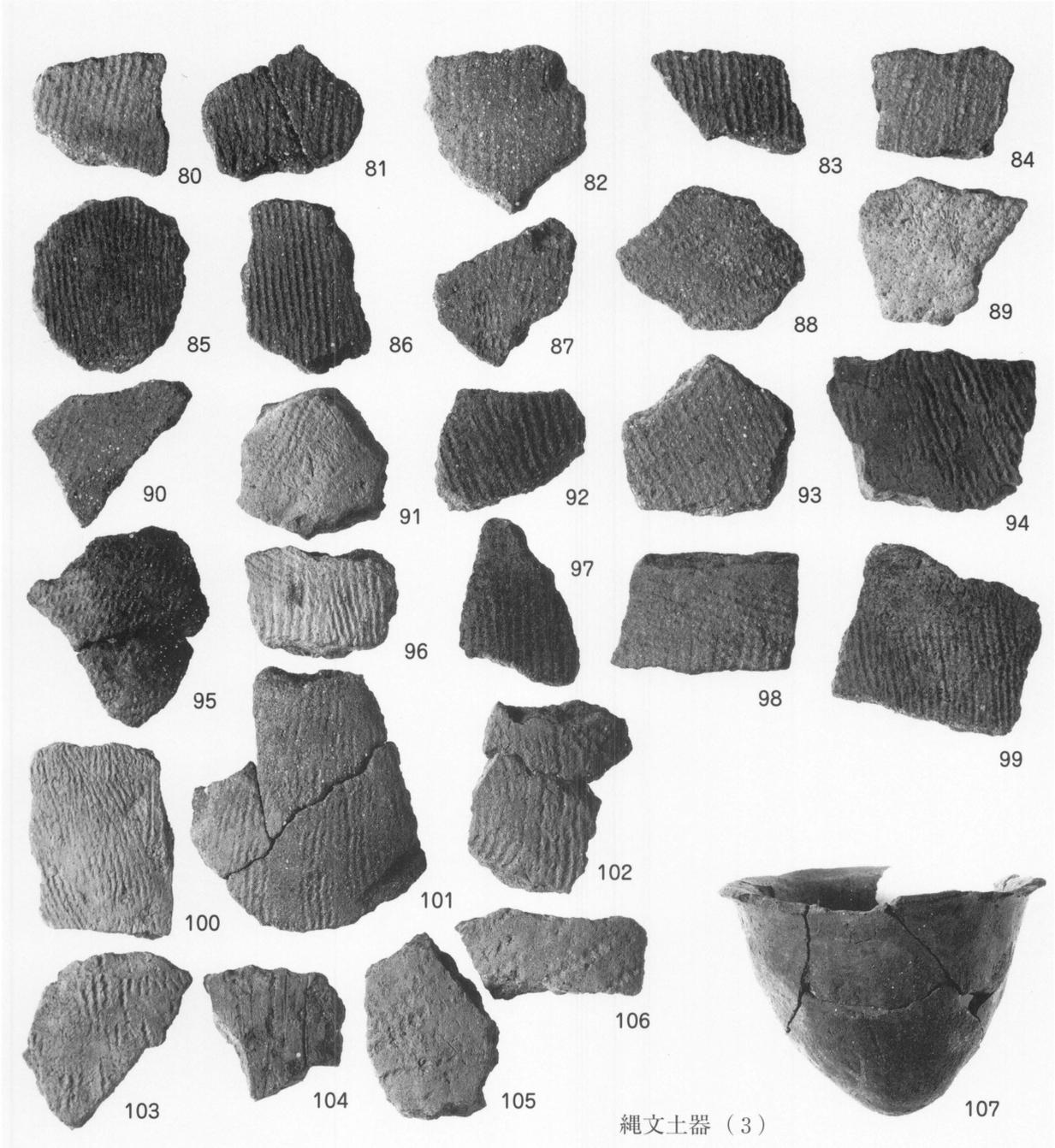
上層本調査終了風景 (2M)



縄文土器 (1)



縄文土器 (2)



## 報 告 書 抄 録

ふりがな	しんとうきょうこくさいくこうまいぞうふんかざいはくつちょうさほうこくしょ17							
書名	新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XVII							
副書名	香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）・取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）							
巻次	XVII							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第431集							
編著者名	鳴田浩司・小笠原永隆・永塚俊司							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地2 TEL043-422-8811							
発行年月日	西暦 2002年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〇'〇"	東経 〇'〇"	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かやましんでんやすどだい 香山新田安戸台 遺跡（空港No.9 遺跡）	さんぶぐんしばやままちか 山武郡芝山町香 やましんでんあざやすどだい 山新田字安戸台 128-1他	12409	026	35度 46分 00秒	140度 24分 22秒	19910401 ～0830	18,000㎡	新東京国際空 港建設に伴う 事前調査
とっこうわだど 取香和田戸遺跡 （空港No.60遺跡）	なりたしとっこうあざわ 成田市取香字和 だど 田戸地先	12211	006	35度 46分 40秒	140度 23分 48秒	20000615 ～0717	4,000㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
香山新田安戸台 遺跡（空港No.9 遺跡）	包蔵地	旧石器	石器集中地点 7地点 炭化物集中地点 1地点		ナイフ形石器, 彫刻刀形石器, 楔形石器, 削器, 搔器, 石核, 剥片 他			
		縄文	土坑 陥穴	2基 2基	撚糸文土器, 浮島式土器, 石鏃 他			
取香和田戸遺跡 （空港No.60遺跡）	包蔵地	旧石器			細石刃石核, 削器			
		縄文	早期遺物包含層		撚糸文土器, 磨製石斧			

千葉県文化財センター調査報告第431集

## 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書 XVII

香山新田安戸台遺跡（空港No.9 遺跡）・取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）

---

平成14年 3 月25日発行

編 集  
発 行

財団法人 千葉県文化財センター  
新東京国際空港公団  
成田市新東京国際空港内  
(成田市木の根字神台24)  
財団法人 千葉県文化財センター  
四街道市鹿渡809-2  
株式会社 弘 文 社  
市川市市川南2丁目7番2号

印 刷